

【第1部】第6次基本構想・第1期基本計画 (案)

I 総合計画の策定に向けて.....	4
1 はじめに	5
2 総合計画の概要と策定のポイント	6
II 第6次基本構想.....	8
1 理想の“未来”	9
2 理想の“未来”の構成要素.....	10
3 理想の“未来”の合言葉	12
4 理想の“未来”のまちづくり	13
III 第1期基本計画	16
1 基本計画について.....	17
2 分野別計画.....	27

I 総合計画の策定に向けて

1 はじめに

- ◆富士見市では、富士見市自治基本条例の基本3原則（情報の共有、市民参加、協働）に則り、市民の知恵と力を生かした豊かな自治の推進を図っています。

- ◆“まち”の将来を展望し、目指すべき目標（ゴール）に向かって、市民がともに考え、ともに行動していくことは、今後においても必要不可欠であることから、ここに第6次基本構想を策定し、基本構想実現のため、第1期基本計画を策定します。

- ◆これまでも富士見市では、恵まれた自然環境と先人が培ってきた歴史、文化を礎に、社会情勢の変化に合わせ、“まちづくり”の指針である総合計画¹に基づき、福祉や教育、都市基盤整備などの“まちづくり”を多様な市民活動とともに進めてきました。

- ◆今後の“まちづくり”においては、人口減少・少子高齢化やさらなる技術革新などにより、時代の変化は、ますます大きくなることが想定されることから、これまでの延長線上にはない新たな取組が必要となります。

- ◆今回の新たな総合計画では、“まちづくり”を持続的・効果的に進めるため、目指すべき目標（ゴール）を明確にし、共有していくことで、これまで以上に市民が一丸となり、創造性や社会経験に基づく主体的な意見を反映しながら総力を挙げて取り組むこととしています。

¹ 基本構想、基本計画、実施計画を合わせた総称

2 総合計画の概要と策定のポイント

(1) 基本構想

① 基本構想とは

- ・20年後における、理想の“未来”を定めたもの
- ・計画期間 20年（10年目に検証）

② 策定のポイント

ア 目標の共有

理想の“未来”を展望し、市民がともに目指すべき目標（ゴール）として位置づけ、策定しました。

イ 自由な発想

20年後をイメージすることで、次世代へのバトンタッチを意識し、現状の制約に縛られず自由な発想で未来を描き、策定しました。

ウ 白紙の状態からスタート

総合計画に係る市民ワークショップなどを通じ、前提条件のない白紙の状態からスタートし、策定しました。

(2) 基本計画

① 基本計画とは

- ・基本構想の実現に向け、取り組む施策を定めた行政経営の指針となるもの
- ・計画期間 5年

② 策定のポイント

ア 効果的な運用

基本計画の成果が把握できるように数値目標や KPI（成果指標）を設定し、効果的な運用ができるよう策定しました。

イ 持続可能性の確保や地方創生の実現

人口減少・少子高齢化などの課題も踏まえ、“まち”の持続可能性の確保や地方創生を実現するため、まち・ひと・しごと創生法に基づく「富士見市キラリと輝く創生総合戦略」を一体的に策定しました。

ウ 高い実行力と効率的な行政経営の実現

高い実行力と効率的な行政経営を実現するため、行財政改革の指針となる「富士見市行財政改革大綱」を基本計画と一体的に策定しました。

(3) 実施計画

① 実施計画とは

- ・基本計画の実現のため、社会情勢や財政状況を考慮し、施策の具体的な実施方法を定めたもの
- ・計画期間 3年（毎年見直し）

② 策定のポイント

ア ねらいの明確化

基本計画の目標を着実に達成するため、目的・手段・成果の関係性を整理することで、事業のねらいを明確にし、策定します。

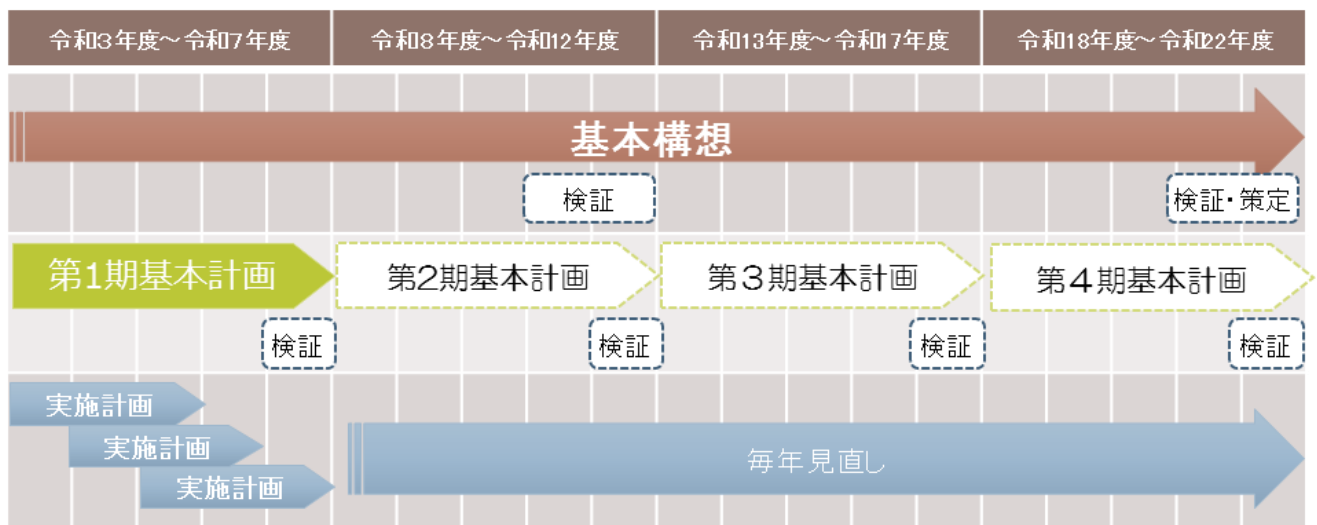
イ 役割の明確化

行政活動の漏れや重複などを排除するとともに、施策における部局横断的な連携が強化できるよう、役割を明確化し、策定します。

ウ 実行力のある行政経営の実現

予算や行政評価と連動させることにより、実行力のある行政経営が実現できるよう、策定します。

図 1 【総合計画の構成】



Ⅱ 第6次基本構想

1 理想の“未来”

私たちは、自らの歩みで

充実した日々

を送ることができる未来を目指します。

(1) 理想の“未来”とは

子や孫などの次世代へのバトンタッチを意識し、市民がともに目指す 20 年後の“まち”の将来像を、理想の“未来”として位置づけました。

(2) 充実した日々とは

楽しい、幸せ、居心地が良いなど、市民の価値観が多様化している現在において、充実の定義は様々ですが、誰もが自分らしく、充実した日々を送ることとして、位置づけました。

2 理想の“未来”の構成要素

理想の“未来”の構成要素として、「暮らし・つながり・生活環境」の3つの視点に着目しました。個人としての「暮らし」、人と人が創る「つながり」、それらを取り巻く「生活環境」、この3つの視点が円（縁）となり、未来の“まち”を形づくるものと捉えています。また、「成長の継続」が力強く“まち”全体を押し上げるとともに、各要素が相互に作用することにより、さらなる充実を図り、理想の“未来”に近づいていくことを目指しています。

(1) 理想の“未来”の3つの視点

○実りある暮らし

- ◇心身ともに健康であることは、誰もが願うことです。その願いが叶う暮らしができる“まち”を目指します。
- ◇日々の学びなどを通じ、自分自身の成長を感じ取ることができる、いきいきと喜びにあふれた暮らしができる“まち”を目指します。
- ◇他者へのやさしさを持ち、他者から必要とされる存在になるなど、生きがいのある暮らしができる“まち”を目指します。

○充たされたつながり

- ◇人と人とのつながりの基礎である家族や身近な仲間とのつながりにより、安心と安らぎに包まれ、過ごすことができる“まち”を目指します。
- ◇世代、国籍、地域などに係わらず、多様な関係性が生まれ、必要な時に、必要なコミュニケーションが取れるように、周りの人を思いやり、助け合えるつながりのある“まち”を目指します。
- ◇新たな仲間を優しく迎えることができ、多様性を受け入れる風土のある“まち”を目指します。

○恵まれた生活環境

- ◇安心・安全は、生活環境の基礎です。防災、防犯はもちろん、暮らしの安心・安全が確保された“まち”を目指します。
- ◇緑豊かな自然と都市としての利便性を財産とし、調和とバランスの取れた住みやすいまちとして、他では叶わない、「富士見市ならではの生活」が実感できる“まち”を目指します。
- ◇生活環境が充実することにより、「誰もが住みたい・住み続けたい・・・選ばれる“まち”」を目指します。

(2) “まち”を押し上げる「成長の継続」

○成長の継続

- ◇まちの経済が潤い、その潤いが新たな成長を生み出していく活力のある“まちづくり”により、さらなる充実を目指します。
- ◇まちへの愛着や誇りを増やすとともに、まちの魅力を向上させる“まちづくり”により、さらなる充実を目指します。
- ◇これまでの歴史を継承し、地の利や新たに加わる力も活かすことで、持続力のある“まちづくり”により、さらなる充実を目指します。

図 2【理想の“未来”】



“まち”を形づくる“暮らし・つながり・生活環境”を3つの円で表現し、富士山に見立てた“成長の継続”がその“まち”をさらなる高みへ押し上げ、晴れ晴れとした明るい“充実した日々”へ向かっている様子を、市章をモチーフに表しました。

3 理想の“未来”の合言葉

みんな笑顔☆ふじみ

(1) 理想の“未来”の合言葉とは

理想の“未来”である「充実した日々」の実現に向け、市民が歩みを進める際の、気持ちや姿勢を表現したものです。

(2) 理想の“未来”の合言葉に込めた思い

市民が一丸となって、理想の“未来”に向けて歩みを進める際に、「笑顔」を原動力として取り組んでいきたいという思いを込めたものです。

覚えやすい合言葉とすることで、大人から子どもまで誰もが合言葉を認識できるように、取り組んでいきたいという思いを込めたものです。

【理想の“未来”の合言葉の選定について】

- ・この合言葉は、市民ワークショップメンバーから提案をいただき、市民ワークショップメンバー、富士見市総合計画審議会委員及び総合計画等検討委員会委員による選考を経て選定されたものです。
- ・わかりやすさや覚えやすさに加え、笑顔という言葉に込められたポジティブな印象などが評価されました。

4 理想の“未来”のまちづくり

理想の“未来”を目指すにあたり、『恵まれた生活環境』や『成長の継続』などを補完するため、都市計画マスタープランと整合を図り、まちづくり（都市計画）の目標を次のとおりとします。

○生活環境が整った快適なまちづくり

- ◇本市の地理的・交通的条件、自然環境などを踏まえ、誰もが安心して快適な生活を送ることができる、歩いて暮らせるまちづくりを実現するため、人が集まる拠点づくりと拠点を結ぶネットワークづくりを進めます。
- ◇効率的で活力のある都市をつくるため、人口減少・超高齢社会に対応したコンパクトなまちづくりを進めます。

○魅力・活力が生まれる人が集まる拠点づくり

- ◇魅力とにぎわいを創り出し、まちの活力を高めるため、地域の特性を活かした人が集まる拠点づくりを進めます。
- ◇市内に位置する3つの鉄道駅周辺においては、商業・業務・行政など、日常生活の拠点にふさわしい多様な都市機能の集積と、良好なまち並みづくりを進めます。
- ◇国道沿道などにおいては、新たな産業の立地や集積を促進します。
地域活力の維持・創出を図るため、田園環境や農業生産基盤を維持しながら、自然環境と調和した秩序ある計画的な土地利用を進めます。

○安心で円滑に利用できる交通環境づくり

- ◇人口減少・超高齢社会に対応した地域づくりでは、人の流れを生み出し、対流に変えていくことが必要です。利便性、快適性を高めるために人が集まる拠点を結ぶ、誰もが安全かつ便利に移動できる交通ネットワークを構築します。
- ◇交通ネットワークの構築にあたっては、地域公共交通網の充実や歩行者や自転車が安全で快適に移動できる空間づくりに取り組みます。
- ◇交通利便性や安全性を高めるため、都市計画道路などの都市間を結ぶ広域幹線道路の整備促進や地域の拠点を結ぶ幹線道路などの整備を進めます。

○環境にやさしい水と緑のまちづくり

- ◇低地部に広がる田園地帯や点在する緑地、湧水などの自然環境は、富士見らしさを醸し出し、生活にやすらぎと潤いを与えるとともに、地球環境にもやさしい貴重な資源です。これらの多面的な機能を持続するため、公園・緑地、河川、下水道などの計画的な整備、適正な維持管理などを行い、快適な生活環境の確保に取り組み、緑と調和した計画的なまちづくりを進めます。

○災害に強い防災力の備わったまちづくり

- ◇今後想定される首都直下地震や集中豪雨による都市型水害を想定した防災対策や被災から円滑に復旧するため「復興事前準備」に取り組み、早期に都市機能が復旧する災害に強いまちをつくります。
- ◇市民協働により密集市街地での防災・減災対策に取り組み、地域の防災力の向上と防災体制の充実したまちをつくります。

Ⅲ 第 1 期基本計画

1 基本計画について

基本計画は、基本構想に定める「実りある暮らし」、「充たされたつながり」、「恵まれた生活環境」、「成長の継続」の4つ（以下「基本方針」という。）の理想の“未来”の構成要素を実現するため、行政活動を30の分野に分け、分野ごとに取り組むべき内容を整理したものです。

【分野一覧】

1	子ども・子育て支援	11	人権・男女共同参画	21	公共交通
2	子ども・若者支援	12	地域コミュニティ	22	環境
3	学校教育	13	多文化共生・国際交流	23	公園・緑
4	地域福祉	14	防犯・交通安全	24	住環境
5	高齢者福祉	15	市民相談・消費生活	25	商工
6	障がい福祉	16	土地利用	26	農業
7	健康づくり	17	道路	27	就労
8	スポーツ	18	治水	28	シティプロモーション
9	文化芸術・文化財	19	水道	29	危機管理
10	生涯学習	20	下水道	30	総合行政

(1) 分野の構成

分野に設定する項目は、基本政策、5年後の目指す姿、基本施策、主な取組及びその指標です。

設定するもの	内容
①基本政策	20年後の未来において、“市民”がどのような状態になってほしいかを設定
②5年後の目指す姿	上記基本政策の実現に向け、直近5年間における到達点を設定
数値目標	5年後の目指す姿を達成したことが把握できる指標（原則アウトカム指標 ² ）を設定
③基本施策	基本政策（5年後の目指す状態）の実現のために“行政”が取り組むべき方向性を設定
KPI ³	5年後の目指す状態を達成するための通過点となる成果指標（原則アウトカム指標）
④取組	基本施策を推進するための主な取組を設定
KSF ⁴	取組における今後5年間で達成すべき成果指標（アウトプット指標 ⁵ 中心）

² 市では、市民の方の行動変容や変化を言い表すものをアウトカム指標と整理しています。

³ KPI(Key Performance Indicator)：数値目標の達成のために重要となる施策の目標値

⁴ KSF(Key Success Factor)：KPI達成のために重要となる取組の目標値

⁵ 市では、行政が取り組んだ結果や成果をアウトプット指標と整理しています。

(2) 基本政策一覧

分野名		基本政策		暮らし	つながり	生活環境	成長
1	子ども・子育て支援	1	安心して子育てができる	○	○	○	
2	子ども・若者支援	2	夢に向かってチャレンジできる	○	○		○
3	学校教育	3	児童生徒一人ひとりが輝く	○	○		
4	地域福祉	4	住み慣れた地域での安心した心地よい暮らしの実現	○	○	○	
5	高齢者福祉	5	人生100年時代を見据えた健康長寿を目指す	○			
		6	社会（地域）参加できる		○		
		7	住み慣れた地域での継続した生活の実現		○	○	
6	障がい福祉	8	自立した生活を送ることができる	○			
		9	ともに生き、ともに支えあう		○	○	
7	健康づくり	10	心身ともに健康な状態で過ごすことができる	○		○	
8	スポーツ	11	スポーツで元気になる	○			
		12	スポーツにより交流が活性化する		○		
9	文化芸術・文化財	13	心豊かな生活を送ることができる	○	○	○	
		14	地域の歴史や伝統文化を通して地域に魅力を感じる		○		○
10	生涯学習	15	自由な学びにより生きがいができる	○	○		
11	人権・男女共同参画	16	一人ひとりが尊重され、誰もがともに活躍できる	○	○	○	
12	地域コミュニティ	17	市民が主役のまちづくり		○		
13	多文化共生・国際交流	18	外国籍市民と地域住民がつながりを持つことができる		○	○	
14	防犯・交通安全	19	犯罪が起きないまちで生活ができる			○	
		20	交通事故が起きないまちで生活ができる			○	
15	市民相談・消費生活	21	誰もが安心した生活を送ることができる			○	
16	土地利用	22	すべての世代が快適で暮らしやすいまちになる			○	○
17	道路	23	円滑な移動と安全性が確保される			○	
18	治水	24	安全な生活環境で過ごせる			○	
19	水道	25	安心して安定的な水道水を使用できる			○	
20	下水道	26	快適で安心な生活環境で過ごすことができる			○	
21	公共交通	27	安心して円滑に移動ができる			○	
22	環境	28	快適な生活環境で過ごす			○	○
		29	持続可能な生活環境で過ごす			○	○
23	公園・緑	30	人が集う（ふれあう）場が確保されている		○	○	
		31	豊富な緑の中で生活ができる			○	
24	住環境	32	良好な住環境のもとで生活ができる			○	
		33	楽しく、便利に市内で買物ができる			○	○
25	商工	34	地域経済が潤ったまちで生活できる				○
		35	安心して農業が行える		○	○	○
26	農業	36	多様な働き方の実現				○
27	就労	37	富士見市のファンが増え、賑わいが生まれる				○
28	危機管理	38	災害に強いまちと感ずることができる			○	
		39	様々な危機事案の予防と被害抑制により安全安心なまちで暮らすことができる	○	○	○	○
29	総合行政	40	市民の役に立つ所になる	○	○	○	○

(3) 基本政策とSDGs⁶

持続可能な開発目標（SDGs）を総合計画の中に取り込むことにより、その基本理念である「誰ひとり取り残さない」の観点から、社会・経済・環境の3側面のバランスの取れた政策の推進を促すことが可能となります。例えば、都市開発を進める一方、他部署において自然環境の保全に取り組むことで、全市的なバランスを保つ（政策の最適化）とともに、相乗効果によるさらなるまちづくりの推進（地域課題解決の加速化）が期待できます。このため、第1期基本計画においては、基本政策とSDGsの関係するゴールを結びつけ、その関係性を示しました。

【SDGsの17のゴール】



出典：国際連合広報センター

⁶ SDGsは2015年に国連サミットで採択された2030年までの国際目標。持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現することを目指したもの

(4) 基本政策とSDG s の関係性

分野名		基本政策		1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに
1	子ども・子育て支援	1	安心して子育てができる	○			
2	子ども・若者支援	2	夢に向かってチャレンジできる	○			○
3	学校教育	3	児童生徒一人ひとりが輝く	○			○
4	地域福祉	4	住み慣れた地域での安心した心地よい暮らしの実現				
5	高齢者福祉	5	人生 100 年時代を見据えた健康長寿を目指す			○	
		6	社会（地域）参加できる				
		7	住み慣れた地域での継続した生活の実現	○		○	
6	障がい福祉	8	自立した生活を送ることができる				
		9	ともに生き、ともに支えあう				
7	健康づくり	10	心身ともに健康な状態で過ごすことができる			○	
8	スポーツ	11	スポーツで元気になる				○
		12	スポーツにより交流が活性化する				○
9	文化芸術・文化財	13	心豊かな生活を送ることができる				○
		14	地域の歴史や伝統文化を通して地域に魅力を感じる				○
10	生涯学習	15	自由な学びにより生きがいができる				○
11	人権・男女共同参画	16	一人ひとりが尊重され、誰もがともに活躍できる				
12	地域コミュニティ	17	市民が主役のまちづくり				
13	多文化共生・国際交流	18	外国籍市民と地域住民がつながりを持つことができる				
14	防犯・交通安全	19	犯罪が起きないまちで生活ができる				
		20	交通事故が起きないまちで生活ができる			○	
15	市民相談・消費生活	21	誰もが安心した生活を送ることができる				
16	土地利用	22	すべての世代が快適で暮らしやすいまちになる				
17	道路	23	円滑な移動と安全性が確保される			○	
18	治水	24	安全な生活環境で過ごせる				
19	水道	25	安心して安定的な水道水を使用できる				
20	下水道	26	快適で安心な生活環境で過ごすことができる				
21	公共交通	27	安心して円滑に移動ができる				
22	環境	28	快適な生活環境で過ごす			○	
		29	持続可能な生活環境で過ごす				
23	公園・緑	30	人が集う（ふれあう）場が確保されている				
		31	豊富な緑の中で生活ができる				
24	住環境	32	良好な住環境のもとで生活ができる				
25	商工	33	楽しく、便利に市内で買物ができる				
		34	地域経済が潤ったまちで生活できる				
26	農業	35	安心して農業が行える		○		
27	就労	36	多様な働き方の実現				
28	シティプロモーション	37	富士見市のファンが増え、賑わいが生まれる				
29	危機管理	38	災害に強いまちと感じることができる				
		39	様々な危機事案の予防と被害抑制により安全安心なまちで暮らすことができる				
30	総合行政	40	市民の役に立つ所になる				

5 ジェンダー平等を 実現しよう	6 安全な水とトイレ を世界中に	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	8 働きがいも 経済成長も	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	10 人や国の不平等 をなくそう	11 住み続けられる まちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に 具体的な対策を	14 海の豊かさを 守ろう	15 陸の豊かさも 守ろう	16 平和と公正を すべての人に	17 パートナーシップで 目標を達成しよう
						○						
○												
						○					○	○
			○									○
			○									○
					○							○
												○
												○
			○									○
						○						○
○					○							○
						○						○
					○	○					○	○
					○	○					○	○
			○			○						
				○		○		○				
	○			○		○	○					
	○					○		○	○			
						○						○
		○				○	○	○	○	○		○
						○	○			○		
						○						○
			○	○			○					
			○	○								
○			○		○							
			○	○								○
						○						○
			○	○		○						○
											○	○

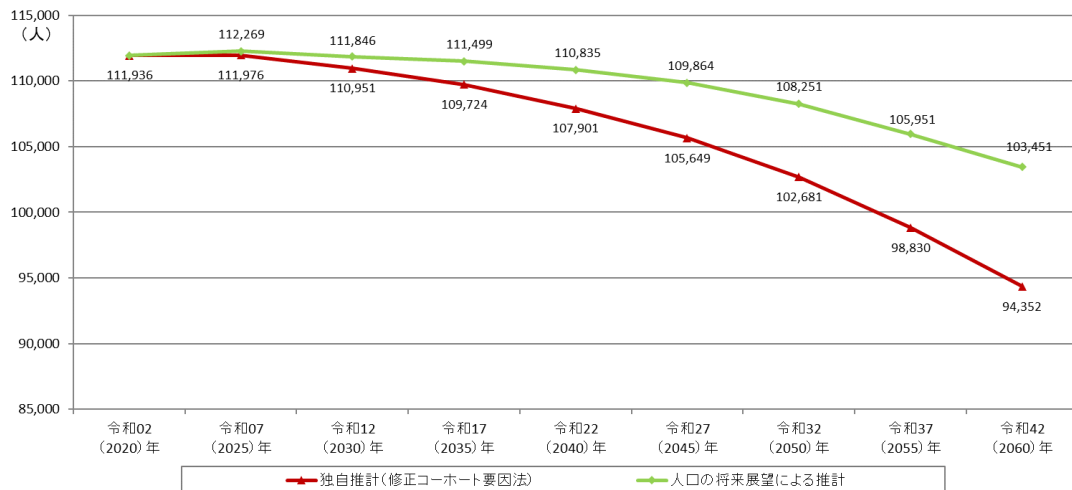
(5) 人口の推計（人口ビジョンより抜粋）

令和 2 年 5 月に策定した人口ビジョンの独自推計では、市の人口は、令和 7（2025）年をピークに人口が減少しはじめ、令和 42（2060）年には、94,352 人と 10 万人を大きく下回ると推計しています。

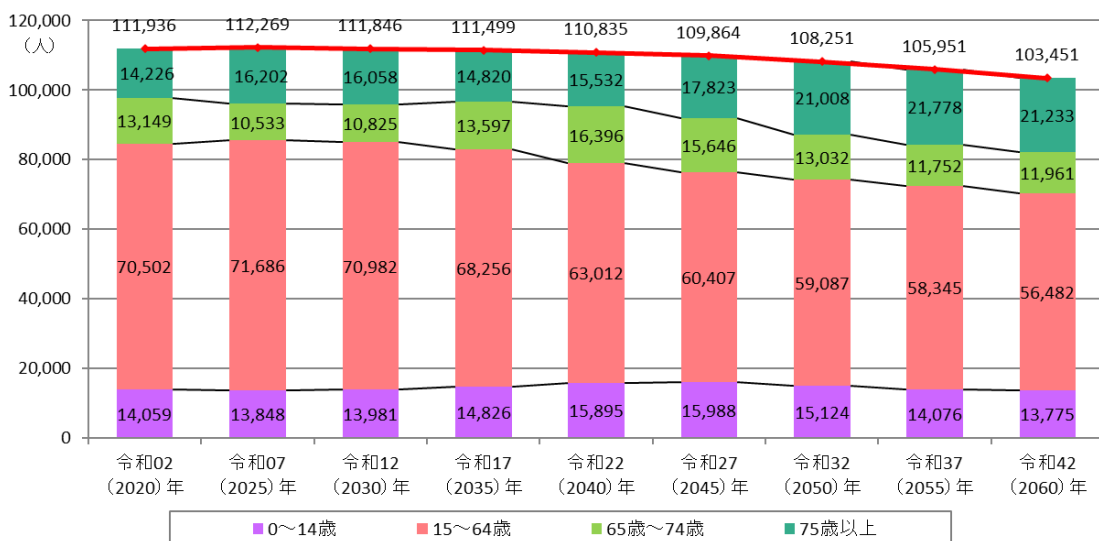
これに対し、令和 42（2060）年までに市民の希望出生率⁷（2.0）を達成することとした場合の展望人口数は、令和 42（2060）年の人口は、103,451 人となる見込みです。

計画期間である令和 7（2025）年までについては、年少人口（0 歳～14 歳）は減少傾向にあり、高齢者のうち前期高齢者（75 歳未満）は減少するものの、後期高齢者（75 歳以上）は増加することが予想されます。

【独自推計と人口の将来展望による推計の比較】



【将来展望人口の 4 区分別人口の推移】



⁷ 結婚して子どもを産みたいという人の希望が叶えられた場合の出生率

(6) まちづくり構想

まちづくり構想は、都市計画マスタープランの目指すべき都市像の実現に向け、今後 5 年間のまちづくりの方向性を示したものです。市街地や集落地などの広がりを示す「土地利用」、商業や産業などの都市機能が集約する「拠点」、幹線道路や河川などの線的に伸びる「軸」により構成します。

土地利用

市街化区域では、全ての世代が暮らしやすい、歩いて暮らせるまちづくりを実現するため、地域公共交通網を充実し、利便性が高い市街地の魅力の維持・向上を図ります。市街化調整区域では国道 254 号バイパス沿道などの本市のまちづくり発展のエンジンとなる産業系を中心とした都市的土地利用の検討、生産基盤と景観面で重要な役割を持つ田園地帯や集落地の保全を進めます。

拠点

① 駅周辺拠点

- ◇市内に位置する 3 つの鉄道駅周辺は、商業、業務、行政、医療、福祉施設など、日常生活の拠点にふさわしい多様な都市機能を集積し、周辺の住環境に配慮しつつ中高層の都市型居住を進め、機能強化を図ります。
- ◇まちの玄関口にふさわしい良好な街並みの形成を図ります。

② 広域商業拠点

- ◇広域圏を対象とした大規模な商業機能の維持を図り、市内外から人が集まる拠点を形成します。

③ 産業拠点

- ◇シティゾーンのうち、国道 254 号バイパスの東側エリアや水谷柳瀬川ゾーンでは、産業をはじめとした複合施設の立地を誘導し、本市を代表する新たな活力を創出する拠点を形成します。

④ 行政・文化拠点

- ◇多くの市民が集まり、文化・芸術などを通じて交流できる拠点を形成します。

⑤自然・交流拠点

◇難波田城公園、水子貝塚公園など市民や周辺都市の住民が自然や歴史などをはじめとした地域資源とふれあい、交流を促進する拠点を形成します。

⑥びん沼自然公園

◇びん沼自然公園では、スポーツやレクリエーションなどを通じた交流を促進する拠点を形成します。

軸

①道路交通軸

◇隣接する都市間を結ぶ広域幹線道路や地域間を結ぶ幹線道路などが、産業、文化、自然、歴史などと様々な対流を創出する軸を形成します。

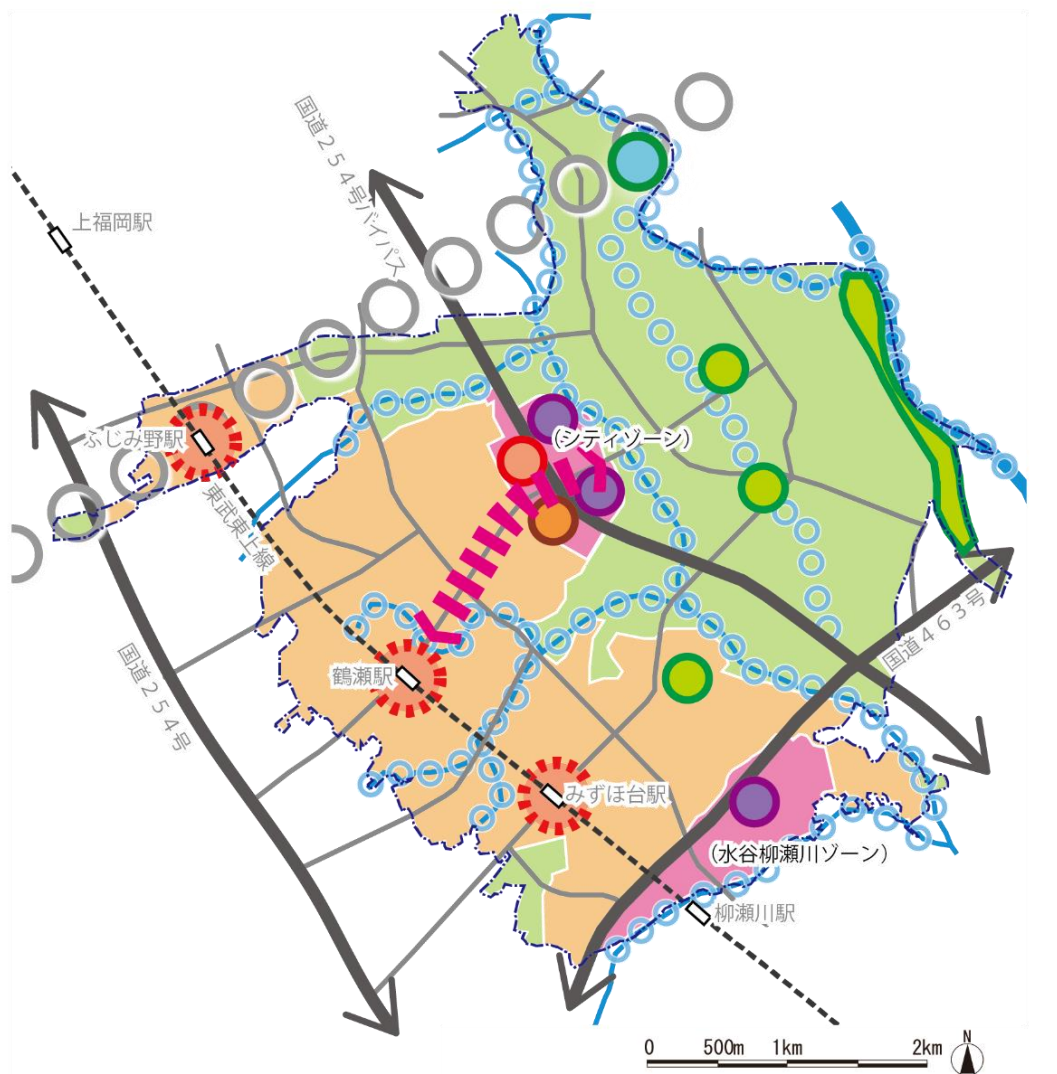
②都市交流軸

◇市の玄関口とシティゾーンを結ぶシンボル空間を形成します。

③水と緑の軸

◇河川や湧水、サイクリングコースなどをつなぎ、誰もが身近に水と緑の環境に親しむことのできる、やすらぎのある空間を形成します。

【まちづくり構想図】



<土地利用>

- 市街化区域
- 市街化調整区域

(計画的な土地利用の推進)

- シティゾーン、水谷柳瀬川ゾーン

<拠点>

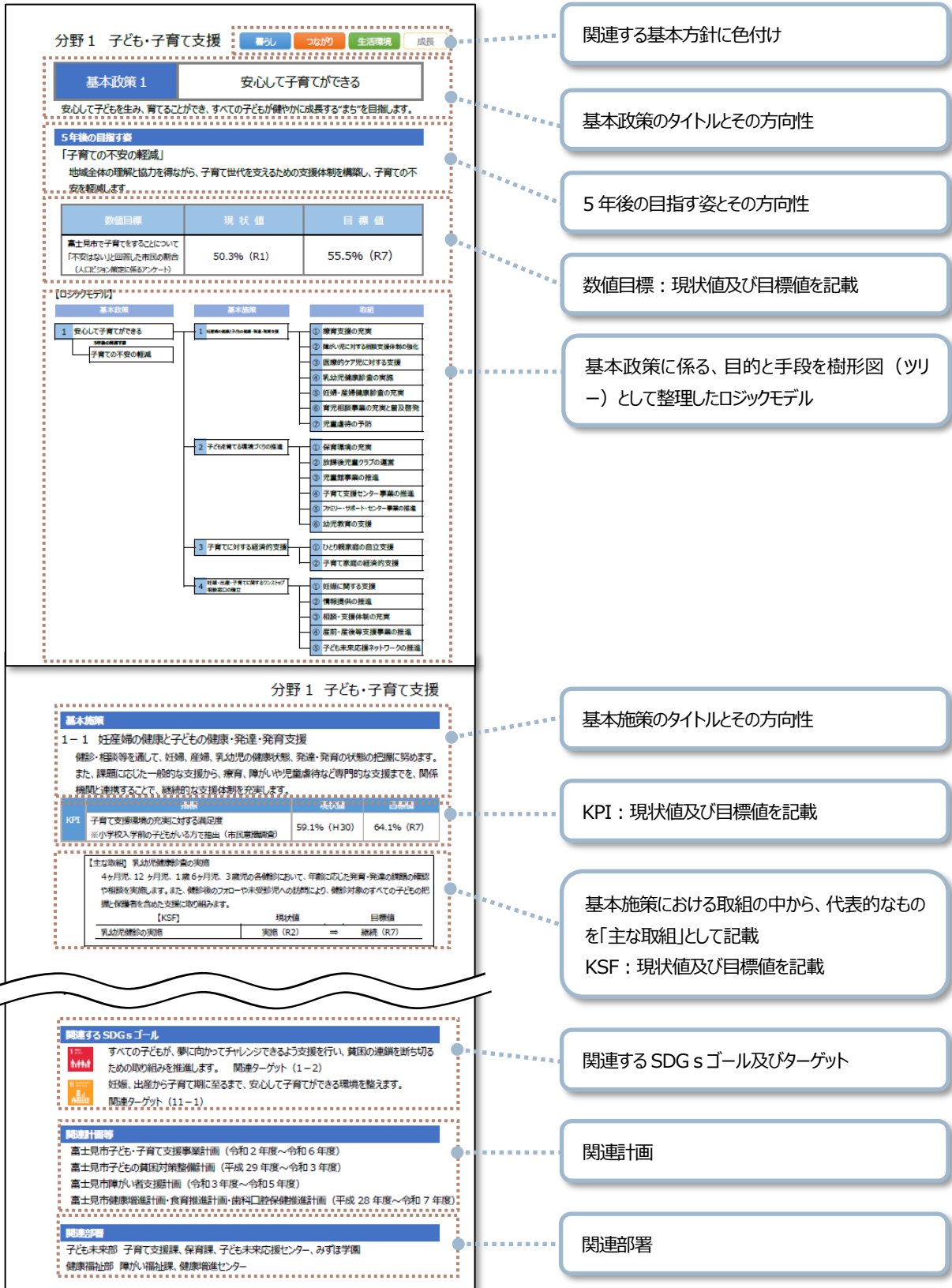
- 駅周辺拠点
- 広域商業拠点
- 産業拠点
- 行政・文化拠点
- 自然・交流拠点
- びん沼自然公園

<軸>

- (道路交通軸)
- 核都市広域幹線道路
 - 広域幹線道路
 - 幹線道路
 - 都市交流軸
 - 水とみどりの軸
 - 行政界(市域界)
 - 鉄道駅
 - 河川

(7) 基本政策ごととページの構成

- ・基本政策と基本施策の関係は、目的-手段となり、基本施策と取組の関係も目的-手段となっています。



関連する基本方針に色付け

基本政策のタイトルとその方向性

5年後の目指す姿とその方向性

数値目標：現状値及び目標値を記載

基本政策に係る、目的と手段を樹形図（ツリー）として整理したロジックモデル

基本施策のタイトルとその方向性

KPI：現状値及び目標値を記載

基本施策における取組の中から、代表的なものを「主な取組」として記載
KSF：現状値及び目標値を記載

関連するSDGsゴール及びターゲット

関連計画

関連部署

2 分野別計画

NO	分野名	ページ	NO	分野名	ページ
1	子ども・子育て支援	28 ~ 31	16	土地利用	108 ~ 111
2	子ども・若者支援	32 ~ 35	17	道路	112 ~ 115
3	学校教育	36 ~ 39	18	治水	116 ~ 119
4	地域福祉	40 ~ 43	19	水道	120 ~ 123
5	高齢者福祉	44 ~ 55	20	下水道	124 ~ 127
6	障がい福祉	56 ~ 63	21	公共交通	128 ~ 131
7	健康づくり	64 ~ 69	22	環境	132 ~ 139
8	スポーツ	70 ~ 77	23	公園・緑	140 ~ 147
9	文化芸術・文化財	78 ~ 85	24	住環境	148 ~ 151
10	生涯学習	86 ~ 89	25	商工	152 ~ 157
11	人権・男女共同参画	90 ~ 91	26	農業	158 ~ 161
12	地域コミュニティ	92 ~ 95	27	就労	162 ~ 165
13	多文化共生・国際交流	96 ~ 99	28	シティプロモーション	166 ~ 169
14	防犯・交通安全	100 ~ 105	29	危機管理	170 ~ 177
15	市民相談・消費生活	106 ~ 107	30	総合行政	178 ~ 180

基本政策 1 **安心して子育てができる**

安心して子どもを生み、育てることができ、すべての子どもが健やかに成長する“まち”を目指します。

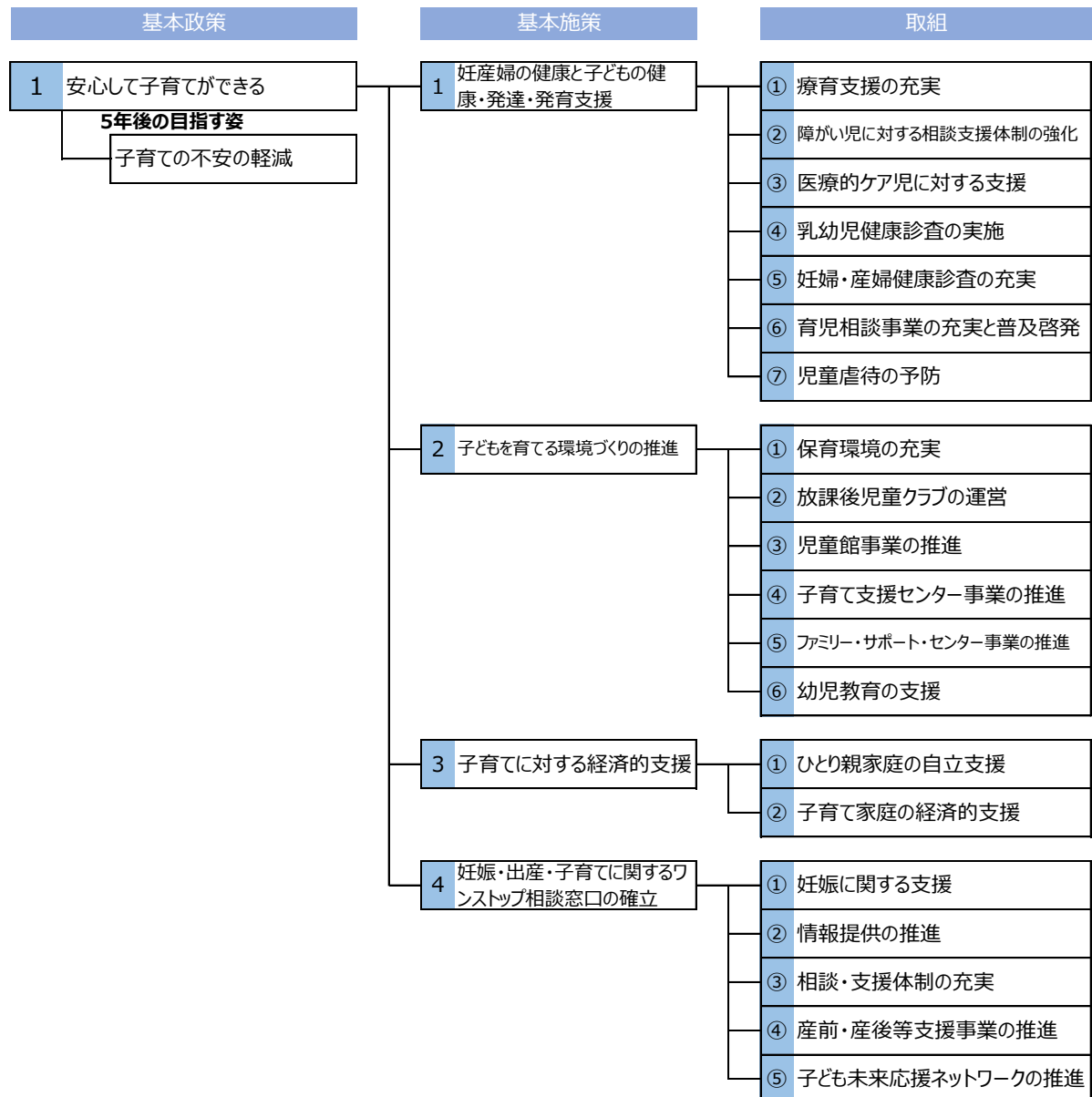
5年後の目指す姿

「子育ての不安の軽減」

地域全体の理解と協力を得ながら、子育て世代を支えるための支援体制を構築し、子育ての不安を軽減します。

数値目標	現状値	目標値
富士見市で子育てをすることについて「不安はない」と回答した市民の割合 (人口ビジョン策定に係るアンケート)	50.3% (R1)	55.5% (R7)

【ロジックモデル】



分野 1 子ども・子育て支援

基本施策

1-1 妊産婦の健康と子どもの健康・発達・発育支援

健診・相談等を通して、妊婦、産婦、乳幼児の健康状態、発達・発育の状態の把握に努めます。また、課題に応じた一般的な支援から、療育、障がいや児童虐待など専門的な支援までを、関係機関と連携することで、継続的な支援体制を充実します。

	指標	現状値	目標値
KPI	子育て支援環境の充実に対する満足度 ※小学校入学前の子どもがいる方で抽出（市民意識調査）	59.1%（H30）	64.1%（R7）

【主な取組】 乳幼児健康診査の実施

4ヶ月児、12ヶ月児、1歳6ヶ月児、3歳児の各健診において、年齢に応じた発育・発達の課題の確認や相談を実施します。また、健診後のフォローや未受診児への訪問により、健診対象のすべての子どもの把握と保護者を含めた支援に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
乳幼児健診の実施	実施（R2） ⇒	継続（R7）

1-2 子どもを育てる環境づくりの推進

保育所や放課後児童クラブの整備のほか、子育てに関する情報提供やファミリー・サポート・センター⁸など、市民の力を活かした支援等により、子どもを育てる環境づくりを総合的に推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	保育サービスなどの充実に対する満足度 ※中学生までの子どものいる方で抽出（市民意識調査）	47.9%（H30）	57.9%（R7）

【主な取組】 保育環境の充実

待機児童の解消を目指し、保育所の整備等に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
保育所待機児童数	27人（R2） ⇒	0人（R7）

⁸ 子育ての手助けをしたい人（提供会員）と、手助けをして欲しい人（依頼会員）が会員になって、地域で子育てを助け合っていくシステム

分野 1 子ども・子育て支援

1-3 子育てに対する経済的支援

医療費の助成や手当の支給等により、子育て家庭への経済的な負担の軽減を図ります。

	指標	現状値	目標値
KPI	子育て支援環境の充実に対する満足度 ※中学生までの子どもがいる方で抽出（市民意識調査）	61.8%（H30）	66.8%（R7）

【主な取組】ひとり親家庭の自立支援 経済的な援助のほか、就労のための支援などを合わせて推進することで、ひとり親家庭の安定した自立への支援に取り組みます。		
【KSF】	現状値	目標値
児童扶養手当の受給資格者のうち、本人の所得が所得制限以上のため、受給していない人の数	77人（R1）	⇒ 112人（R7）

1-4 妊娠・出産・子育てに関するワンストップ相談窓口の確立

妊娠・出産から子育て期に至るまで、切れ目のない支援体制を実現するため、相談及び支援体制の拡充により、ワンストップ相談窓口の確立を目指します。

	指標	現状値	目標値
KPI	「子育て（教育を含む）をするうえで、相談できる人（場所）はありますか。」の設問に「いる/ある」と回答した人の割合 （子育て支援に関するアンケート調査）	92.7%（R1）	97.0%（R7）

【主な取組】相談・支援体制の充実 妊娠・出産・子育てに関する支援のため、保健師などの専門職員を配置し、必要な支援に気づき、関係機関や地域との連携を図りながら、適切な相談・支援へつなげます。		
【KSF】	現状値	目標値
関係機関へ“気づき・つなぐマニュアル”の利用に関する説明の実施	16回（R1）	⇒ 22回（毎年度実施）
子ども未来応援センターが出席したケース会議 ⁹ の回数	18回（R1）	48回（R7）

⁹ 目の前にいる支援を必要としている子どもの事例に対し、支援方針と役割分担を決定するための会議

分野 1 子ども・子育て支援

関連する SDGs ゴール



すべての子どもが、夢に向かってチャレンジできるよう支援を行い、貧困の連鎖を断ち切るための取組を推進します。 関連ターゲット (1-2)



妊娠、出産から子育て期に至るまで、安心して子育てができる環境を整えます。
関連ターゲット (11-1)

関連計画等

富士見市子ども・子育て支援事業計画 (令和 2 年度～令和 6 年度)

富士見市子どもの貧困対策整備計画 (平成 29 年度～令和 3 年度)

富士見市障がい者支援計画 (令和 3 年度～令和 5 年度)

富士見市健康増進計画・食育推進計画・歯科口腔保健推進計画 (平成 28 年度～令和 7 年度)

関連部署

子ども未来部 子育て支援課、保育課、子ども未来応援センター、みずほ学園

健康福祉部 障がい福祉課、健康増進センター

基本政策 2

夢に向かってチャレンジできる

子どもや若者が社会生活を円滑に営むことができ、夢や目標に向かってチャレンジできる“まち”を目指します。

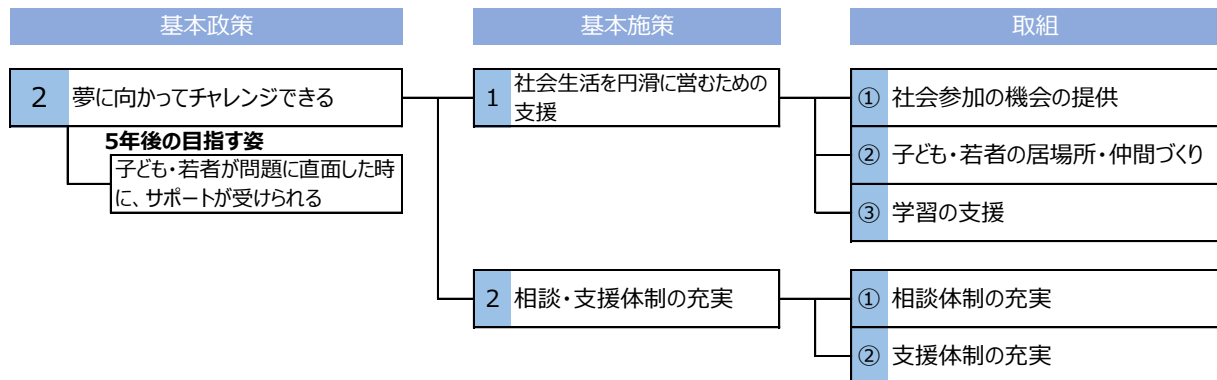
5年後の目指す姿

「子ども・若者が問題に直面した時に、サポートが受けられる」

子どもや若者が、学校生活や学業、就労などの不安や悩みを抱え込んでしまわないよう、サポートが受けられることを目指します。

数値目標	現状値	目標値
サポート（関わり）を持った子ども・若者数	—	延べ8人/年（R7）

【ロジックモデル】



分野 2 子ども・若者支援

基本施策

2-1 社会生活を円滑に営むための支援

就労体験などの社会参加の機会の提供や、居場所・仲間づくりのための活動等の支援など、社会生活を円滑に営むための支援を充実します。

KPI	指標	現状値	目標値
	子ども・若者の居場所活動回数	延べ 490 回/年 (R1)	延べ 624 回/年 (R7)

【主な取組】 子ども・若者の居場所・仲間づくり

身近に利用できる子ども食堂や若者の居場所活動などに取り組む団体を支援します。

【KSF】	現状値	目標値
子どもの居場所数（子ども食堂、学習支援教室、プレイパーク、若者支援の居場所数の合計）	16ヶ所 (R2)	⇒ 22ヶ所 (R7)

2-2 相談・支援体制の充実

子ども・若者の不安や悩みなどをサポートするため、若者のための学び直し相談や支援のためのネットワーク強化など相談・支援体制を充実します。

KPI	指標	現状値	目標値
	若者のための学び直し相談件数	4 件/年 (R1)	12 件/年 (R7)

【主な取組】 支援体制の充実

民間団体や地域団体との支援のためのネットワークの推進や、子ども未来応援基金¹⁰の PR 活動などに取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
若者支援を希望するサポーターの登録件数	延べ 42 件 (R2)	⇒ 延べ 92 件 (R7)

¹⁰ 子ども・若者が地域で安心して過ごすことのできる居場所づくり事業を、応援するための基金

分野 2 子ども・若者支援

関連する SDGs ゴール



生活困難な子ども・若者に気づき、適切な支援へ繋げ、貧困の連鎖を断ち切るための取組を推進します。 関連ターゲット (1-2)



すべての子ども・若者が、自らの希望に応じて学習の機会を平等に得られるための支援を行います。 関連ターゲット (4-6、4-7)

関連計画等

富士見市子どもの貧困対策整備計画 (平成 29 年度～令和 3 年度)

関連部署

子ども未来部 保育課、子ども未来応援センター

健康福祉部 福祉課

教育委員会 生涯学習課

分野 2 子ども・若者支援

基本政策 3

児童生徒一人ひとりが輝く

「確かな学力・豊かな心・健やかな体」のバランスのとれた「生きる力」の育成に努め、子どもたち一人ひとりを認め、励まし、ほめる教育を行うことにより、児童生徒の夢と希望が育まれる“まち”を目指します。

5年後の目指す姿

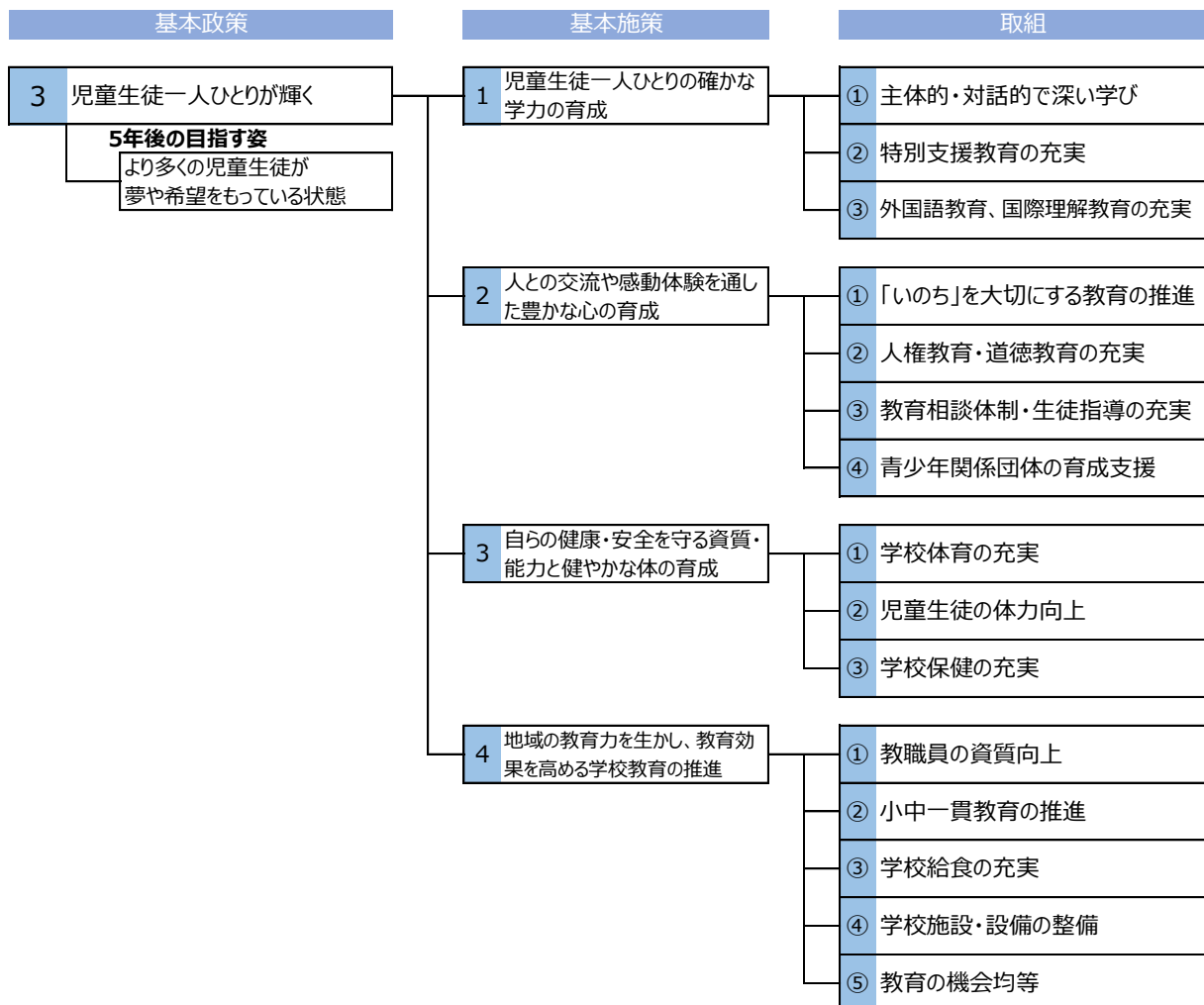
「より多くの児童生徒が夢や希望をもっている状態」

児童生徒が、楽しく学び、考え、自らの力で問題を解決したり、新たな課題を創り出したりするなど、主体的に物事と関わり、夢や希望をもっている状態を目指します。

数値目標	現 状 値	目 標 値
「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に「当てはまる」と回答した割合 (全国学力・学習状況調査)	小6 72.8% 中3 69.3% (R1)	小6 78.0% 中3 75.0% (R7)

※上記「小」とは小学生を表し、「中」とは中学生を表しています。以下この分野において同じ。

【ロジックモデル】



基本施策

3-1 児童生徒一人ひとりの確かな学力の育成

「何を学ぶか」という学習内容を明確にし、「どのように学ぶか」という学びの過程を質的に高め、児童生徒一人ひとりの確かな学力を育成します。

	指標	現状値	目標値
KPI	思考力・判断力・表現力の向上 (県学力・学習状況調査の伸びの合計の県平均との比較)	小△1ポイント 中+2ポイント (R1)	小+2ポイント 中+5ポイント (R7)

【主な取組】 主体的・対話的で深い学び 児童生徒が、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けられるよう、STEM 教育 ¹¹ 等を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現に向け取り組みます。		
【KSF】	現状値	目標値
「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」に肯定的に回答した割合 (全国学力・学習状況調査)	小 74.7% 中 79.2% (R1) ⇒	小 90.0% 中 90.0% (R7)

3-2 人との交流や感動体験を通した豊かな心の育成

児童生徒の豊かな人間性や社会性を育むため、人との交流や感動体験を通して、認められ励まされ褒められることで自尊感情を育てる教育を推進し、豊かな心を育成します。

	指標	現状値	目標値
KPI	いじめの解消率 (問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査)	小 70.0% 中 87.3% (R1)	100% (R7)

【主な取組】 人権教育・道徳教育の充実 自分を大切にするとともに、他者を尊重する態度を育て、豊かな人権感覚を身に付けた児童生徒を育成します。		
【KSF】	現状値	目標値
「規律ある態度」(できる、だいたいできる)の項目数 (県学力・学習状況調査)	85/96 項目 (R1) ⇒	96/96 項目 (R7)

¹¹ STEMとは、Science (科学) , Technology (技術) , Engineering (工学) , Mathematics (数学) の頭文字であり、これらを統合的に学び、ロボットや IT 技術に触れて「自分で学ぶ力」を養う教育方法

分野 3 学校教育

3-3 自らの健康・安全を守る資質・能力と健やかな体の育成

児童生徒一人ひとりが運動の楽しさや喜びを味わうことで、健やかな体を育成するとともに、健康・安全について、実践的に理解できるようにします。

	指標	現状値	目標値
KPI	新体力テスト ¹² (A+B+C)の児童生徒の割合の県平均との比較	小△5.1ポイント 中+0.3ポイント (R1)	小 ±0ポイント 中 +3ポイント (R7)

【主な取組】 学校体育の充実

生涯にわたって運動に親しむ資質・能力の育成を図るとともに、運動好きな児童生徒を育てる体育授業を推進するなど、学校体育の充実に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
「体育の授業は楽しい」と回答した割合の県平均との比較 (全国体力・運動能力運動習慣等調査)	小 男子△4.1ポイント	小 男子±0ポイント
	小 女子△8.5ポイント	小 女子±0ポイント
	中 男子△4.6ポイント	中 男子±0ポイント
	中 女子△2.4ポイント	中 女子+3ポイント

(R1) ⇒ (R7)

3-4 地域の教育力を生かし、教育効果を高める学校教育の推進

児童生徒が安心して通うことができ、保護者・地域から信頼される学校教育を推進するとともに、安全で快適な教育環境を整備します。

	指標	現状値	目標値
KPI	「学校に行くのが楽しい」と回答した割合 (全国学力・学習状況調査)	小 80.3% 中 80.3% (R1)	小 90.0% 中 90.0% (R7)

【主な取組】 教職員の資質向上

若手教員育成指導員¹³による指導の充実や学校研究等を通して、教職員の指導力向上に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
「国語の授業がよくわかる」と回答した割合 (全国学力・学習状況調査)	小 80.2% (R1)	小 90.0% (R7)

⇒

¹² 国民の体力・運動能力の現状を把握するため、文部科学省が実施する運動能力調査。各調査項目を点数化し、合計点数によりA～Eの5段階で評価とするもの

¹³ 若手教員の指導力向上のために指導にあたる校長のOB等

関連する SDGs ゴール



児童生徒一人ひとりが適切な教育機会に恵まれるとともに、自尊感情が育まれる教育を推進します。 関連ターゲット (1-2)



理数教育や ICT 教育など、科学的思考力の育成に努め、自己教育力を育成します。 関連ターゲット (4-1、4-4)



「特別な教科 道徳」の授業を要とした道徳教育を推進します。 関連ターゲット (5-5、5-c)

関連計画等

第2次富士見市教育振興基本計画 (平成30年度～令和4年度)

関連部署

市民生活部 人権・市民相談課

子ども未来部 子育て支援課

教育委員会 教育政策課、学校教育課、教育相談室、学校給食センター

基本政策 4

住み慣れた地域での安心した
心地よい暮らしの実現

市民が、生活の拠点である住み慣れた地域に根ざし、ともに支え合いながら、安心・充実した生活を送ることで、心地よい暮らしが実現できる“まち”を目指します。

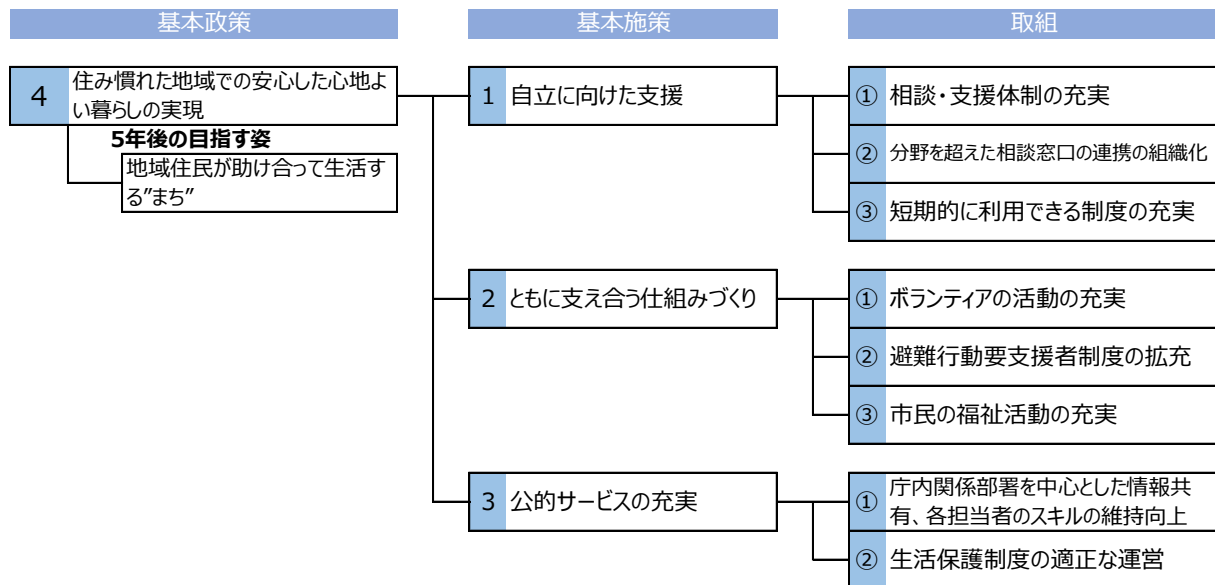
5年後の目指す姿

「地域住民が助け合って生活する“まち”」

地域住民、福祉関係機関等様々な人や団体が、助け合いながら生活できる住みよい“まち”を目指します。

数値目標	現状値	目標値
市の福祉施策（福祉のまちづくり）に関する満足度（市民意識調査）	56.1%（H30）	70.0%（R7）

【ロジックモデル】



基本施策

4-1 自立に向けた支援

一人ひとりが、安心して生活を送ることができるよう支援し、自立できることを目指します。

KPI	指標	現状値	目標値
	生活保護制度における保護率	1.6% (H30)	1.3% (R7)

【主な取組】 相談・支援体制の充実

生活サポートセンター☆ふじみ¹⁴にて行われている生活困窮者、その家族等への相談・支援体制を充実します。

【KSF】	現状値	目標値
生活サポートセンター☆ふじみでのプラン作成件数	56 件/年 (H30)	⇒ 80 件/年 (R7)

4-2 ともに支え合う仕組みづくり

市民同士、市民と福祉関係機関等様々な人や団体が、住みよい“まち”となることを目指し、ともに支え合う仕組みづくりを進めます。

KPI	指標	現状値	目標値
	地域活動への参加状況（参加したことがない） （市民意識調査）	40.1% (H30)	38.5% (R7)

【主な取組】 避難行動要支援者制度の拡充

災害時に自力で避難することが困難な方が、地域での支え合いにより避難できるよう、制度の拡充に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
年間外部提供同意者 ¹⁵ 数	50 人 (H30)	⇒ 75 人 (R7)

¹⁴ 仕事や生活費などでお困りの方に対して、専門のスタッフが相談に応じ自立に向けた支援を行う機関

¹⁵ 避難行動要支援者名簿対象者のうち、支援機関等に情報提供することに同意していただいた方

分野 4 地域福祉

4-3 公的サービスの充実

自らの力や地域での支え合いだけでは解決できない生活課題に対し、その課題に合ったサービスを適用できるように関係部署との連携強化などを行うことで、公的サービスを充実します。

KPI	指標	現状値	目標値
	ケースワーカーの月平均訪問件数（一人当たり）	18.2 件（R1）	20.0 件（R7）

【主な取組】 庁内関係部署を中心とした情報共有、各担当者のスキルの向上

公的サービスを必要とする方が、適切なサービスを利用できるよう関係部署間での情報共有や各担当者のスキルの向上を図っていきます。

【KSF】	現状値	目標値
担当者勉強会の回数	8 回/年（R1）	⇒ 12 回/年（R7）

関連する SDG s ゴール



災害時に脆弱な立場にある人が、地域の支え合いにより避難行動が取れるシステムを拡充していきます。 関連ターゲット（11-5）



地域の支え合い、適切な公助の適用等により虐待による暴力の低下に寄与していきます。 関連ターゲット（16-1、16-2）



民生委員・児童委員や社会福祉協議会、社会福祉活動団体など地域福祉活動の担い手との連携を強化し、ともに生きるまちづくりに取り組みます。 関連ターゲット（17-17）

関連計画等

第3次富士見市地域福祉計画（令和3年度～令和7年度）

関連部署

健康福祉部 福祉課

基本政策 5

人生 100 年時代を見据えた健康長寿を目指す

住み慣れた地域で自分らしい自立した在宅生活を送るために、活動的に過ごすことで心身機能の維持・向上に努め、健康長寿を実現する“まち”を目指します。

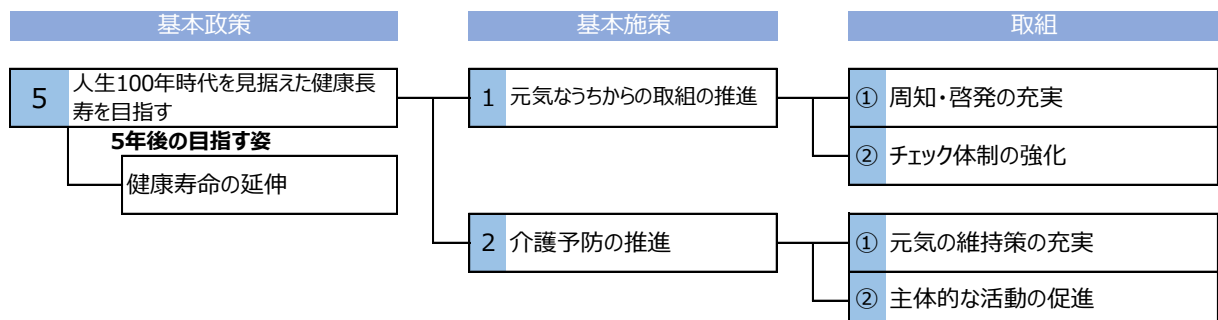
5年後の目指す姿

「健康寿命¹⁶の延伸」

市民が、主体的にフレイル（加齢に伴う心身の活力が低下した状態）の予防や自主的活動に取り組み、健康寿命の延伸に努めます。

数値目標	現 状 値	目 標 値
健康寿命	男性 17.15 年 女性 19.95 年 (H30)	男性 17.85 年 女性 20.65 年 (R7)

【ロジックモデル】



¹⁶ 65 歳に達した市民が健康で自立した生活を送ることができる期間

基本施策

5-1 元気なうちからの取組の推進

市民が自らの健康に関心が持てるよう、身近な場所で気軽にフレイルチェックや健康相談、健康講座を受けられる機会を確保し、フレイル予防の啓発に努めるなど元気なうちからの取組を推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	フレイルを知っている割合 (富士見市健康に関するアンケート調査)	13.0% (R2)	40.0% (R7)

【主な取組】 チェック体制の強化		
フレイルに関する知識の普及啓発を図り、その兆候に早く気づき、最適な介護予防活動に取り組めるよう、フレイルチェックを強化します。		
【KSF】	現状値	目標値
フレイルチェック事業参加者数	0人/年 (R1)	⇒ 460人/年 (R7)

5-2 介護予防の推進

市民が、自ら心身機能の維持・向上に努め、介護予防に取り組めるよう、フレイルに関する情報提供や早期発見と正しい対処について周知啓発を図り、自主的活動の担い手の育成を進めるなど介護予防を推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	地域での活動に参加していない方の割合 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	21.0% (R1)	18.0% (R7)

【主な取組】 元気の維持策の充実		
個々人の心身機能に合わせ、介護予防を継続できる身近な場所として、ふじみパワーアップ体操クラブ ¹⁷ の増設や活動を支援するなど、元気の維持策の充実に取り組みます。		
【KSF】	現状値	目標値
パワーアップ体操クラブ数	56クラブ (R1)	⇒ 70クラブ (R7)

¹⁷ 高齢者が運動や認知の力を維持することを目指して本市で考案した体操を行うクラブ

分野 5 高齢者福祉

関連する SDGs ゴール



フレイルの予防に取り組むなど、様々な社会資源を活用した元気なうちからの取組を推進し、健康的な生活の継続を目指します。 関連ターゲット (3-8)



仲間とともに活動することで、健康づくりへの意欲喚起を図ることができるため、多くの人の参加のもと健康づくりを進めます。 関連ターゲット (17-17)

関連計画等

第 8 期富士見市高齢者保健福祉計画 (令和 3 年度～令和 5 年度)

健康ライフ☆ふじみ (富士見市健康増進計画・食育推進計画) (平成 28 年度～令和 7 年度)

関連部署

市民生活部 保険年金課

健康福祉部 高齢者福祉課、健康増進センター

分野 5 高齢者福祉

基本政策 6

社会（地域）参加できる

高齢になっても健康を維持し、充実した日々を送るため、社会参加や活動ができる自分の居場所を見つけ、いつまでも地域とつながりを持ち、社会（地域）参加できる“まち”を目指します。

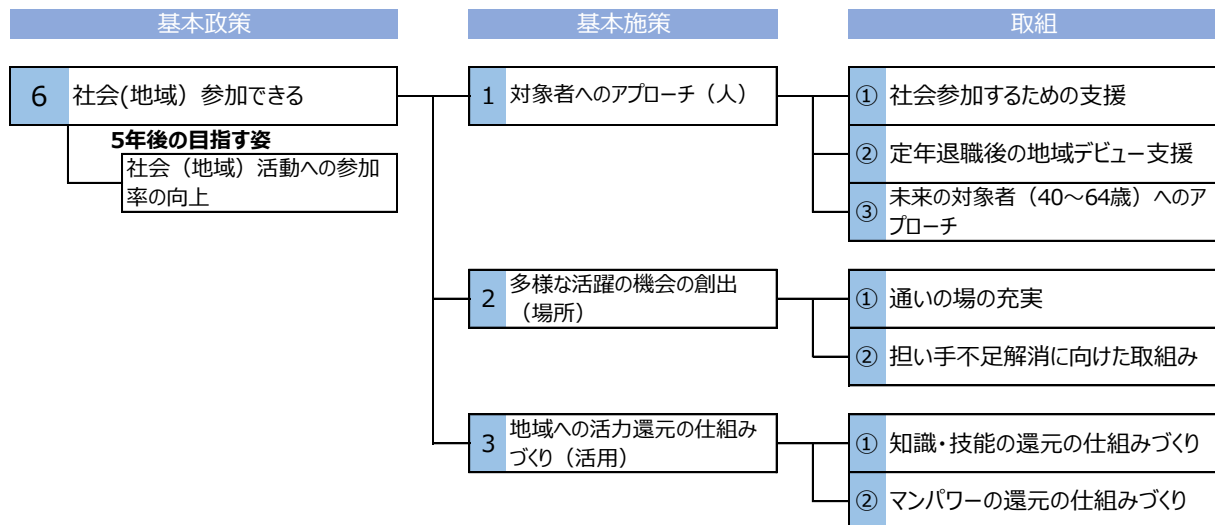
5年後の目指す姿

「社会（地域）活動への参加率の向上」

現在どのような社会（地域）活動があるのかを知るとともに、多様なニーズに合った活躍できる場がこれまで以上に増えることで、社会（地域）活動の参加意欲を醸成します。

数値目標	現状値	目標値
社会（地域）活動への参加率 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	65.0% (R1)	75.0% (R7)

【ロジックモデル】



基本施策

6-1 対象者へのアプローチ（人）

多種多様なニーズを把握し、効果的に各種活動を周知することで、どのような社会（地域）活動があるのかを知ってもらい、移動手段も含め、活動に参加しやすい環境づくりを進めます。

	指標	現状値	目標値
KPI	社会（地域）活動の認知率 （介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）	—	現状より+20%（R7）

【主な取組】 定年退職後の地域デビュー支援

定年退職後の地域デビューを支援するため、地域自主活動グループの育成など、アクティブシニア¹⁸の活躍に資する取組を推進します。

【KSF】	現状値	目標値
アクティブシニアの参加者数	—	⇒ 現状より+10%（R7）

6-2 多様な活躍の機会の創出（場所）

多種多様なニーズに対応できる活動・活躍できる場所を拡充していくため、地域や施設などにおいて活動・活躍する機会の創出を図ります。

	指標	現状値	目標値
KPI	社会（地域）活動の認知率 （介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）	—	現状より+20%（R7）

【主な取組】 担い手不足解消に向けた取組み

現役世代の減少による担い手不足解消に向け、介護事業所などで就労する際に役立つ「介護のお仕事入門研修」を開催し、修了者の就労を目指します。

【KSF】	現状値	目標値
介護のお仕事入門研修修了者の就労数	0人（R1）	⇒ 10人（R7）（累計）

¹⁸ 仕事・趣味などに意欲的で、健康意識が高い傾向にある活発な高齢者

分野 5 高齢者福祉

6-3 地域への活力還元の仕組みづくり（活用）

社会参加する方を増やすとともに、社会が高齢者を必要とする環境を整え、これまで培った知識・経験・技能を社会に還元できる仕組みの構築を目指します。

	指標	現状値	目標値
KPI	地域で活躍している高齢者の割合 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	—	現状より+20% (R7)

【主な取組】 マンパワーの還元の仕組みづくり

ボランティアやシルバー人材センターの会員登録者数を増やすなど、意欲ある高齢者と地域のニーズを結びつけ、地域社会で活躍する高齢者を増やす取組を進めます。

【KSF】	現状値	目標値
介護支援ボランティアポイント事業 ¹⁹ の登録者数	245人 (R1)	⇒ 360人 (R7)

関連するSDGsゴール



社会（地域）活動への参加により、あらゆる人々の活躍を推進し、誰もが活躍できる社会の実現を目指します。 関連ターゲット（8-5）



様々なパートナーシップを推進し、社会参加に向けて協力することで、活躍の場を増やしていきます。 関連ターゲット（17-17）

関連計画等

第8期富士見市高齢者保健福祉計画（令和3年度～令和5年度）

関連部署

市民生活部 保険年金課

健康福祉部 高齢者福祉課、健康増進センター

建設部 交通・管理課

¹⁹ 65歳以上の方が登録し、「介護支援ボランティア」として、市が指定する介護保険施設等でボランティアとして活躍する事業

分野 5 高齢者福祉

基本政策 7

住み慣れた地域での継続した生活の実現

介護や支援が必要になった時にすぐに相談ができ、医療・介護・地域・福祉の連携したサービスなどを利用しながら、いつまでも住み慣れた地域で、自分らしく生き生きと暮らしていける“まち”を目指します。

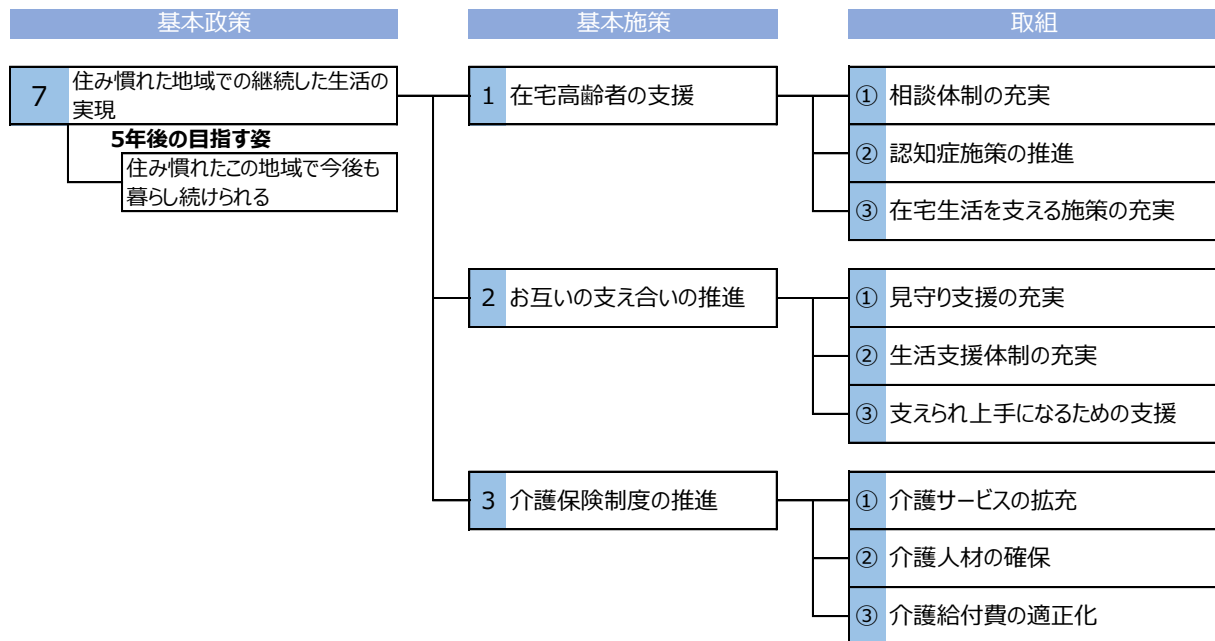
5年後の目指す姿

「住み慣れたこの地域で今後も暮らし続けられる」

介護保険サービスや在宅高齢者施策の活用、地域での支え合い活動などの適切な支援を受けながら安心して生活できる環境を整え、様々な社会資源の活用により、住み慣れた地域で今後も暮らし続けられることを目指します。

数値目標	現状値	目標値
住み慣れたこの地域で今後も暮らし続けられると回答した人の割合 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	—	現状より+10% (R7)

【ロジックモデル】



基本施策

7-1 在宅高齢者の支援

身近な地域で、きめ細やかな相談や支援ができるよう、高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター²⁰）や関係機関を含めた相談体制の強化に努めるなど、高齢者が在宅生活を継続できることを目指します。

	指標	現状値	目標値
KPI	在宅高齢者支援施策の満足度 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	—	現状より+10% (R7)

【主な取組】 相談体制の充実

在宅高齢者やその家族に対して適切な支援ができるよう、高齢者あんしん相談センターと関係機関の連携を強化します。また、必要なときに速やかに相談につながるよう、相談窓口の周知に努めます。

【KSF】	現状値	目標値
高齢者あんしん相談センターの認知率 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	34.0% (R1)	⇒ 50.0% (R7)

7-2 お互いの支え合いの推進

多様な主体による生活支援サービスを拡充し、地域の課題を住民同士で考え、お互いに支え合えるまちづくりを推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	支え合い活動に取り組んでいる人の割合 (介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)	—	現状より+10% (R7)

【主な取組】 生活支援体制の充実

生活支援コーディネーター²¹を中心として、地域における関係機関の連携を強化し、ニーズの把握及び住民主体のサービスの創出やボランティアの育成など、生活支援体制の充実に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
第2層、第3層協議体 ²² 数	—	⇒ 5ヶ所 (R7)

²⁰ 保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャーなどの専門職が協力して、高齢者の方やそのご家族、地域の方からの、介護保険の利用や生活支援、介護予防など高齢者に関する様々な相談に対応する機関。高齢者あんしん相談センターは、地域包括支援センターの愛称

²¹ 地域における支え合いの自主組織の形成を支援する人

²² 協議体は、地域課題を協議するコミュニティのことで、第1層協議体はすでに市全域を対象として組織されている。第2層協議体とは、高齢者あんしん相談センターの日常生活圏域ごとに組織される。第3層協議体とは、第2層の中の小さなコミュニティで組織される。

分野 5 高齢者福祉

7-3 介護保険制度の推進

事業所や施設の拡充を進めるとともに、介護人材確保策の強化や介護給付費の適正化の取組を強化し、介護や支援を必要とする方が、必要な時に、適切なサービスを受けられる制度運用を推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	在宅サービスの利用割合	—	現状より+10% (R7)
	特養入所待機者数	157人 (R1)	120人 (R7)

【主な取組】 介護サービスの拡充

ニーズや供給量などを総合的に判断した上で、地域密着型介護老人福祉施設、通所介護施設などのサービス提供事業所の整備等、介護サービスの拡充を検討します。

【KSF】	現状値	目標値
介護事業所・施設数	54ヶ所 (R1)	⇒ 57ヶ所 (R7)

関連する SDG s ゴール



介護保険は、最も重要なセーフティネットのひとつであることから、すべての市民に公平で質の高いサービスを提供するように努めます。 関連ターゲット (1-3)



在宅高齢者の支援を強化し、介護者の負担の軽減に努めながら、すべての人々の福祉を推進します。 関連ターゲット (3-8)

関連計画等

富士見市高齢者保健福祉計画 (令和3年度～令和5年度)

関連部署

健康福祉部 高齢者福祉課

分野 5 高齢者福祉

基本政策 8

自立した生活を送ることができる

「障がいのある人もない人も、ともに生き、ともに支えあう“まち”ふじみ」を基本理念として、障がいのある人の尊厳と権利が保障され、地域で自立して生活できる“まち”を目指します。

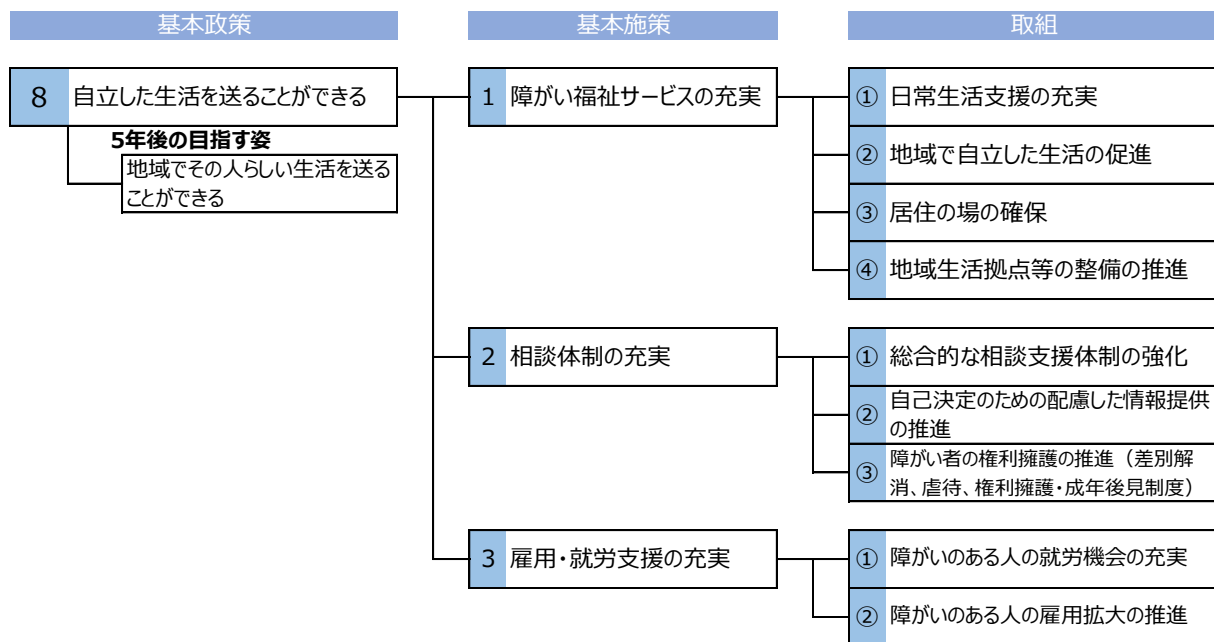
5年後の目指す姿

「地域でその人らしい生活を送ることができる」

障がいのある人が、様々な障がい福祉サービスを利用しながら、自分の持てる力を活かし、その人に合った生活が送れることを目指します。

数値目標	現状値	目標値
暮らしやすい（「どちらかというとも含む）人の割合 （障がい者福祉についての実態調査）	42.1%（H29）	60.0%（R7）

【ロジックモデル】



基本施策

8-1 障がい福祉サービスの充実

必要なサービス提供基盤を充実させるなど、支援体制を強化し、障がいのある人が安心して地域で生活できることを目指し、障がい福祉サービスを充実します。

	指標	現状値	目標値
KPI	自宅、グループホームで暮らしたい人の割合 (障がい者福祉についての実態調査)	70.9% (H29)	80.0% (R7)

【主な取組】 地域で自立した生活の促進

保健、医療、福祉、その他地域の関係者間の連携を強化し、精神科病院に長期入院している方や、障がい者施設に長期入所している方が、その人に合った地域での自立した生活を実現していけるよう取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
社会的入院 ²³ 患者の退院数	0人/年 (R1)	⇒ 1人以上/年 (R7)

8-2 相談体制の充実

地域で生活する中で、障がいのある人が利用できる支援の情報が得られ、地域で孤立することなく、困ったことが相談できる体制の充実を図ります。

	指標	現状値	目標値
KPI	どこでどんな相談ができるかわからない人の割合 (障がい者福祉についての実態調査)	23.5% (H29)	10.0% (R7)

【主な取組】 総合的な相談支援体制の強化

富士見市障害者施策推進協議会²⁴において、富士見市障がい者基幹相談支援センター²⁵をはじめ、各相談支援事業所の活動について検証し、総合的な相談支援体制を強化します。

【KSF】	現状値	目標値
富士見市障害者施策推進協議会の相談支援部会の開催	3回/年 (R1)	⇒ 3回/年以上 (R7)

²³ 入院による治療が必要ではない患者が、家族や地域の施設などの受け入れ先がないため退院できずに長期的に入院をすること

²⁴ 障がいのある人について、地域の実情に応じた支援体制の整備を協議する附属機関

²⁵ 障がいのある人の日常生活での困りごとや悩み事、障がい福祉サービスの利用についてなど、様々な相談に応じる機関

分野 6 障がい福祉

8-3 雇用・就労支援の充実

障がい特性やその人の能力に応じた仕事に就き、継続して仕事が続けられるよう、支援するとともに、雇用の拡大を目指します。

KPI	指標	現状値	目標値
	就労支援センター登録者の一般就労と福祉的就労者数	延べ 182 人(R1)	延べ 364 人(R7)

【主な取組】 障がいのある人の就労機会の充実

就労に関する相談及び助言、職場定着支援、事業所の開拓、離職後の調整、企業等との調整、日常生活面に関しての助言などにより、障がいのある人の就労機会を充実します。

【KSF】	現状値	目標値
障がい者就労支援センターの相談件数	538 人/年 (R1)	⇒ 1,087 人/年 (R7)

関連する SDGs ゴール



障がいのある人が、生産的な雇用や働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)につながる取組を促進します。 関連ターゲット (8-5)



障がい、その他の状況を理由とした、社会的、経済的不平等を是正します。 関連ターゲット (10-2)

関連計画等

富士見市障がい者支援計画 (令和 3 年度～令和 5 年度)

関連部署

健康福祉部 障がい福祉課

分野 6 障がい福祉

基本政策 9

ともに生き、ともに支えあう

障がいに対し、市民一人ひとりが理解を深めるとともに、障がいのある人が、その人らしく住み慣れた地域で暮らせる環境づくりを進めることで、障がいのある人もない人も、ともに生き、ともに支え合う「共生社会の実現」を目指します。

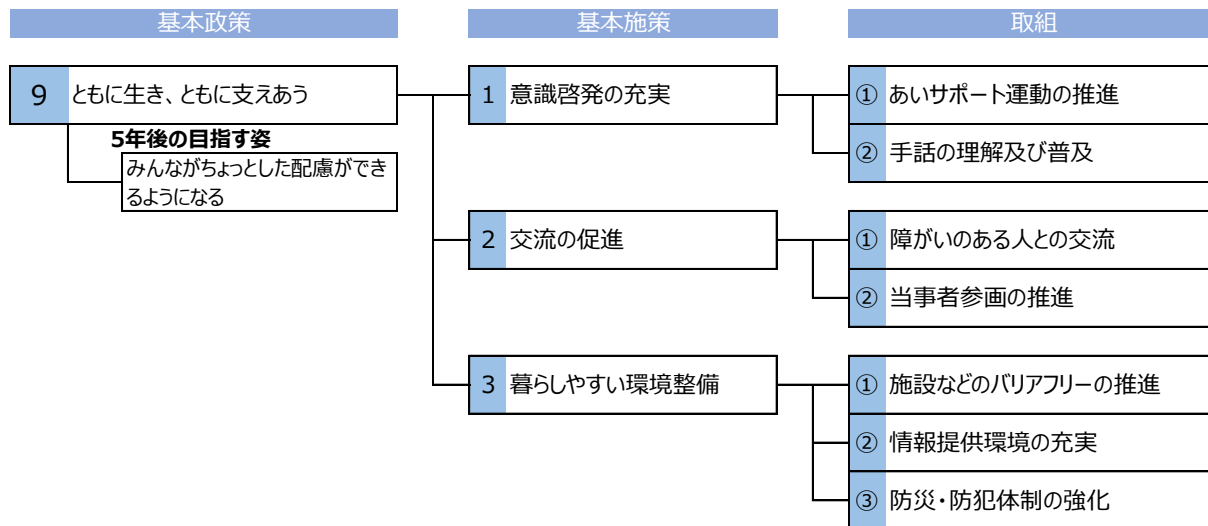
5年後の目指す姿

「みんながちょっとした配慮ができるようになる」

共生社会の実現に向けて、市民一人ひとりが、障害者差別解消法²⁶の趣旨を理解し、障がいのある人へ必要な配慮ができることを目指します。

数値目標	現状値	目標値
障害者手帳所持者等のうち配慮がなく困った経験がある人の割合 (障がい者福祉についての実態調査)	33.0% (H29)	27.0% (R7)

【ロジックモデル】



²⁶ 障がいを理由とする差別の解消を推進することを目的として、平成 28 年 4 月から施行された法律

基本施策

9-1 意識啓発の充実

家庭、地域、学校、企業などにおいて、偏見や差別を解消するため、障がいに対する正しい知識と理解を広める意識啓発を充実します。

	指標	現状値	目標値
KPI	障害者差別解消法について知っている人の割合 (障がい者福祉についての実態調査)	30.9% (H29)	50.0% (R7)

【主な取組】 あいサポート運動²⁷の推進

障がいのある人が、地域の中で自分らしく安心して暮らせる社会の実現を目指して、障がいに対する正しい知識を持ち、ちょっとした配慮ができる「あいサポーター」を養成します。

【KSF】	現状値	目標値
あいサポーター数	6,762 人 (R1)	⇒ 12,397 人 (R7)

9-2 交流の促進

各種活動に積極的に参加する意欲を高めるとともに、障がいのある人とない人とが交流機会を増やすなど、心のバリアを解消する交流を促進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	障がいのある人と交流（啓発イベントやボランティアに参加）したことがある人の割合（web アンケート）	23.7% (R2)	30.2% (R7)

【主な取組】 障がいのある人との交流

広く、障がいのある人の福祉についての関心と理解を深めるとともに、あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めるために、障がいのある人との交流事業等を実施していきます。

【KSF】	現状値	目標値
あいサポートイベントの開催	1 回/年	⇒ 継続 (R7)

²⁷ 障がいの有無にかかわらず、誰もが暮らしやすい地域社会をみんなで作っていくとする運動

分野 6 障がい福祉

9-3 暮らしやすい環境整備

障がいのある人もない人も、すべての人々にとっての暮らしやすさにつながるよう、誰もが暮らしやすい環境整備を推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	災害時、避難所の設備や必要な支援を受けられるかどうかについて不安を感じる割合 (障がい者福祉についての実態調査)	29.4% (H29)	15.0% (R7)

【主な取組】 施設などのバリアフリーの推進

障がいのある人が利用しやすいよう、公共施設等の設備の改善を図り、バリアフリーに配慮した施設整備に努めます。

【KSF】	現状値	目標値
多目的トイレ ²⁸ の普及の推進	5ヶ所 (R2)	⇒ 6ヶ所 (R7)

関連する SDGs ゴール



障がいなどを理由とした差別を解消し、その人らしさを認め合いながら、ともに生きる社会を目指します。 関連ターゲット (10-2)



様々なパートナーシップを推進し、経験や知識を共有し、ともに生きる社会の構築に向け協力していきます。 関連ターゲット (17-17)

関連計画等

富士見市障がい者支援計画 (令和3年度～令和5年度)

関連部署

総務部 安心安全課

健康福祉部 障がい福祉課

各公共施設

²⁸ 多機能トイレとユニバーサルシートの両方が設置されたトイレの数

分野 6 障がい福祉

基本政策 10

心身ともに健康な状態で過ごすことができる

健康ライフ☆ふじみにおいて、健康づくりの柱と捉えている食生活・運動・健康管理・こころ・口腔について、人生 100 年時代を見据え、ライフステージに応じた支援の充実を図り、望ましい生活習慣の定着を促すことで、健康づくりを推進し、市民が心身ともに健康な状態で過ごせる“まち”を目指します。

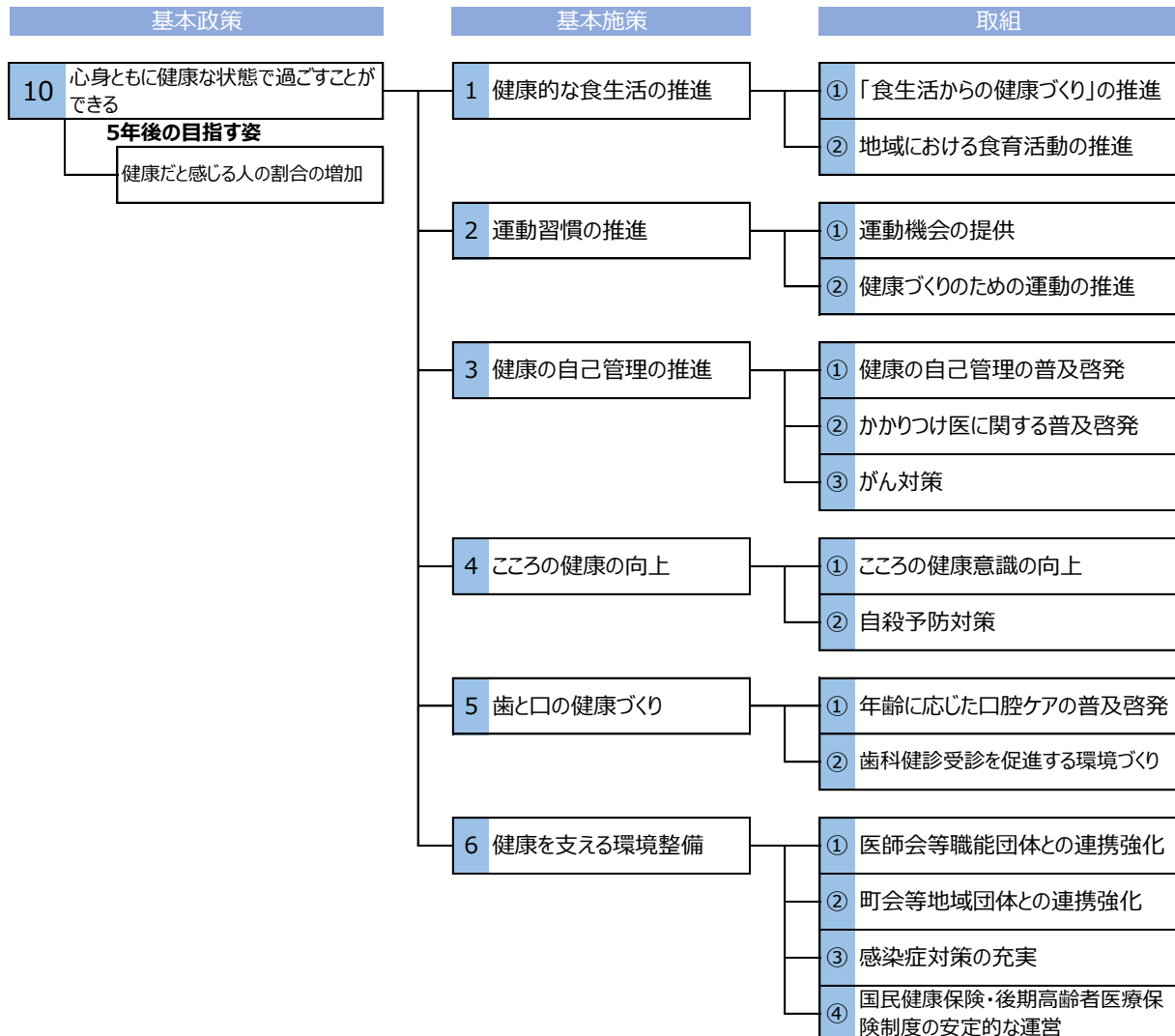
5年後の目指す姿

「健康だと感じる人の割合の増加」

市民一人ひとりが健康づくりに主体的に取り組み、自ら健康だと感じる人の増加を目指します。

数値目標	現状値	目標値
健康だと感じる人の割合 (富士見市健康に関するアンケート調査)	84.7% (R2)	88.5% (R7)

【ロジックモデル】



基本施策

10-1 健康的な食生活の推進

年齢に応じた食育や望ましい食習慣についての普及啓発を行い、栄養バランスのとれた健康的な食生活を推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	バランスのよい食生活をしている人の割合 (富士見市健康に関するアンケート調査)	56.7% (R2)	70.0% (R7)

【主な取組】 地域における食育活動の推進

地域団体と協働し、身近な場所で健康的な食生活についての普及啓発を進めるなど、地域における食育活動の推進に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
地域における食育活動の支援回数	57回/年 (R1)	⇒ 67回/年 (R7)

10-2 運動習慣の推進

自分の健康状態や体力に応じた運動・身体活動に取り組めるよう、運動習慣づくりを推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	運動習慣がある人の割合 (富士見市健康に関するアンケート調査)	20～64歳男性 20.8%	32.0%
		20～64歳女性 17.4%	35.0%
		65歳以上男性 32.4%	60.0%
		65歳以上女性 26.6%	50.0%
		(R2)	(R7)

【主な取組】 運動機会の提供

運動習慣のない人が運動をはじめ、また、運動を継続できるよう、健康マイレージを広く周知するなど、楽しく運動する機会を提供します。

【KSF】	現状値	目標値
健康マイレージ ²⁹ の参加者数	1,663人 (R1)	⇒ 3,700人 (R7)

²⁹ 通信機能付き歩数計やウェアラブル活動量計、スマートフォンアプリを使って手軽に健康づくりが実践できる事業

分野 7 健康づくり

10-3 健康の自己管理の推進

かかりつけ医を持ち、定期的に健（検）診を受けられることができる環境を整え、自らの健康管理ができるようになることを目指します。

	指標	現状値	目標値
KPI	かかりつけ医を持っている人の割合 (富士見市健康に関するアンケート調査)	61.4% (R2)	71.1% (R7)

【主な取組】 かかりつけ医に関する普及啓発

健康の自己管理を進めるため、かかりつけ医の必要性について、健康教育や健康相談等の様々な場面を通じて周知します。

【KSF】	現状値	目標値
普及啓発回数	2回/年 (R1)	⇒ 10回/年 (R7)

10-4 こころの健康の向上

様々なこころの健康問題について、正しい知識を得て、適切に相談や受診ができるよう、こころの健康に関する普及啓発や情報提供に努め、こころの健康の向上を目指します。

	指標	現状値	目標値
KPI	相談できる人や場所がない人の割合 (富士見市健康に関するアンケート調査)	29.5% (R2)	21.0% (R7)

【主な取組】 自殺予防対策

自殺は、その多くが、様々な社会的要因によって心理的に追い込まれた末の死であることから、地域において、ゲートキーパー³⁰の育成や相談ができる居場所づくりの環境整備など自殺予防対策に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
自殺者数	16人/年 (R1)	⇒ 13人以下/年 (R7) (平成27年比30%減少)

³⁰ 自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応を図ることができる人

分野 7 健康づくり

10-5 歯と口の健康づくり

多くの市民が、歯と口の健康づくりについての知識を身につけ、自ら正しい口腔ケアを実践できることを目指します。

	指標	現状値	目標値
KPI	何でも噛んで食べることができる人の割合 (富士見市健康に関するアンケート調査)	77.0% (R2)	82.8% (R7)

【主な取組】 年齢に応じた口腔ケアの普及啓発

年齢に応じた口腔ケアについて、関係機関との連携、協働により歯科口腔保健の知識を普及します。

【KSF】	現状値	目標値
歯科口腔教室の実施回数	40回/年 (R1)	⇒ 45回/年 (R7)

10-6 健康を支える環境整備

医師会や町会等の地域団体との連携を強化し、健康に関する情報の提供に努め、地域で健康を支える環境を整備します。

	指標	現状値	目標値
KPI	医療施設の情報が少ないと感じる人の割合 (富士見市健康に関するアンケート調査)	16.5% (R2)	12.4% (R7)

【主な取組】 医師会等職能団体との連携強化

働き盛り世代や子育て世代にはホームページや「子育て応援情報モバイルサイト スマイルなび³¹」等を活用し、医療情報へアクセスしやすい環境を整えていきます。また、高齢者には広報富士見や健康講座等を通じて、医療情報を積極的に提供するなど、医師会・歯科医師会等との連携を強化します。

【KSF】	現状値	目標値
医療情報の提供機会の充実	実施 (R2)	⇒ 継続 (R7)

³¹ 妊娠期から子育て期に至るまでの「健康や子育て」について、役立つ情報を発信するサービス

分野 7 健康づくり

関連する SDGs ゴール



すべての人々が健康的な生活を送れるように、市民一人ひとりの健康づくりを支援します。
関連ターゲット (3-4、3-5、3-8、3-a、3-d)



様々な地域資源とともに、効果的な事業を展開します。
関連ターゲット (17-17)

関連計画等

健康ライフ☆ふじみ (富士見市健康増進計画・食育推進計画) (平成 28 年度～令和 7 年度)

富士見市歯科口腔保健推進計画 (歯っぴーライフ☆ふじみ) (平成 27 年度～令和 6 年度)

富士見市自殺予防対策計画 (平成 31 年度～令和 3 年度)

関連部署

市民生活部 保険年金課

子ども未来部 保育課、子ども未来応援センター

健康福祉部 障がい福祉課、高齢者福祉課、健康増進センター

まちづくり推進部 産業振興課

教育委員会 生涯学習課、学校教育課、学校給食センター

分野 7 健康づくり

基本政策 11

スポーツで元気になる

子どもから高齢者、障がいのある人などすべての市民が、生きいきとした日常生活を送るために、体力や技術、興味、目的に応じたスポーツを通じ、元気になることができる“まち”を目指します。

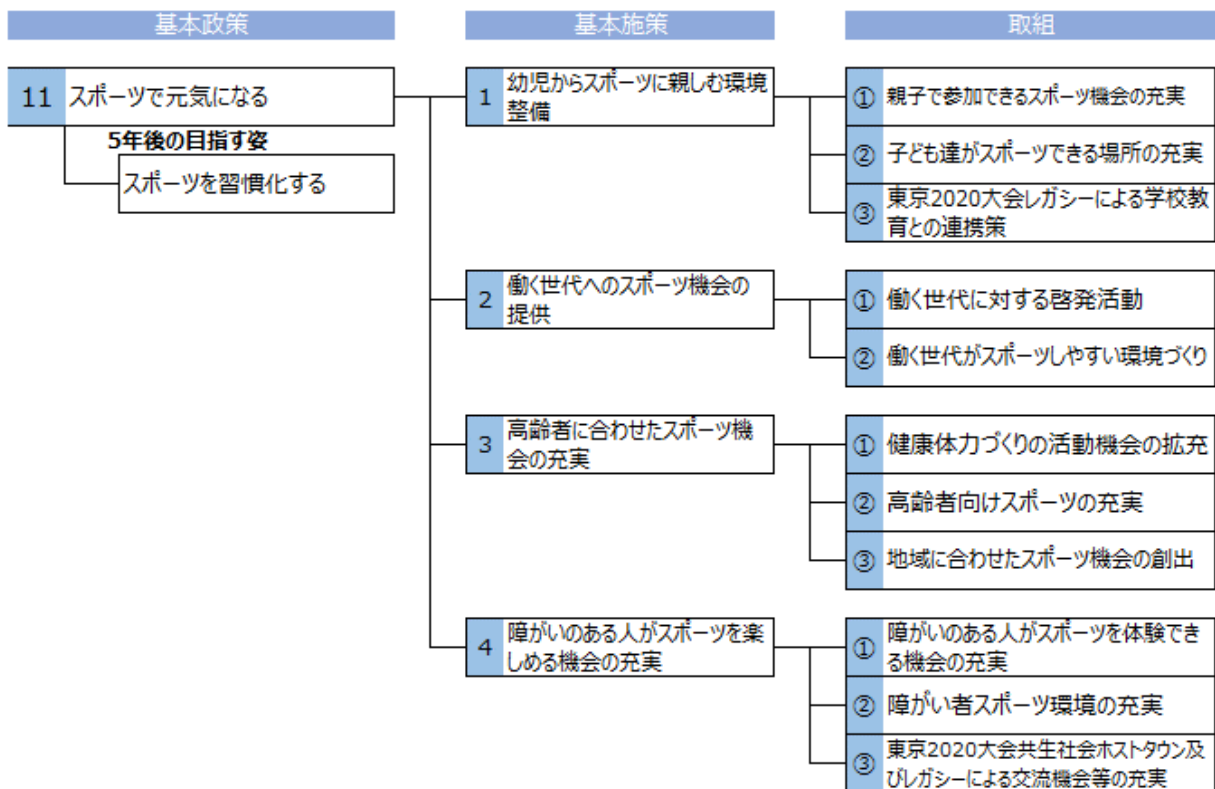
5年後の目指す姿

「スポーツを習慣化する」

心身ともに元気な状態を作るため、多くの市民がスポーツに習慣的に関わることを目指します。

数値目標	現状値	目標値
週 1 回以上スポーツをする人の割合 (市民スポーツアンケート調査)	41.4% (H27)	50.0% (R7)

【ロジックモデル】



基本施策

11-1 幼児からスポーツに親しむ環境整備

幼児などが「遊び」も含め、様々な形で体を動かせる環境整備を推進します。また、小・中学生が、スポーツの魅力や楽しさ・大切さを知り、スポーツに親しむことができる環境整備を推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	子どもがスポーツを好きという割合 (市民スポーツアンケート調査)	63.4% (H27)	70.0% (R7)

【主な取組】 親子で参加できるスポーツ機会の充実

スポーツの魅力を伝え、心身の成長につなげることを目指し、親子で参加できるイベントや、楽しめる体験事業等スポーツ機会の充実を図ります。

【KSF】	現状値	目標値
子ども～未成年向け教室数	6事業/年 (R1)	⇒ 7事業/年 (R7)

11-2 働く世代へのスポーツ機会の提供

地域の中で気軽にスポーツ活動に取り組める場を提供し、コミュニティの広がりや習慣的な健康づくりにつなげられるよう、働く世代へのスポーツ機会の提供を推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	20～59歳の週1回以上スポーツをする人の割合 (市民スポーツアンケート調査)	22.4% (H27)	30.0% (R7)

【主な取組】 働く世代に対する啓発活動

個人でも気軽に参加できる取り組みやすい内容を充実させ、働く世代に対するスポーツの啓発活動に取り組めます。

【KSF】	現状値	目標値
市民健康増進スポーツ大会 ³² の参加者数	5,771人/年 (R1)	⇒ 6,000人/年 (R7)

³² 市民の体力増進とスポーツ・レクリエーションの普及、発展を目的とした約30種を実施する市民のスポーツ大会

分野 8 スポーツ

11-3 高齢者に合わせたスポーツ機会の充実

健康や体力維持、フレイル予防や介護予防につなげられるよう、環境の整備と、高齢者に合わせたスポーツ機会を充実します。

	指標	現状値	目標値
KPI	60歳以上の週1回以上スポーツをする人の割合 (市民スポーツアンケート調査)	55.6% (H27)	60.0% (R7)

【主な取組】 地域に合わせたスポーツ機会の創出 地域のニーズに合った体験や身近な活動機会の提供など、地域に合わせたスポーツ機会の創出に取り組みます。		
【KSF】	現状値	目標値
スポーツ推進委員地区事業 ³³ の参加人数	206人/年 (R1)	⇒ 230人/年 (R7)

11-4 障がいのある人がスポーツを楽しめる機会の充実

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の共生社会ホストタウン³⁴や、そのレガシーを活かしながら、障がいのある人がスポーツを楽しめる機会を充実します。

	指標	現状値	目標値
KPI	障がい者スポーツを体験したり見たことがある人の割合 (市民スポーツアンケート調査)	—	40.0% (R7)

【主な取組】 障がいのある人がスポーツを体験できる機会の充実 障がいの有無にかかわらず、障がい者スポーツを体験できる機会の充実に取り組みます。		
【KSF】	現状値	目標値
障がいのある人もない人も楽しめる障がい者スポーツ体験教室の開催数	2回/年 (R1)	⇒ 3回/年 (R7)

³³ 市の生涯スポーツ推進を目的に、小学校区ごとに配置されたスポーツ推進委員が実施するその地域に適した地区ごとの事業

³⁴ パラリンピアンとの交流などをきっかけに、共生社会の実現に向け取り組む、国に登録された自治体

分野 8 スポーツ

関連する SDGs ゴール



市民が平等かつ、公正に取り組める機会を保障し、市民生活を営む上での基盤づくりとして、スポーツを通じた健康づくりに取り組みます。 関連ターゲット（4-2、4-3）



経験や知識、技術を共有しながら多様なスポーツ機会の提供を通じ、様々なパートナーシップを推進していきます。 関連ターゲット（17-17）

関連計画等

富士見市スポーツ推進計画（平成 29 年度～令和 3 年度）

第 2 次富士見市教育振興基本計画（平成 30 年度～令和 4 年度）

第 3 次富士見市生涯学習振興基本計画（令和 3 年度～令和 12 年度）

関連部署

健康福祉部 健康増進センター

教育委員会 生涯学習課

基本政策 12

スポーツにより交流が活性化する

地域のあらゆるスポーツ活動を通して、市民の交流が活性化していく“まち”を目指します。

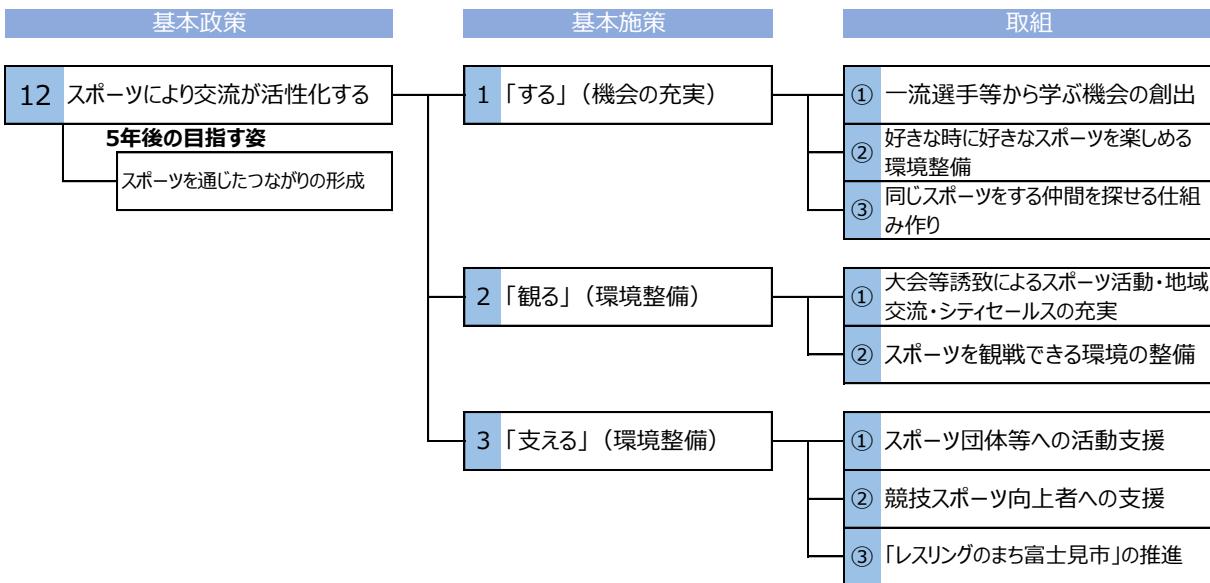
5年後の目指す姿

「スポーツを通じたつながりの形成」

多くの市民が「する」、「観る」、「支える」の観点からスポーツに関わりを持ち、それぞれの取組が、市民のつながりの形成となることを目指します。

数値目標	現状値	目標値
スポーツ行事への参加率 (市民スポーツアンケート調査)	29.5%(H27)	40.0% (R7)

【ロジックモデル】



基本施策

12-1 「する」(機会の充実)

市民があらゆる形でスポーツ活動に参加し、交流を深めることができるよう、「する」機会の充実を図ります。

	指標	現状値	目標値
KPI	スポーツをすることが「好き」という割合 (市民スポーツアンケート調査)	33.6% (H27)	40.0% (R7)

【主な取組】好きな時に好きなスポーツを楽しめる環境整備

事業、施設、情報提供等を充実し、好きな時に好きなスポーツを、気軽に楽しめる環境整備に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
市民総合体育館スポーツジム・スタジオの利用人数	51,070 人/年 (R1)	⇒ 52,000 人/年 (R7)

12-2 「観る」(環境整備)

様々な交流やシティセールスを目的として、大会の誘致、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会ホストタウン³⁵・共生社会ホストタウンとしての取組などを通じ、「観る」環境整備を推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	スポーツを会場等で観戦したことがある市民 (市民スポーツアンケート調査)	20.9% (H27)	25.0% (R7)

【主な取組】大会等誘致によるスポーツ活動・地域交流・シティセールスの充実

レスリング、ハンドボール、セパタクローなどの全国規模の大会の誘致や関連した体験教室の開催等を通じ、スポーツの魅力を伝えるとともに、スポーツ活動、地域交流、シティセールスの充実を図ります。

【KSF】	現状値	目標値
全国規模の大会等の実施回数	4 回/年 (R1)	⇒ 5 回/年 (R7)

³⁵ 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、地域の活性化や観光振興などの観点から、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る自治体

分野 8 スポーツ

12-3 「支える」(環境整備)

地域スポーツ団体等の活動支援、富士見 TOP サポーター³⁶の活動機会の充実、レスリングのまち富士見市の推進などを通して、市民を主体としたスポーツ活動の充実を目指し、「支える」環境整備を推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	スポーツに関するボランティア活動の参加率 (市民スポーツアンケート調査)	8.0% (H27)	10.0% (R7)

【主な取組】 スポーツ団体等への活動支援

富士見 TOP サポーターの東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会後を含めた活動、スポーツ団体による普及活動や大会、イベントなど、市民による地域スポーツ活動を支援します。

【KSF】	現状値	目標値
富士見 TOP サポーターのイベント、大会等の活動延べ人数	230 人 (R1)	⇒ 250 人 (R7)

関連する SDGs ゴール



市民が平等かつ、公正に取り組める機会を保障し、市民生活を営む上の基盤づくりとして、スポーツを通じたつながりの醸成に取り組みます。 関連ターゲット (4-2、4-3)



経験や知識、技術を共有しながら多様なスポーツ機会を提供し、様々なパートナーシップを推進するとともにスポーツを通じたつながりの形成に取り組みます。

関連ターゲット (17-17)

関連計画等

富士見市スポーツ推進計画 (平成 29 年度～令和 3 年度)

第 2 次富士見市教育振興基本計画 (平成 30 年度～令和 4 年度)

第 3 次富士見市生涯学習振興基本計画 (令和 3 年度～令和 12 年度)

関連部署

健康福祉部 健康増進センター

教育委員会 生涯学習課

³⁶ 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に関する事業等を一緒に支えてくれるボランティア

分野 8 スポーツ

基本政策 13

心豊かな生活を送ることができる

市民と共に培ってきた文化芸術の土壌を活かし、いつでも、どこでも、誰でも気軽に文化芸術に触れられる機会の創出により、市民一人ひとりが、心豊かな生活を実感できる“まち”を目指します。

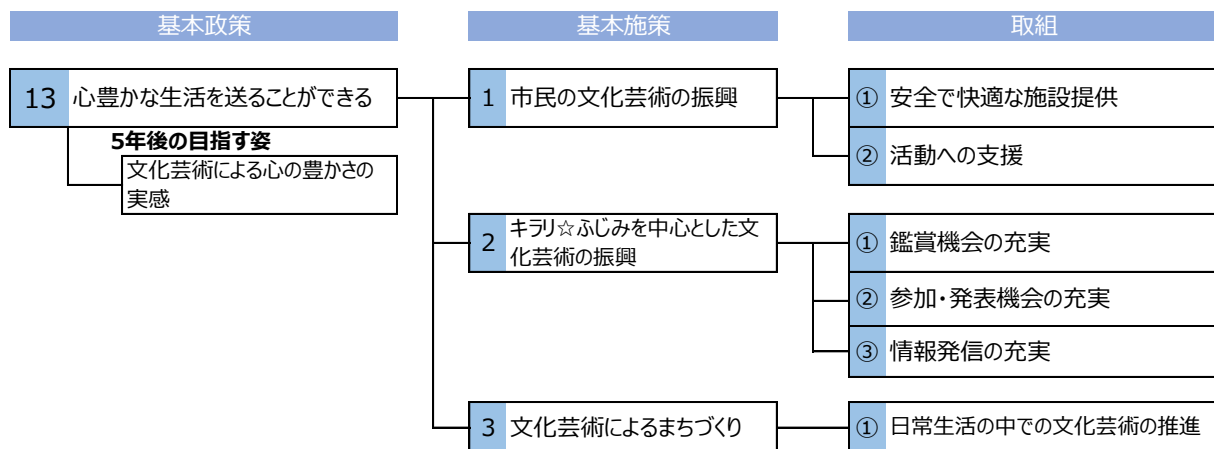
5年後の目指す姿

「文化芸術による心の豊かさの実感」

市民一人ひとりが、いつでも、どこでも、誰でも気軽に文化芸術に親しむことができるように、活動環境や鑑賞機会を充実させるとともに、わかりやすい情報発信に努め、文化芸術による心の豊かさを実感できることを目指します。

数値目標	現状値	目標値
「市民文化の創造」に対する満足度 (市民意識調査)	51.7% (H30)	56.2% (R7)

【ロジックモデル】



基本施策

13-1 市民の文化芸術の振興

安全で快適な施設の提供や活動に対する様々な支援により、市民が文化芸術活動に取り組みやすい環境づくりを進め、市民の文化芸術を振興します。

KPI	指標	現状値	目標値
	文化芸術活動環境に関する満足度（web アンケート）	39.0%（R2）	50.0%（R7）

【主な取組】 安全で快適な施設提供

誰もが安全で安心して利用できる快適な活動環境を提供するため、ユニバーサルデザインにも配慮し、公共施設マネジメントの個別施設計画と連動した計画的な施設の修繕・改修を進めます。

【KSF】	現状値	目標値
公共施設マネジメントによる個別施設計画の策定・運用	—	⇒ 策定・運用（R7）

13-2 キラリ☆ふじみを中心とした文化芸術の振興

文化芸術の発信拠点であるキラリ☆ふじみを中心として、いつでも、どこでも、誰でも気軽に文化芸術に接することや、参加することのできる環境づくりに取り組むことで文化芸術を振興します。

KPI	指標	現状値	目標値
	文化芸術事業に関する満足度（web アンケート）	33.3%（R2）	50.0%（R7）

【主な取組】 鑑賞機会の充実

日頃から文化芸術に親しむ方々だけでなく、仕事や子育てなどに追われ、文化芸術に触れる機会の少ない方々にも、キラリ☆ふじみを中心とした身近な公共施設で文化芸術に親しめる機会を創出します。

【KSF】	現状値	目標値
鑑賞会等の参加者数	32,449 人（R1）	⇒ 現状より拡大（R7）

分野 9 文化芸術・文化財

13-3 文化芸術によるまちづくり

あらゆる地域資源の活用等により、日常生活の中で文化芸術に親しむことができる機会を充実し、文化芸術によるまちづくりを推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	「豊かな生活が送れている」と回答した割合（web アンケート）	40.0%（R2）	50.0%（R7）

【主な取組】 日常生活の中での文化芸術の推進

身近な場所を活用したコンサートの実施や、まちなかを活用したアート空間の創出など、日常生活の中での文化芸術を推進します。

【KSF】	現状値	目標値
文化芸術アクションプラン ³⁷ 事業数	56 事業（R1） ⇒	維持（R7）

関連する SDGs ゴール



誰もが文化芸術を、観て、触れて、体験できる環境の提供に取り組めます。

関連ターゲット（4-7、4-a）



日常生活の中で文化芸術に親しめる機会を創出し、地域の文化振興に取り組めます。

関連ターゲット（8-9）

関連計画等

富士見市文化芸術振興基本計画（平成 26 年度～令和 5 年度）

関連部署

自治振興部 地域文化振興課、交流センター、コミュニティセンター
教育委員会 公民館

³⁷ 富士見市文化芸術振興基本計画に基づき、毎年度実施する取組をまとめたもの

分野 9 文化芸術・文化財

基本政策 14

地域の歴史や伝統文化を通して地域に魅力を感じる

地域独自の歴史や伝統文化を学ぶ、体験する機会を通して、郷土に魅力を感じ、愛着と誇りを抱ける“まち”を目指します。

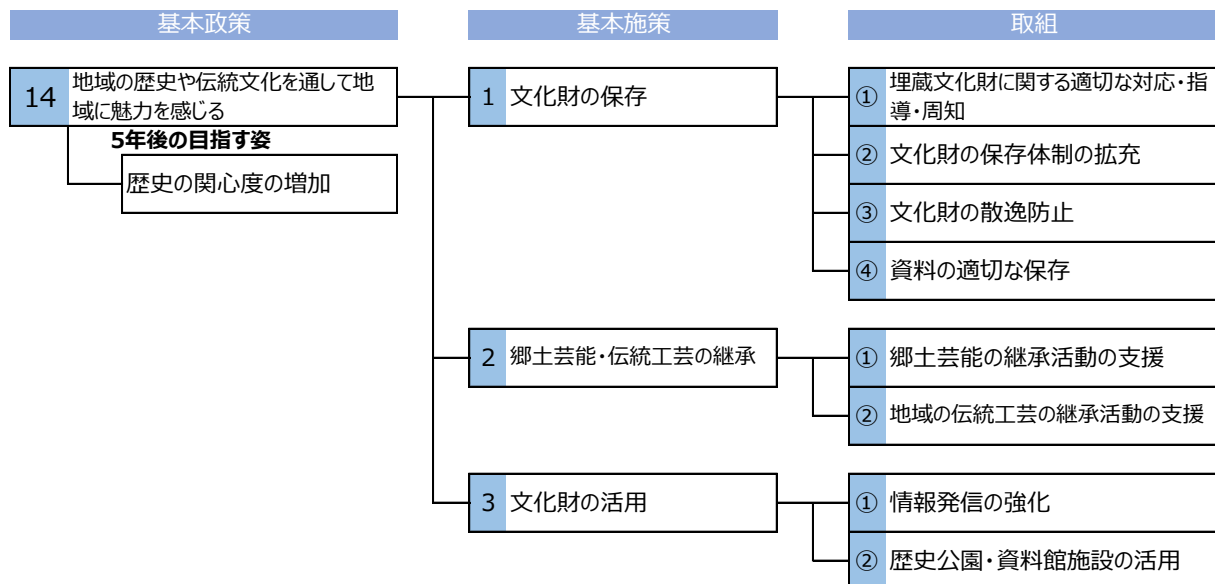
5年後の目指す姿

「歴史の関心度の増加」

地域の歴史、文化の継承を支えるため、市民が率先して学習や体験の場に参加するなど、魅力ある資源として、自分たちのまちの歴史や郷土芸能に関心を持つことを目指します。

数値目標	現状値	目標値
「富士見市で魅力ある資源」としての、歴史・史跡等の回答割合（市民意識調査）	20.0%（H30）	25.0%（R7）

【ロジックモデル】



分野 9 文化芸術・文化財

基本施策

14-1 文化財の保存

文化財を良好な状態で管理できる環境を整備することで、市内に所在する歴史資源、文化資源を適切に保存し、後世に残していくことを目指します。

KPI	指標	現状値	目標値
	市指定文化財の総件数	33件 (R1)	36件 (R7)

【主な取組】文化財の保存体制の拡充

文化財を適切に保存、活用していくために、資料を効率的に収蔵、管理できる施設を含めた文化財の保存体制を拡充します。

【KSF】	現状値	目標値
保管施設の集約化	3ヶ所 (R1)	⇒ 1ヶ所 (R7)

14-2 郷土芸能・伝統工芸の継承

市民と協力し、後継者の育成や支援をしていくことで、地域で守り継がれてきた郷土芸能や伝統工芸が途絶えることのないよう継承していくことを目指します。

KPI	指標	現状値	目標値
	「富士見市で魅力ある資源」としての郷土芸能の回答割合（市民意識調査）	1.6% (H30)	2.0% (R7)

【主な取組】郷土芸能の継承活動の支援

郷土芸能や保存団体の活動を情報発信するなど、地域の郷土芸能の継承活動を支援します。

【KSF】	現状値	目標値
市指定文化財の郷土芸能保存団体の活動事業数	37件 (R1)	⇒ 維持 (R7)

14-3 文化財の活用

市民が郷土の歴史、文化をまちの魅力と感じられるように、文化財の活用事業を充実します。

KPI	指標	現状値	目標値
	資料館来館者数 (水子貝塚資料館・難波田城資料館)	99,942人/年 (H30)	110,000人/年 (R7)

【主な取組】歴史公園・資料館施設の活用

地域の歴史、文化の特徴を生かした講座や体験イベントを企画し、歴史公園や資料館施設を市民との協働により活用します。

【KSF】	現状値	目標値
主催・共催事業実施数	38回 (H30)	⇒ 210回 (5年累計)

分野 9 文化芸術・文化財

関連する SDGs ゴール5



市民に、文化財を通して、質の高い知識を習得する機会を提供します。

関連ターゲット (4-7)



地域の歴史・文化を保存・継承・活用し、文化遺産の保護・保全への意識を高めていきます。 関連ターゲット (11-4)

関連計画等

富士見市教育振興基本計画 (平成 30 年度～令和 4 年度)

関連部署

自治振興部 地域文化振興課

教育委員会 生涯学習課、資料館

分野 9 文化芸術・文化財

基本政策 15

自由な学びにより生きがいができる

心豊かに暮らせるまちづくりの実現のため、市民一人ひとりが自由に学び、生きがいを実感できる“まち”を目指します。

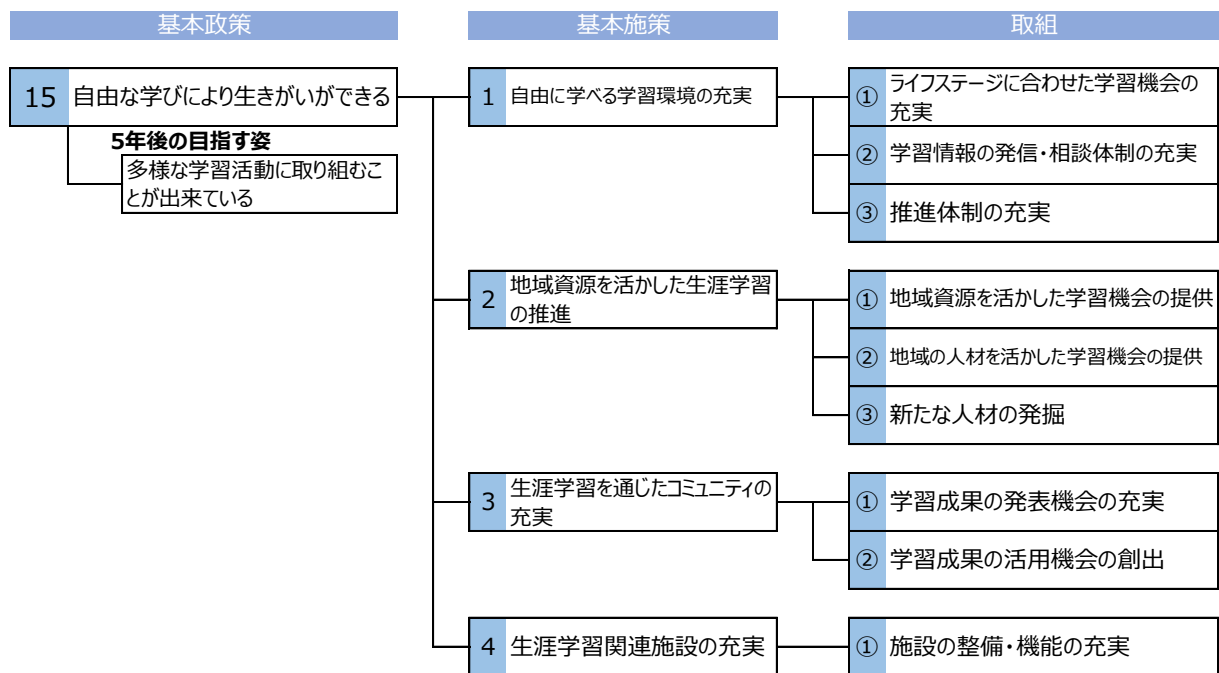
5年後の目指す姿

「多様な学習活動に取り組むことができる」

市民一人ひとりの様々な学びの意欲に応じることにより、生きがいを感じられるよう、多様な学習活動に、主体的に取り組めることを目指します。

数値目標	現状値	目標値
学習により生きがいを感じていると回答した人の割合 (web アンケート)	39.5% (R2)	50.0% (R7)

【ロジックモデル】



基本施策

15-1 自由に学べる学習環境の充実

ライフステージに応じた学習機会の提供や、学習情報の発信、相談体制の整備などにより、いつでも、どこでも、誰でも学べる学習環境の充実を図ります。

KPI	指標	現状値	目標値
	学習活動支援の満足度 (市民意識調査)	45.6% (H30)	50.0% (R7)

【主な取組】 ライフステージに合わせた学習機会の充実 各ライフステージのニーズに合わせた学習機会の充実に取り組みます。		
【KSF】	現状値	目標値
自分のライフステージに合った事業が行われていると感じる人の割合 (web アンケート)	14.7% (R2)	⇒ 25.0% (R7)

15-2 地域資源を活かした生涯学習の推進

自然環境、産業、歴史、郷土芸能などの地域資源や、知識や経験を持つ多彩な市民を活かした生涯学習の推進を図ります。

KPI	指標	現状値	目標値
	人材バンクを活用して「よかった」と回答した人の割合	89.0% (R1)	90.0% (R7)

【主な取組】 地域資源を活かした学習機会の提供 水子貝塚などの各種遺跡、獅子舞やお囃子などの郷土芸能、びん沼自然公園などの豊かな自然環境、キラ☆ふじみを中心とした文化芸術など、本市が持つ多彩な地域資源を活用した学習機会を提供します。		
【KSF】	現状値	目標値
地域の産業や資源、歴史や文化を活かした事業数	18 事業/年(R1)	⇒ 20 事業/年(R7)

15-3 生涯学習を通じたコミュニティの充実

市民と地域とのつながりを深めるため、生涯学習における学習成果の発表や学び合い、市民同士の交流の機会などを通じてコミュニティの充実を図ります。

KPI	指標	現状値	目標値
	生涯学習を通じて「つながり」を感じている人の割合 (web アンケート)	29.2% (R2)	40.0% (R7)

【主な取組】 学習成果の発表機会の充実 様々な生涯学習活動を通じて学んだ知識や経験、成果を発表できる機会を充実します。		
【KSF】	現状値	目標値
文化祭等の参加人数	21,000 人/年(H30)	⇒ 22,000 人/年(R7)

分野 10 生涯学習

15-4 生涯学習関連施設の充実

多様化する学習形態への対応と、誰もが安全で使いやすいユニバーサルデザインに配慮した、生涯学習関連施設の充実を図ります。

KPI	指標	現状値	目標値
	活動できる環境に対する満足度（web アンケート）	14.9%（R2）	25.0%（R7）

【主な取組】施設の整備・機能の充実

多様化する学習活動を支援するため、公民館や交流センター、図書館などの機能の充実と計画的な施設整備に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
各公民館・交流センター・コミュニティセンター・ピアザ☆ふじみ・図書館の利用者数	582,747 人/年(H30) ⇒	585,000 人/年(R7)

関連する SDGs ゴール



市民が平等かつ、公正に学ぶ機会を保障し、学びが生きがいづくりと心豊かに暮らせるまちづくりにつながるよう取り組みます。 関連ターゲット（4-2、4-3、4-5、4-7）



様々なパートナーシップを推進し、経験や知識、技術を共有し、生涯学習機会や支援等の充実に向け、協力していきます。 関連ターゲット（17-17）

関連計画等

第2次富士見市教育振興基本計画（平成30年度～令和4年度）

第3次富士見市生涯学習振興基本計画（令和3年度～令和12年度）

関連部署

自治振興部 地域文化振興課、交流センター、コミュニティセンター

教育委員会 生涯学習課、公民館、資料館

分野 10 生涯学習

基本政策 16

一人ひとりが尊重され、誰もがともに活躍できる

すべての市民がお互いの基本的人権を守り、一人ひとりが尊重され、個性や能力を発揮して活躍することができる“まち”を目指します。

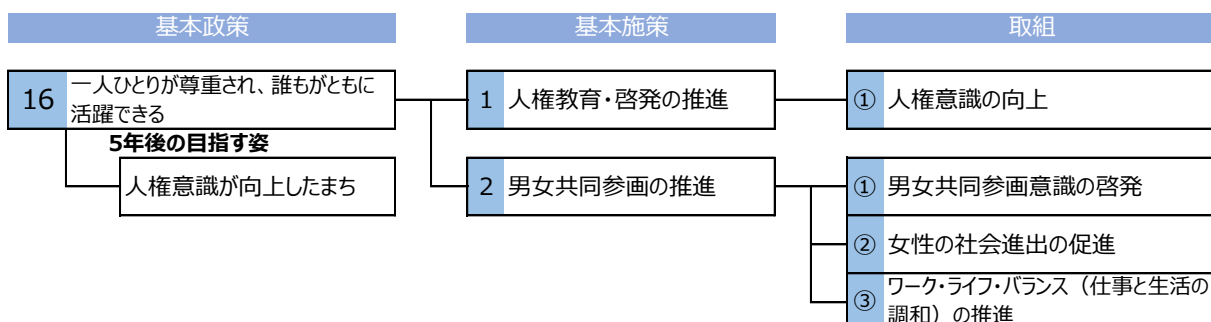
5年後の目指す姿

「人権意識が向上したまち」

人権について考えることができる機会の拡充に努め、人権の大切さを知り、互いを尊重する市民意識の広がりを目指します。

数値目標	現状値	目標値
人権が侵害されたことがないと回答する割合 (人権に関する意識調査)	54.7% (R1)	60.0% (R7)

【ロジックモデル】



分野 11 人権・男女共同参画

基本施策

16-1 人権教育・啓発の推進

様々な人権課題の解決に向けて、一人ひとりが互いを認め合い、尊重しあえる社会となることを目指して、人権教育・啓発活動を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	人権の大切さを認識している割合（人権に関する意識調査）	94.0%（R1）	96.0%（R7）

【主な取組】 人権意識の向上

関係機関と連携を図りながら、多様な機会を通じて、継続的な啓発活動を行い、人権意識の向上に取り組めます。

【KSF】	現状値	目標値
広報による啓発等の実施回数	1回/年（R1）	⇒ 3回/年（R7）

16-2 男女共同参画の推進

性別に関わりなく、誰もがその個性と能力を發揮し、互いに対等なパートナーとしてあらゆる分野に参画し、ともに責任を担う男女共同参画社会の実現を目指します。

KPI	指標	現状値	目標値
	男女の地位が平等となっていると感じている市民の割合 （男女共同参画に関する市民意識調査）	22.3%（R1）	30.0%（R7）

【主な取組】 男女共同参画意識の啓発

固定的な性別役割分担意識の解消を目指す講演会・セミナー等の実施や、学校での教育など、全世代へ男女平等・男女共同参画意識の啓発を図ります。

【KSF】	現状値	目標値
講演会・セミナー等の開催件数	3回/年（R1）	⇒ 継続（R7）

関連するSDGsゴール



人の多様性を尊重するとともに、男女共同参画社会の実現に向け取り組むことで、一人ひとりの力をまちづくりに活かします。 関連ターゲット（5-1、5-2、5c）



人権の大切さを知り、互いを尊重することにより、差別をなくし人権の大切さを広めていきます。 関連ターゲット（10-3）

関連計画等

富士見市男女共同参画プラン（第4次）（令和3年度～令和12年度）

関連部署

市民生活部 人権・市民相談課

基本政策 17 **市民が主役のまちづくり**

市民と市がそれぞれの役割と責任を担いながら、まちづくりのパートナーとして、市民の知恵と力を生かした「市民が主役のまちづくり」を目指します。

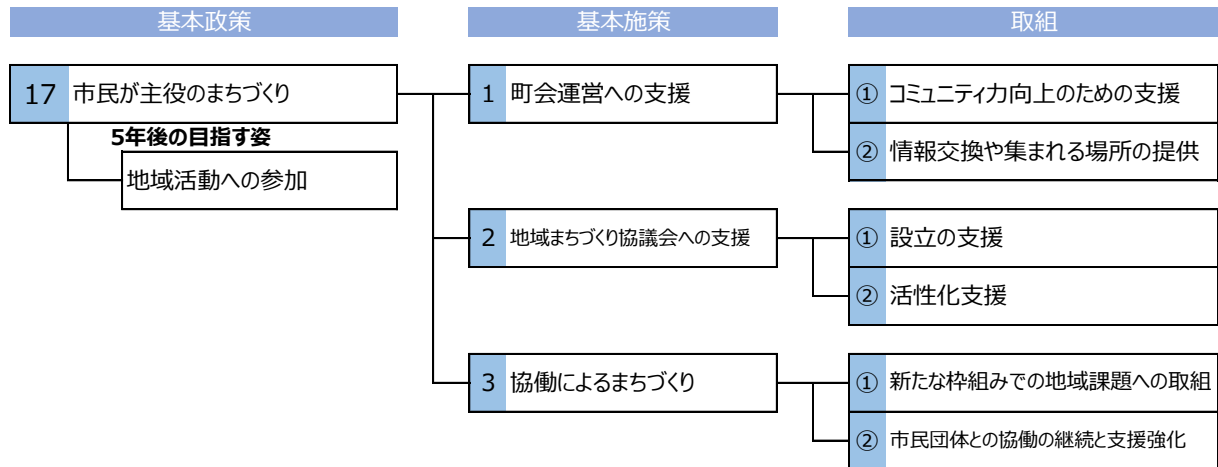
5年後の目指す姿

「地域活動への参加」

市民が地域でつながり、知恵や力を出し合える環境を醸成するため、地域活動に参加する人を増やすことを目指します。

数値目標	現状値	目標値
地域活動への参加状況 (市民意識調査)	58.1% (H30)	61.0% (R7)

【ロジックモデル】



基本施策

17-1 町会運営への支援

地域力の向上のため、一番身近なコミュニティである町会運営を支援し、町会の活性化を図ることを目指します。

KPI	指標	現状値	目標値
	コミュニティ活動の推進の満足度（市民意識調査）	49.9%（H30）	53.0%（R7）

【主な取組】 コミュニティ力向上のための支援

町会の加入促進の支援や町会運営マニュアルの作成など、コミュニティ力向上のための支援に取り組みます。

【KSF】	状値	目標値
加入促進策の実施	1 施策/年（R1）	⇒ 3 施策/年（R7）

17-2 地域まちづくり協議会³⁸への支援

町会や地区社会福祉協議会など単体では解決が難しい地域の課題解決に向けて、地域の様々な団体等の力が発揮できるよう、地域まちづくり協議会の設立や既存協議会の支援を行います。

KPI	指標	現状値	目標値
	「住みよい」理由の「まちに愛着がある」の割合（市民意識調査）	23.3%（H30）	30.0%（R7）

【主な取組】 設立の支援

地域まちづくり協議会を設立していない地域に対し、既存の協議会における成功事例の紹介など、設立に向け支援します。

【KSF】	現状値	目標値
地域まちづくり協議会の数	延べ6ヶ所（R1）	⇒ 延べ11ヶ所（R7）

³⁸ 概ね小学校区を単位とし、町会を中心に地域の各種団体や市民、事業者等が連携して、各種団体だけでは解決できない地域の課題や課題について住民主体で話し合い、解決に向けて地域が一体となって取り組む組織

分野 12 地域コミュニティ

17-3 協働によるまちづくり

協働事業提案制度の活用や協働を継続している団体との連携強化など、市と市民団体等と協働によるまちづくりを推進していきます。

KPI	指標	現状値	目標値
	市民参加・協働の推進の満足度（市民意識調査）	42.3%（H30）	56.0%（R7）

【主な取組】 市民団体との協働の継続と支援強化

市民団体との協働の新たな創出や継続に取組むとともに、資材や活動場所の提供、財政的な相談など、協働する市民団体への支援を強化します。

【KSF】	現状値	目標値
市民団体との協働事業の実施数	延べ 116 回（R1）	⇒ 延べ 136 回（R7）

関連する SDGs ゴール



誰もが利用できる集会所について維持管理及び支援を行い、地域コミュニティの活性化を図ります。 関連ターゲット（11-7）



町会や地域まちづくり協議会など様々なパートナーシップを推進し、市民の知恵や力を活かしたまちづくりを推進します。 関連ターゲット（17-17）

関連計画等

関連部署

自治振興部 協働推進課

分野 12 地域コミュニティ

基本政策 18

外国籍市民と地域住民がつながりを持つことができる

外国籍市民が国籍や文化の違いにかかわらず、地域社会の中で生き生きと暮らすことができ、地域住民が多文化への理解を深めることで、互いにつながりを持てる“まち”を目指します。

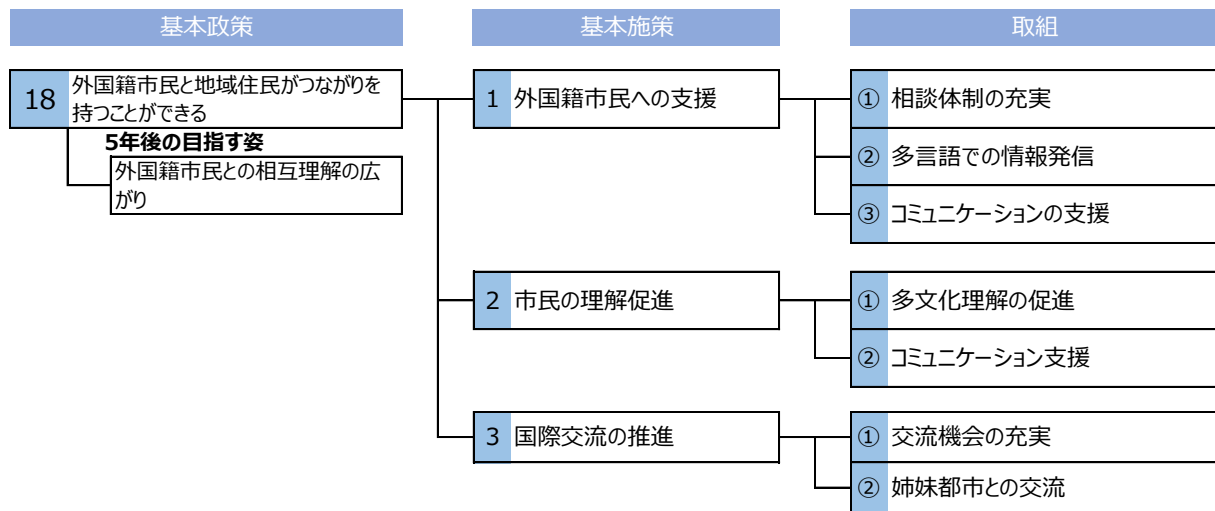
5年後の目指す姿

「外国籍市民との相互理解の広がり」

文化の違いによる互いの不安の緩和を図り、外国籍市民との相互理解が広がることを目指します。

数値目標	現状値	目標値
相互理解が広がっていると感じる市民の割合（WEB アンケート）	49.6%（R2）	55.0%（R7）

【ロジックモデル】



分野 13 多文化共生・国際交流

基本施策

18-1 外国籍市民への支援

生活に関する不安を緩和し、地域社会とコミュニケーションを取りながら暮らすことができるよう、外国籍市民への支援を充実します。

	指標	現状値	目標値
KPI	暮らしやすいと感じる外国籍市民の割合 (事業参加者等へのアンケート)	—	75.0% (R7)

【主な取組】 多言語での情報発信

市民生活を送るうえで不可欠な情報を入手できるよう、多言語による情報発信を行います。

【KSF】	現状値	目標値
多言語併記・表記された案内等の数	46件 (R2)	⇒ 51件 (R7)

18-2 市民の理解促進

外国籍市民と地域住民同士が、相互にコミュニケーションを取りながら暮らすことができるよう、市民理解の促進を図ります。

	指標	現状値	目標値
KPI	外国籍の人への理解が深まったと感じた割合 (事業参加者等へのアンケート)	—	75.0% (R7)

【主な取組】 コミュニケーション支援

やさしい日本語の活用を促進し、外国籍市民とのコミュニケーションを支援します。

【KSF】	現状値	目標値
やさしい日本語講座等開催数	0回/年 (R2)	⇒ 2回/年 (R7)

18-3 国際交流の推進

多様な文化に触れることで、多文化理解の促進を目指した国際交流を推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	国際交流を楽しみと感じた参加者の割合 (事業参加者等へのアンケート)	—	75.0% (R7)

【主な取組】 交流機会の充実

幅広い世代に向けた多文化理解の醸成を図るために、外国籍の方との交流機会や多様な文化に触れる機会を充実します。

【KSF】	現状値	目標値
国際交流フォーラムの参加人数	520人 (R1)	⇒ 520人以上 (R7)

分野 13 多文化共生・国際交流

関連するSDGsゴール



互いの理解を深め、国籍等に関わりなく地域で安心して暮らせるよう取り組みます。

関連ターゲット (10-2、10-3)



誰もが住みやすいまちになるように、外国籍市民を支援するとともに、相互理解を深めます。 関連ターゲット (11-1)

関連計画等

関連部署

市民生活部 人権・市民相談課

分野 13 多文化共生・国際交流

基本政策 19

犯罪が起きないまちで生活ができる

市民、地域、行政が、高い防犯意識のもと一体となって防犯活動を実施し、犯罪を未然に防ぐことで、犯罪の起きない安全な“まち”を目指します。

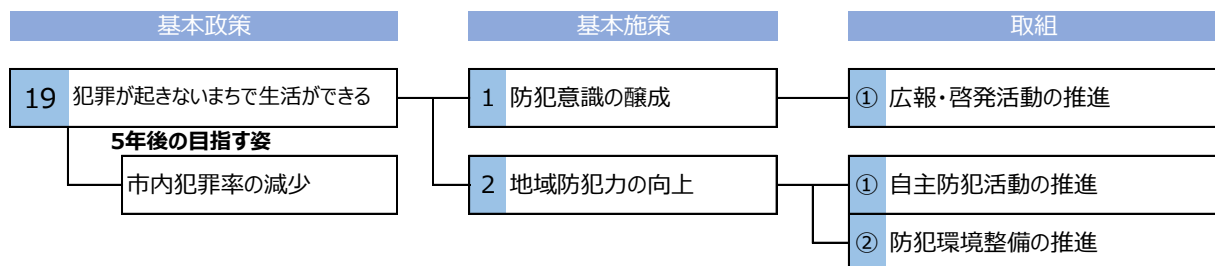
5年後の目指す姿

「市内犯罪率の減少」

市民一人ひとりが、日ごろから犯罪を防ぐための対策を行い、地域による防犯パトロールをはじめとした自主防犯活動に加え、街頭防犯カメラなどの防犯環境の整備を推進することで、市内における犯罪率の減少を図ります。

数値目標	現状値	目標値
市内犯罪率 (人口千人あたりの刑法犯認知件数)	10.8 件/年 (H24~H28 平均値)	8.7 件/年 (R7)

【ロジックモデル】



分野 14 防犯・交通安全

基本施策

19-1 防犯意識の醸成

市民一人ひとりが、情報の収集と適切な防犯対策を実施することにより、防犯意識の醸成を図ります。

	指標	現状値	目標値
KPI	日頃から防犯を心掛け、対策している市民の割合 (WEB アンケート)	63.8% (R2)	75.0% (R7)

【主な取組】 広報・啓発活動の推進

市民の防犯意識を向上し、犯罪を未然に防止する取組を広めるため、積極的な出前講座や啓発キャンペーンに加え、広報富士見、市ホームページを中心に、様々なメディアを通じて広報・啓発活動を推進します。

【KSF】	現状値	目標値
情報発信回数	12回/年 (R1)	⇒ 15回/年 (R7)

19-2 地域防犯力の向上

地域による防犯パトロールをはじめとした自主防犯活動や行政による防犯環境の整備を推進するとともに、警察等と連携し、地域防犯力の向上を図ります。

	指標	現状値	目標値
KPI	市内街頭犯罪発生件数	598 件/年 (H24~H28 平均値)	479 件/年 (R7)

【主な取組】 自主防犯活動の推進

自主防犯活動を実施する団体に対して防犯パトロール用品の配布やボランティア保険の加入などの支援を行い、団体が活動しやすい環境づくりを行うなど、自主防犯活動を推進します。

【KSF】	現状値	目標値
自主防犯組織の結成率	100% (R1)	⇒ 維持 (R7)

関連する SDGs ゴール



地域の防犯力を高め、安心して生活できる環境づくりに取り組みます。

関連ターゲット (16-1)



自主防犯組織や防犯パトロールなど地域の力を活用しながら、防犯体制の強化を行い、市民一丸となって犯罪の抑制に取り組みます。 関連ターゲット (17-17)

関連計画等

富士見市安全安心なまちづくり防犯推進計画 (平成 29 年度～令和 8 年度)

関連部署

総務部 安心安全課

分野 14 防犯・交通安全

暮らし

つながり

生活環境

成長

基本政策 20

交通事故が起きないまちで生活ができる

交通安全意識の向上を図ることで交通事故による死傷者数を減少させ、交通事故が起きない安全な“まち”を目指します。

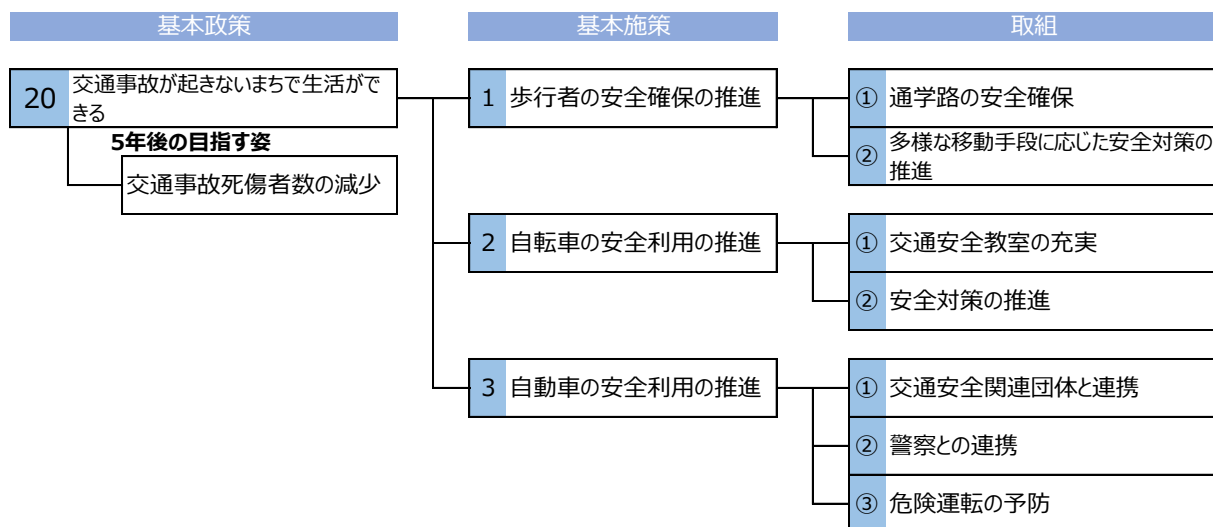
5年後の目指す姿

「交通事故死傷者数の減少」

歩行者、自転車、自動車等のそれぞれが、互いの持つ特性を理解し、事故を防ぐための手段を積極的に実行するなど、市内における交通事故死傷者数の減少を目指します。

数値目標	現状値	目標値
交通事故死傷者数	291名/年 (R1)	213名/年 (R7)

【ロジックモデル】



基本施策

20-1 歩行者の安全確保の推進

通学路の安全確保や車椅子やシニアカー³⁹利用者に対する市民の理解と交通安全意識の向上の支援を行うなど、歩行者の安全確保を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	交通事故死傷者数（歩行者）	34名/年（R1）	25名/年（R7）

【主な取組】 多様な移動手段に応じた安全対策の推進

車椅子やシニアカー利用者等も含めた歩行者に対する市民の理解と交通安全意識の向上を支援するなど、多様な移動手段に応じた安全対策を推進します。

【KSF】	現状値	目標値
歩行者の安全に関する意識啓発の実施	0回/年（R1）	⇒ 1回/年（R7）

20-2 自転車の安全利用の推進

学校や地域での交通安全教室を充実させ、自転車用ヘルメットの着用等、自転車の安全利用を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	交通事故死傷者数（自転車）	70名/年（R1）	51名/年（R7）

【主な取組】 交通安全教室の充実

交通安全意識の向上を図るため、学校と連携した交通安全教室の実施や地域団体主催の交通安全教室の支援、スクアードストレイト技法⁴⁰による交通安全教育の実施など、警察をはじめとした関係機関と連携し、交通安全教室を充実します。

【KSF】	現状値	目標値
地域団体主催の交通安全教室の実施回数	2回/年（H30）	⇒ 3回/年（R7）

³⁹ 主に高齢者が利用する、座りながら移動ができる電動車椅子のこと

⁴⁰ 恐怖を実感することで、それにつながる危険行為を未然に防ぐ教育手法

分野 14 防犯・交通安全

20-3 自動車の安全利用の推進

警察や交通安全関係団体と連携し、ドライバーに対する安全意識の周知啓発や情報発信を行うことにより、交通事故死傷者数（自動車等）の減少を図ります。

KPI	指標	現状値	目標値
	交通事故死傷者数（自動車等）	187名/年（R1）	137名/年（R7）

【主な取組】 警察との連携

県警スローガン「きらめき3H運動⁴¹」の周知啓発などを行い、交通安全意識の向上を図ります。

【KSF】	現状値	目標値
広報やHPの掲載回数	0回/年（R1）	⇒ 2回/年（R7）

関連するSDGsゴール



市全体で交通安全意識を向上させ、歩行時や自転車、自動車運転時のそれぞれで安全対策を促進することで、交通事故による死傷者数の減少に取り組みます。

関連ターゲット（3-6）



交通指導員の立哨や地域住民の方やPTAと連携した活動など、多様なパートナーシップにより通学路の安全確保に取り組みます。（17-17）

関連計画等

関連部署

総務部 安心安全課

建設部 交通・管理課

⁴¹ 高齢歩行者等の安全確保を目的として、早めのライト点灯、反射材の着用、歩行者保護の3つのHを重点に交通事故防止を呼びかける運動

分野 14 防犯・交通安全

基本政策 21

誰もが安心して生活を送ることができる

情報の提供と相談体制の充実に努め、市民が抱える不安や悩みを解消し、様々なトラブルに巻き込まれることなく、誰もが安心して生活を送ることができる“まち”を目指します。

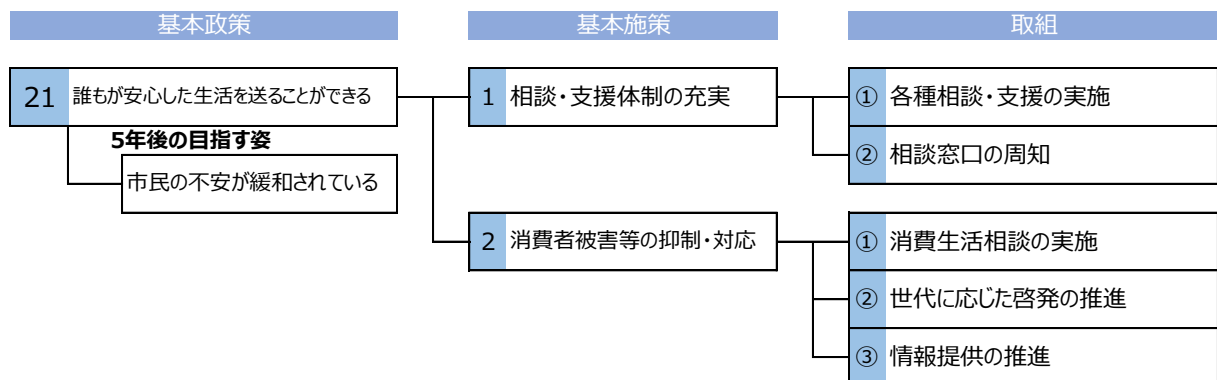
5年後の目指す姿

「市民の不安が緩和されている」

適切な相談・支援を実施することにより、市民生活における不安が緩和されることを目指します。

数値目標	現状値	目標値
「市民相談の充実」の満足度 (市民意識調査)	42.0% (R1)	52.0% (R7)

【ロジックモデル】



分野 15 市民相談・消費生活

基本施策

21-1 相談・支援体制の充実

多様化する相談内容への対応や、誰もが相談しやすい体制の構築により、相談・支援体制を充実します。

KPI	指標	現状値	目標値
	市民相談に関する相談窓口の認知度（WEB アンケート）	65.2%（R2）	75.0%（R7）

【主な取組】 相談窓口の周知

幅広い世代に向けた相談窓口の周知を図るとともに、多様な相談ニーズに対応した各種相談・支援を行います。

【KSF】	現状値	目標値
S N S 等を活用した周知の実施	0 回/年（R1）	⇒ 6 回/年（R7）

21-2 消費者被害等の抑制・対応

安心して生活を送ることができる社会を目指し、被害を未然に防ぐ啓発などを行い消費者被害等の抑制・対応を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	消費に関する知識が深まったと思う割合 （事業参加者等へのアンケート）	—	75.0%（R7）

【主な取組】 消費生活相談の実施

消費者被害に対応するため、幅広い世代に向けた相談窓口の周知を行うとともに、消費生活相談員による相談体制の拡充に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
消費生活に関する相談体制の拡充	—	⇒ 現状より拡充（R7）

関連する SDG s ゴール



相談体制を充実し、不安を取り除くことで、誰もが、安心した生活を送れることを目指します。

関連ターゲット（10-3）



誰もが相談しやすい環境を作り、不安をいつでも取り除くことができることを目指します。

関連ターゲット（11-1）



様々な相談に対応できる体制を構築することで、消費者被害の抑制や未然防止につながります。 関連ターゲット（16-3、16-4）

関連計画等

関連部署

市民生活部 人権・市民相談課

基本政策 22 **すべての世代が快適で暮らしやすいまちになる**

良好な都市機能や都市環境の形成を進め、活力と魅力があり、都市と自然の調和を保ちながら、すべての世代が快適で暮らしやすい“まち”となることを目指します。

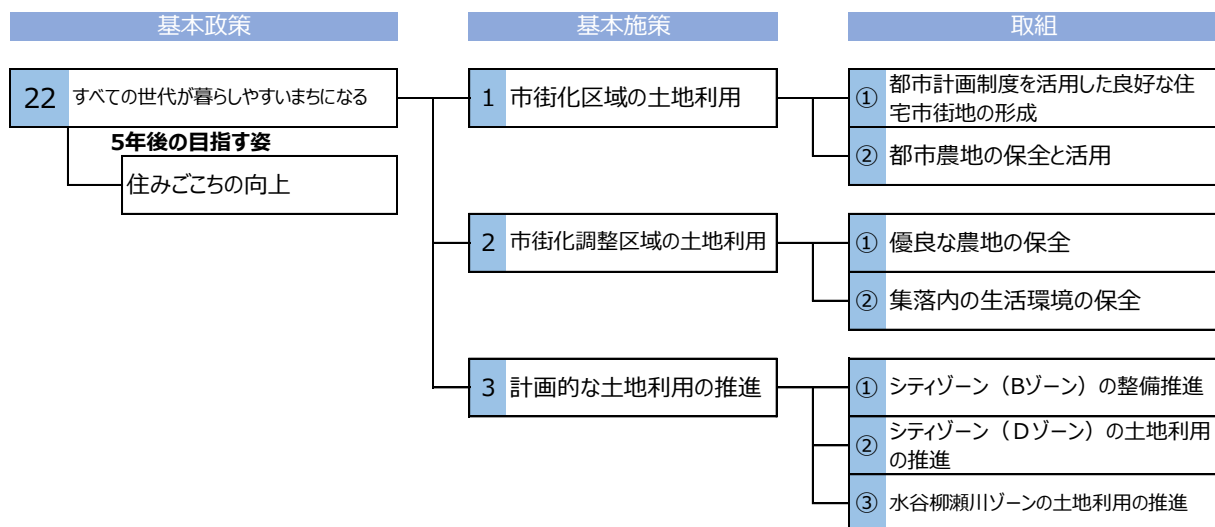
5年後の目指す姿

「住みごこちの向上」

計画的に都市機能や都市環境を形成し、福祉施設や子育て施設等の誘導を進め、暮らしやすさと住みごこちの向上を目指します。

数値目標	現状値	目標値
現在の住みごこち（「住みよい」の割合）（市民意識調査）	74.0%（H30）	83.1%（R7）

【ロジックモデル】



基本施策

22-1 市街化区域の土地利用

市街化区域においては、人口減少、超高齢社会に対応したコンパクトで暮らしやすい魅力的な住宅市街地の維持を目的に、市街化区域の土地利用を図ります。

KPI	指標	現状値	目標値
	市街化区域面積（住居系用途地域）	806.6ha(R2)	維持（R7）

【主な取組】 都市計画制度を活用した良好な住宅市街地の形成		
福祉施設、子育て施設等を誘導するとともに、日常生活を支える商業、サービス機能を維持します。また、まちづくりに関する情報発信に取り組み、市民参加による良好な住宅市街地の形成を推進します。		
【KSF】	現状値	目標値
まちづくりに関する情報発信	—	⇒ 実施（R7）

22-2 市街化調整区域の土地利用

自然豊かな風景を保全しながら、自然公園等のレクリエーション空間の整備を進め、暮らしやすさや生活環境を維持することを目的に、市街化調整区域内の土地利用を図ります。

KPI	指標	現状値	目標値
	市街化調整区域面積	1,121.0ha(R2)	維持（R7）

【主な取組】 優良な農地の保全		
周辺環境と調和した集落内の生活環境を維持し、田園地に広がる生産基盤として優良な農地を保全します。		
【KSF】	現状値	目標値
優良な農地面積の維持	370.8ha（R1）	⇒ 維持（R7）

分野 16 土地利用

22-3 計画的な土地利用の推進

周辺都市からヒト、モノ、コトが多く集まる複合的な市街地を形成するため、計画的な土地利用の転換を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	土地利用転換面積	0ha (R2)	19.1ha (R7)

【主な取組】 シティゾーン（Bゾーン）⁴²の整備推進

埼玉県企業局との共同事業により、シティゾーン（Bゾーン）の整備を推進し、就業や人が集まる場を確保します。

【KSF】	現状値	目標値
Bゾーン企業誘致率（面積比）	0% (R1)	⇒ 100% (R7)

関連するSDGsゴール



自然環境を維持しながら、生産活動や雇用の創出をするための計画的な市街地の整備を図り、持続可能なまちづくりの推進を進めます。 関連ターゲット（8-3）



災害に強く、安全で潤いのある住環境整備や産業系等への土地利用の転換を推進し、包摂的かつ持続可能なまちづくりの推進を図ります。 関連ターゲット（11-3）

関連計画等

富士見市都市計画マスタープラン（令和3年度～令和22年度）

関連部署

まちづくり推進部 まちづくり推進課、産業振興課

建設部 建築指導課

⁴² 本市のほぼ中央に位置し、国道254号バイパス（富士見川越道路）と県道三芳富士見線が交差する区域一帯。シティゾーンBゾーンは、交差部の北東側の区域

分野 16 土地利用

基本政策 23 円滑な移動と安全性が確保される

道路環境の安全安心の確保や利便性の向上により、市民の円滑な移動と安全性が確保されている“まち”を目指します。

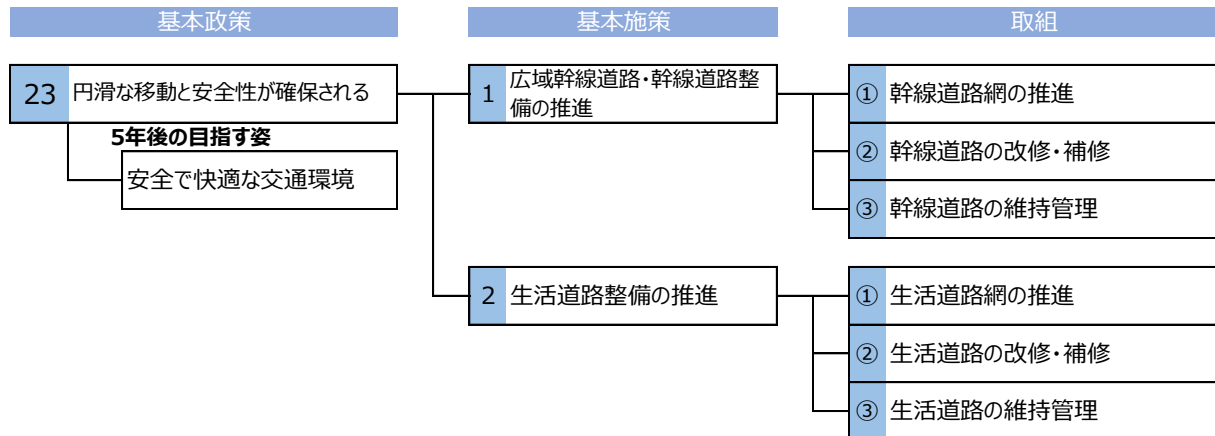
5年後の目指す姿

「安全で快適な交通環境」

本市の骨格となる幹線道路の整備や地域二を踏まえた生活道路の整備を推進し、市民が市内外へ円滑に移動できるよう、安全で快適な交通環境の充実に努めます。

数値目標	現 状 値	目 標 値
道路整備の満足度 (市民意識調査)	39.2% (H30)	50.0% (R7)

【ロジックモデル】



基本施策

23-1 広域幹線道路⁴³・幹線道路整備の推進

快適な市民生活や企業活動の活性化につなげるため、環境負荷の低減、災害対応力の向上など、市民生活の安全安心の確保に向けた幹線道路の整備を推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	幹線道路整備延長	39.7km/48.6km (81.7%) (R1)	40.3km/48.6km (82.9%) (R7)

【主な取組】 幹線道路網の推進

広域的な道路網とのアクセスを強化することにより、市内外への移動の円滑化や利便性の向上を図るため、幹線道路網の整備に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
整備延長	-	⇒ 0.7km (R7)

23-2 生活道路整備の推進

地域の利便性や安全性を向上させるため、通学路や交差点の安全対策、地域ごとの特性と魅力を活かし、ニーズを踏まえた生活道路の整備を推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	生活道路整備延長	185.2km/349.9km (52.9%) (R1)	186.0km/349.9km (53.1%) (R7)

【主な取組】 生活道路網の推進

道路空間の安全対策や道路拡幅により、市民生活の利便性の向上を図るため、生活道路網の整備に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
整備延長	-	⇒ 0.8km 以上 (R7)

⁴³ 一般国道、主要地方道など広域の自動車交通を円滑に処理する役割を持つための道路

分野 17 道路

関連する SDGs ゴール



道路環境の安全安心の確保に向けた環境づくりを進めます。

関連ターゲット (3-6)



誰もが容易に移動しやすい道路環境を維持していきます。

関連ターゲット (9-1)



すべての人のニーズに配慮した道路環境の機能強化を進めるとともに、持続的な成長に向けた道路空間づくりを進めます。 関連ターゲット (11-1、11-2、11-7、11-a)

関連計画等

富士見市都市計画マスタープラン (令和 3 年度～令和 22 年度)

富士見市道路長寿命化修繕計画 (令和 3 年度～令和 7 年度)

富士見市橋梁長寿命化修繕計画 (令和 3 年度～令和 12 年度)

関連部署

建設部 道路治水課

基本政策 24

安全な生活環境で過ごせる

局地的大雨等が増加傾向にあり、河川の増水などの災害リスクが危惧されていることから、市民が安全で安心して暮らすことができるよう、総合的な治水対策を実施し、災害に強い安全な生活環境で過ごせる“まち”を目指します。

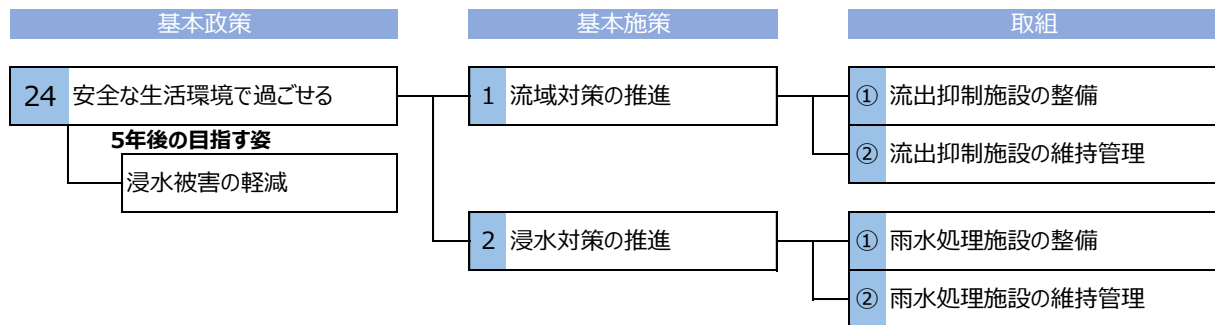
5年後の目指す姿

「浸水被害の軽減」

局地的な大雨の頻発等に対して、流域対策と浸水対策を推進することにより、浸水被害の軽減を図ります。

数値目標	現 状 値	目 標 値
床上・床下浸水戸数の軽減 (R1 台風 19 号と同一降雨量を前提)	394 戸 (H27～R1 年度の累計)	0 戸 (R7)

【ロジックモデル】



基本施策

24-1 流域対策の推進

河川、水路、道路などのインフラ整備によるまちづくりとの連動を強化し、そのインフラを活用した減災対策を進めるなど、流域全体における対策を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	浸透施設整備	—	延長 1.4km 以上 (R7)

【主な取組】 流出抑制施設の整備

雨水貯留浸透施設⁴⁴の設置、道路側溝による雨水浸透の推進、農地や緑地の保水、遊水機能の保持など、流出抑制施設の整備を進め、雨水流出量の抑制を図ります。

【KSF】	現状値	目標値
開発事業者への宅内浸透施設の設置要請	実施	⇒ 継続 (R7)

24-2 浸水対策の推進

都市型水害の発生に対応し、治水安全度の向上を図るため、排水施設などの整備、改善を総合的かつ計画的に進めるなど浸水対策を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	計画的な施設整備の実施	—	施設整備計画の策定 (R3) 施設整備計画の運用 (R4~)

【主な取組】 雨水処理施設の整備

更新時期を迎える排水施設の更新、河川・水路の改修などの整備に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
必要性や優先順位を踏まえた計画的な更新計画の策定	—	⇒ 計画に基づく施設整備の実施 (R7)

⁴⁴ 降雨時に、下流域への雨水の流出を抑制させるため、各住宅の敷地内や道路側溝等に雨水を一時的に貯留・浸透させる施設（浸透トレンチ等）

分野 18 治水

関連する SDGs ゴール



災害に強い都市基盤により、誰もが生活しやすく、活動しやすい環境を整えます。

関連ターゲット (9-1)



住み続けられるまちとなるよう安全安心な生活基盤づくりを推進していきます。

関連ターゲット (11-3、11-5、11-b)



気候変動の影響から局地的大雨等に備えた基盤整備による対応を着実に進めます。

関連ターゲット (13-1)

関連計画等

富士見市洪水ハザードマップ (平成 30 年度)

富士見市内水ハザードマップ (平成 30 年度)

関連部署

建設部 道路治水課

基本政策 25 **安心して安定的な水道水を使用できる**

水道施設の計画的な更新や健全な事業経営を進めるとともに、災害時に対する備えを充実することで、ライフラインである水道水を安心して、安定的に使用できる“まち”を目指します。

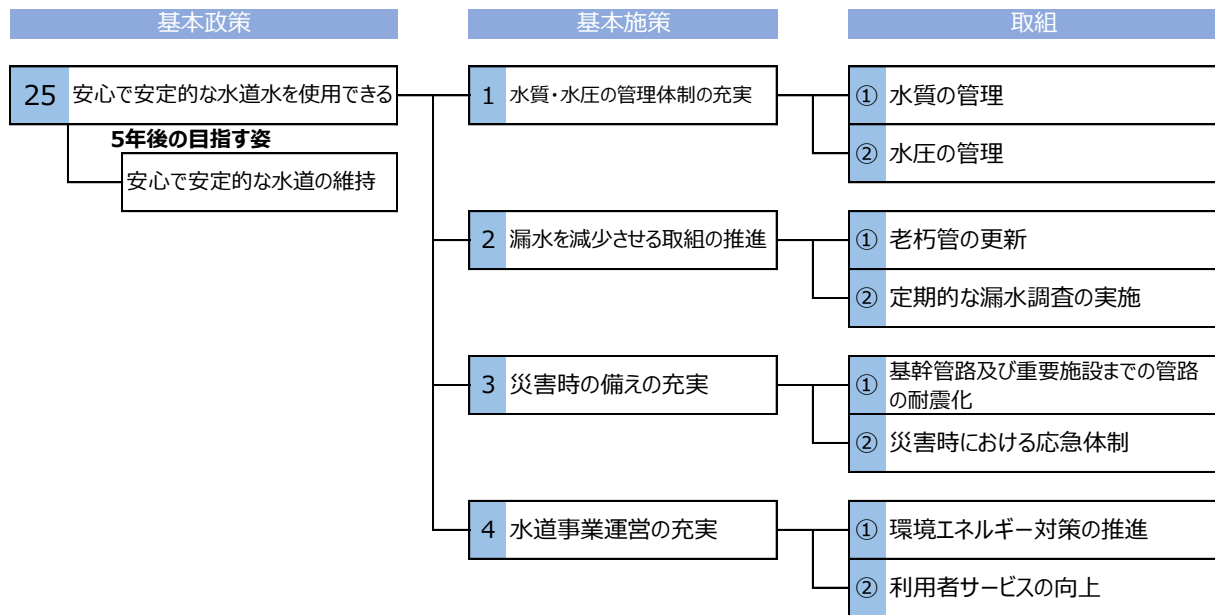
5年後の目指す姿

「安心して安定的な水道の維持」

漏水防止に努め、老朽化した水道施設の計画的な更新を進めることで、限りある水資源の有効利用を進め、有効水量⁴⁵の向上を目指します。

数値目標	現状値	目標値
有効水量の向上	96.1% (R1)	98.0% (R7)

【ロジックモデル】



⁴⁵ 配水される水量のうち、漏水などにより使えなくなった水量を除いた実際に使用できる水量

基本施策

25-1 水質・水圧の管理体制の充実

安全な水を供給するため、県営水道水や地下水の水質管理を徹底するとともに、水質に関する情報を提供するなど、水質と水圧の管理体制を充実します。

KPI	指標	現状値	目標値
	水質検査項目の合格	合格 (R1)	継続 (R7)

【主な取組】 水質の管理

残留塩素濃度を適切に管理するために、老朽化した浄水場滅菌設備を計画的に更新します。

【KSF】	現状値	目標値
浄水場滅菌設備の更新	2/4ヶ所 (R2)	⇒ 4/4ヶ所 (R7)

25-2 漏水を減少させる取組の推進

持続可能な水道事業を実現するため、老朽化した水道施設の計画的な更新を進め、漏水を減少させる取組を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	漏水件数の削減	200 件/年 (R1)	170 件/年 (R7)

【主な取組】 定期的な漏水調査の実施

水資源の有効利用に資するため、漏水調査を継続して実施し、有効率の向上に努めます。

【KSF】	現状値	目標値
漏水調査の実施	—	⇒ 5 年間で市内全域を調査

25-3 災害時の備えの充実

水道施設の耐震化を実施し、災害に強い水道施設を目指し、災害時の備えを充実します。

KPI	指標	現状値	目標値
	上水道の基幹管路の耐震化率の向上	52.5% (R1)	64.0% (R7)

【主な取組】 基幹管路及び重要施設までの管路の耐震化

災害に強い水道施設を目指し、基幹管路及び重要施設までの管路の耐震化を優先的に進めます。

【KSF】	現状値	目標値
基幹管路及び重要施設までの管路の耐震化工事	年 1 ヶ所	⇒ 年 1 ヶ所以上

分野 19 水道

25-4 水道事業運営の充実

環境に配慮した水道事業の経営を維持し、利用者サービスの向上など、水道事業運営を充実します。

KPI	指標	現状値	目標値
	水道普及率の向上	99.4% (R1)	99.5% (R7)

【主な取組】 環境エネルギー対策の推進

環境負荷低減のため、浄水場及び配水場のポンプ設備更新時にポンプの省電力化に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
省電力化ポンプの導入	0/3ヶ所 (R2)	⇒ 3/3ヶ所 (R7)

関連する SDGs ゴール



水道施設の更新や災害に対する備えを充実し、すべての市民に安心して安定的な水道水を供給できるよう取り組みます。 関連ターゲット (6-1)



健全な経営など水道事業の継続性を担保し、ライフラインである水道水を安定的に供給できるように取り組みます。 関連ターゲット (9-1)



管路の耐震化などを進め、災害時でも安定した水道が供給できるよう取り組みます。 関連ターゲット (11-b)



漏水を減少させるなど、水を資源として大切に、持続可能な管理と効率的な利用を推進します。 関連ターゲット (12-2)

関連計画等

富士見市水道ビジョン (平成 28 年度～令和 17 年度)

関連部署

建設部 水道課

基本政策 26 快適で安心な生活環境で過ごすことができる

衛生的で快適な生活環境や企業の経済活動を支えるとともに、河川、海域を水質汚濁等から守ります。また、都市に降った雨水を速やかに排水し、市民の生命・財産を守り、快適で安心な生活環境で過ごせる“まち”を目指します。

5年後の目指す姿

「川の水をきれいにする」

衛生的で快適な生活環境を保ち、河川の水質を保全するため、公共下水道や合併浄化槽⁴⁶などにより、川の水をきれいにすることを目指します。

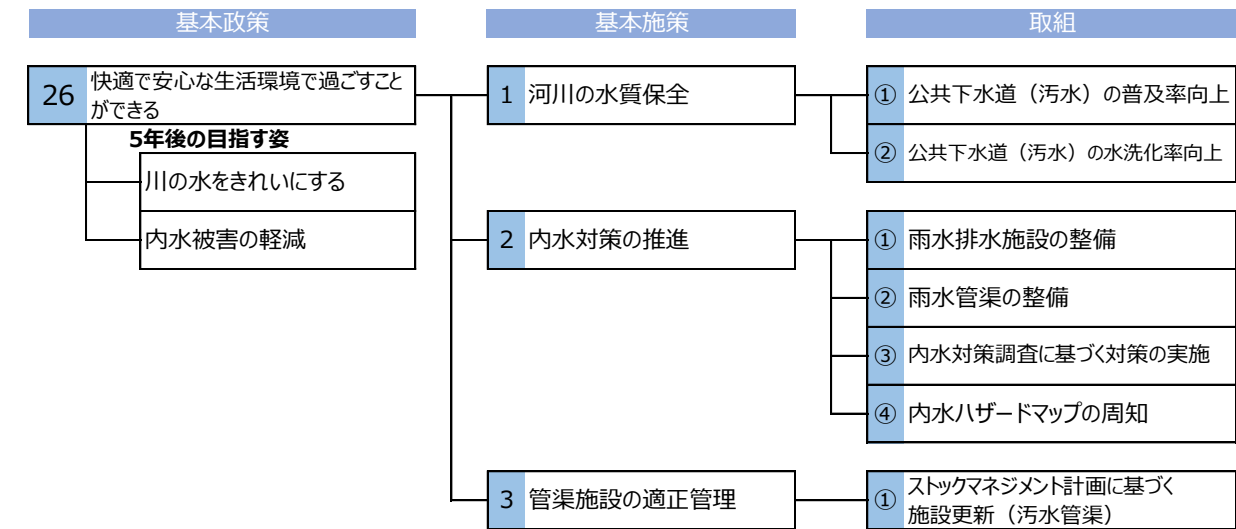
数値目標	現状値	目標値
生活環境の保全に関する環境基準 BOD ⁴⁷ (生物化学的酸素要求量)	1.3 mg/ℓ (R1)	維持 (R7)

「内水被害⁴⁸の軽減」

都市化による市街地での浸水被害を防ぐため、計画的に雨水排水施設の整備・改修に取り組み、内水被害の軽減を目指します。

数値目標	現状値	目標値
都市浸水対策達成率 ⁴⁹	31.4% (R1)	32.7% (R7)

【ロジックモデル】



⁴⁶ 汚水(し尿)や生活雑排水を微生物の働きなどを利用して浄化し、きれいな水にして放流するための施設

⁴⁷ BOD 値については、基準は6段階の類型(等級)があり、AA(1mg/L以下) A(2mg/L以下) B(3mg/L以下) C(5mg/L以下) D(8mg/L以下) E(10mg/L以下)という基準値となっている。

⁴⁸ 川の水位が上昇することにより、自然に川に排水できなくなり、市街地内を流れる側溝や排水路、下水道などから水が溢れる水害のこと

⁴⁹ 公共下水道(雨水)の都市浸水対策整備対象地域の面積のうち、計画規模の大雨に対して、公共下水道で整備が完了している区域の面積の割合

基本施策

26-1 河川の水質保全

公共下水道（汚水）の整備を計画的に進め、普及促進を図ることで河川の水質を保全します。

	指標	現状値	目標値
KPI	公共下水道（汚水）の普及率 (処理区域内人口/行政人口)	98.4% (R1)	99.9% (R7)

【主な取組】 公共下水道（汚水）の水洗化率向上

住環境の改善や公衆衛生の向上を図るため、公共下水道（汚水）の水洗化率向上に向け、未接続世帯の解消に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
水洗化率（水洗化人口/処理区域内人口）	99.1% (R1)	⇒ 99.3% (R7)

26-2 内水対策の推進

公共下水道（雨水）の主要な幹線やポンプ施設などの整備・更新を計画的に進めるとともに、治水機能の向上のため、河川管理者と連携し内水対策を推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	内水対策完了済面積	272.9ha (R1)	284.8ha (R7)

【主な取組】 雨水排水施設の整備

水害のない生活環境を確保するため、雨水排水施設の整備を計画的に進めます。

【KSF】	現状値	目標値
別所雨水幹線整備延長	497m (R1)	⇒ 1,448m (R7)

分野 20 下水道

26-3 管渠⁵⁰施設の適正管理

ストックマネジメント計画⁵¹に基づき管渠施設更新を計画的に進め、適正管理を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	管渠施設の計画的な更新	—	R2 策定の計画の中で設定

【主な取組】ストックマネジメント計画に基づく施設更新（污水管渠）

日常生活や社会活動に重大な影響を及ぼす事故発生や機能停止を未然に防止するよう努めます。また、下水道施設全体の状況を把握し、中長期的な施設の状態を予測しながら、下水道施設の点検、調査及び修繕、改築を計画的かつ効率的に行い、持続的な下水道機能の確保とライフサイクルコストの低減を図ります。

【KSF】	現状値	目標値
更新計画に基づく更新の実施	—	⇒ 計画的な更新の実施

関連する SDG s ゴール



生活環境を快適に保つため、下水施設の普及率の向上を図ります。

関連ターゲット（6-2、6-3）



雨水排水施設を計画的に更新、管理し、災害リスクの軽減を図り、市民の生命・財産を守ります。 関連ターゲット（11-3、11-5、11-b）



雨水排水施設を計画的に更新、管理し、災害に対する強靱性（レジリエンス）を強化します。 関連ターゲット（13-1）



水洗化率の向上を図り、水質の汚濁防止を図ります。

関連ターゲット（14-1）

関連計画等

東京湾流域別下水道整備総合計画（国土交通省所管）

荒川流域別下水道整備総合計画（埼玉県所管 平成 20 年度～令和 6 年度）

荒川右岸流域下水道事業（埼玉県所管 昭和 46 年 12 月～令和 5 年 3 月）

富士見都市計画下水道事業富士見公共下水道（昭和 49 年 10 月～令和 5 年 3 月）

荒川右岸流域関連富士見公共下水道事業（昭和 49 年 10 月～令和 5 年 3 月）

関連部署

建設部 下水道課

⁵⁰ 路面に埋設している排水管

⁵¹ 長期的な視点で下水道施設全体の老朽化の状況を考慮し、計画的に施設の点検・調査、修繕・改築を実施し、施設管理を最適化する計画

基本政策 27 **安心して円滑に移動ができる**

地域公共交通網の充実や近隣自治体との広域的な連携強化を図るなど、市民の移動利便性の向上に努め、誰もが安心して円滑に移動できる交通体系が確立された“まち”を目指します。

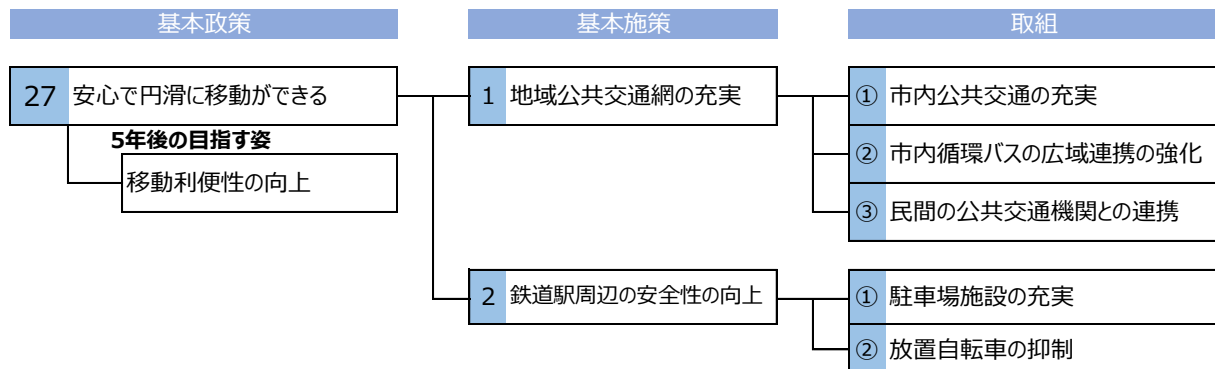
5年後の目指す姿

「移動利便性の向上」

高齢化の進展など社会情勢の変化や、環境問題などの視点も組み入れ、新たな公共交通システムの活用により地域公共交通網を充実させるなど、移動利便性の向上を目指します。

数値目標	現状値	目標値
移動に不便を感じている人の割合 (市民意識調査)	—	25%以下 (R7)

【ロジックモデル】



基本施策

27-1 地域公共交通網の充実

市内循環バス及びデマンドタクシーの利用状況などを踏まえ、新たな公共交通を研究し、利便性の高い地域公共交通網の形成と充実を目指します。

KPI	指標	現状値	目標値
	市内循環バスの利用者数	170,664 人 (R1)	175,000 人 (R7)

【主な取組】 市内公共交通の充実

市内循環バス及びデマンドタクシーの利用状況を検証し、移動に関する地域性や年代別の特性などを把握することで、新たな市内公共交通の充実の基礎資料とし、移動に不便を感じている人への交通支援策などを検討します。

【KSF】	現状値	目標値
市内循環バス及びデマンドタクシーを含めた市内交通の検証	—	⇒ 実施 (R7)

27-2 鉄道駅周辺の安全性の向上

放置自転車・違法駐車対策として、駐輪、駐車施設を運営するとともに、駅近隣の店舗や鉄道事業者と協力し、鉄道駅周辺の美観の向上と歩行者などの安全性の向上を図ります。

KPI	指標	現状値	目標値
	放置自転車・違法駐車対策の推進の満足度 (市民意識調査)	59.5% (H30)	65.0% (R7)

【主な取組】 放置自転車の抑制

駅周辺における“まち”の美観と歩行者などの安全性を確保するため、放置自転車の撤去や、路上に自転車等を放置しないよう、指導や整理などの対策を図り、放置自転車の抑制に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
放置自転車の台数	21,141 台/年 (R1)	⇒ 21,000 台/年 (R7)

分野 21 公共交通

関連する SDGs ゴール



公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、安全かつ容易に利用できる、持続可能な輸送システムを提供していきます。 関連ターゲット（11-2）



官民の連携を強化し、地域公共交通の充実や駅周辺の安全確保に向けた取組を進めます。 関連ターゲット（17-17）

関連計画等

富士見市都市計画マスタープラン（令和3年度～令和22年度）

関連部署

健康福祉部 障がい福祉課、高齢者福祉課

建設部 交通・管理課

分野 21 公共交通

基本政策 28

快適な生活環境で過ごす

環境に配慮した取組を進め、都市と自然との調和を図りながら、市民が将来にわたって快適な生活環境で過ごすことができる“まち”を目指します。

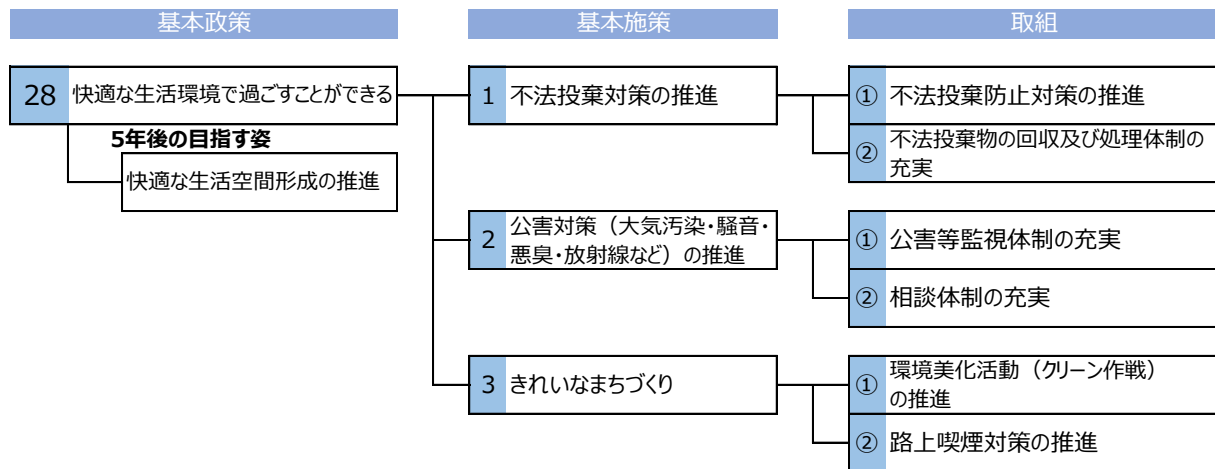
5年後の目指す姿

「快適な生活空間形成の推進」

市民、事業者、行政が一体となって環境の保全、創造に向けた活動に取り組み、将来にわたって住みよい“まち”、快適な生活を送れる“まち”の形成を推進します。

数値目標	現状値	目標値
良好な生活環境の維持	—	維持・向上(R7) (各基本施策のK P Iの全てを達成)

【ロジックモデル】



基本施策

28-1 不法投棄対策の推進

不法投棄を防止するため、パトロールを行うなど、不法投棄されにくい環境づくりを進めます。

KPI	指標	現状値	目標値
	不法投棄物の削減	20,000kg (H30)	15,000kg (R7)

【主な取組】 不法投棄防止対策の推進

クリーンアップ運動⁵²などの環境美化活動に取り組み、県や警察と連携した新たな施策の検討など不法投棄防止対策の推進に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
県・警察と連携体制の充実	実施 (R1)	⇒ 継続 (R7)

28-2 公害対策（大気汚染・騒音・悪臭・放射線など）の推進

大気環境や河川の水質の監視、測定を行い、その結果を公表するとともに環境状況を把握し、良好な環境を辞していきます。

KPI	指標	現状値	目標値
	環境指標物質（ダイオキシン等）における環境基準の達成	全項目の達成 (R1)	維持 (R7)

【主な取組】 公害等監視体制の充実

大気中の二酸化窒素や大気・土壌のダイオキシン類、河川の水質、自動車騒音、空間放射線量などについて毎年測定を行い、その結果を公表し、公害等を監視する体制を充実します。

【KSF】	現状値	目標値
公害分析調査	1回/年 (R1)	⇒ 維持 (R7)
放射線量測定	6回/年 (R1)	

⁵² 市内一斉清掃日「富士見市をきれいにする日」を定め、広報活動などを通じ美化活動への参加を広く呼びかけるなど、年間を通じ市全体として美化に取り組む運動

分野 22 環境

28-3 きれいなまちづくり

公共空間における環境美化に取り組むなど、きれいなまちづくりを推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	公共空間における環境美化活動の継続（クリーン作戦 ⁵³ でのごみ回収量）	9,400kg/年（R1）	10,400kg/年（R7）

【主な取組】 環境美化活動（クリーン作戦）の推進

環境美化活動を実施している市民団体や事業者に対して、必要な物品の貸与、提供の支援を行うなど、環境美化活動の推進に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
環境美化活動（クリーン作戦）参加人数	8,000人/年（R1）	⇒ 8,500人/年（R7）

関連するSDGsゴール



大気、水質及び土壌の汚染による環境悪化を監視し、健康な生活を確保します。

関連ターゲット（3-9）



不法投棄の防止のため、関係機関と連携し、パトロールなどによる監視体制を強化します。また、大気、水質及び土壌の汚染や不法投棄を監視し、環境上の悪影響を軽減します。 関連ターゲット（11-6）



大気や水質及び土壌の汚染等を監視し、汚染物質を排出している原因者に指導を行います。 関連ターゲット（12-4）



クリーン作戦などによるごみ拾いや、水質汚染などを監視し、河川を經由した海洋汚染を防止します。 関連ターゲット（14-1）



湧き水などの自然環境の保全とともに特定外来生物の駆除を行い、生態系の保持や生物多様性の保全を図ります。 関連ターゲット（15-5、15-8）



快適な生活環境づくりのために、市民、事業者、行政が情報共有、役割分担、連携を行い、共生できるまちづくりを進めます。 関連ターゲット（17-16、17-17）

関連計画等

第2次富士見市環境基本計画改定版（平成30年度～令和3年度）

第3次富士見市美化推進計画（令和2年度～令和6年度）

関連部署

自治振興部 環境課

⁵³ 市民や町会、協力団体と連携し、地域清掃活動の一層の促進を図ることを目指した事業

基本政策 29

持続可能な生活環境で過ごす

市民が自然からの恵みを楽しみ、自然や地球環境を守りながら、将来にわたり快適な生活を維持するとともに、持続可能な生活環境で過ごせる“まち”を目指します。

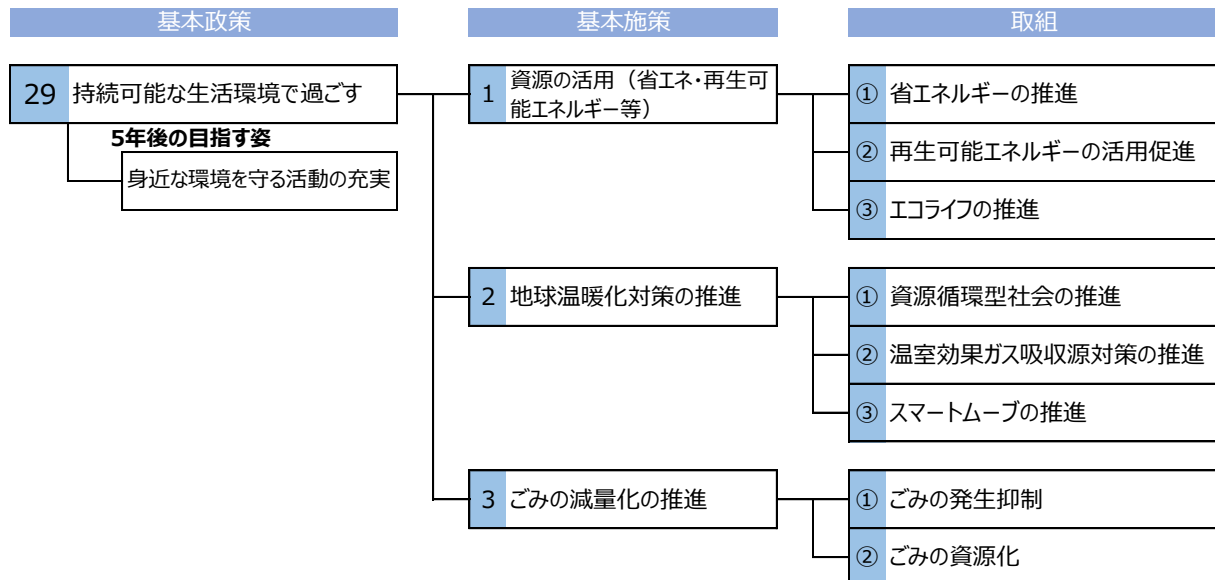
5年後の目指す姿

「身近な環境を守る活動の充実」

省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの導入啓発を行うとともに、ごみをなるべく出さず、できるだけ資源として使い、使えないごみはきちんと処分を行うことで、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷をできる限り減らすなど、身近な環境を守る活動の充実を目指します。

数値目標	現状値	目標値
廃棄物の減量化及び資源の循環利用の推進	—	維持・向上 (R7) (各基本施策のK P Iの全てを達成)

【ロジックモデル】



基本施策

29-1 資源の活用（省エネ・再生可能エネルギー等）

「富士見市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」に基づき、市民、事業者、行政が一体となって温室効果ガスの削減、再生可能エネルギーの普及など資源の活用を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	温室効果ガスの排出量削減	412,451t (H26)	344,116t (R4)

※目標値については、計画期間中に更新予定

【主な取組】 再生可能エネルギーの活用促進		
分散・循環型エネルギー社会の構築に向け、再生可能エネルギー機器等の設置に対する奨励制度により普及啓発を継続するとともに、多様な再生可能エネルギーの活用を促進します。		
【KSF】	現状値	目標値
地球温暖化防止活動支援補助金交付件数	66 件/年 (R1)	⇒ 80 件/年 (R7)

29-2 地球温暖化対策の推進

温室効果ガスの排出実態と特性を把握し、具体的な削減目標の設定や温室効果ガスの排出抑制、緑の保全などの取組を進め、地球温暖化対策を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	温室効果ガスの排出量削減（市事務事業）	7,876,366kg (H30)	7,394,000kg (R3)

※目標値については、計画期間中に更新予定

【主な取組】 温室効果ガス吸収源対策の推進		
緑の保全に努めるとともに、その大切さを啓発していきます。また、多くの公共施設において、壁面緑化など温室効果ガス吸収源対策の推進に取り組みます。		
【KSF】	現状値	目標値
公共施設壁面緑化実施施設数	22 施設 (R1)	⇒ 32 施設 (R7)

分野 22 環境

29-3 ごみの減量化の推進

「富士見市一般廃棄物処理基本計画」に基づき廃棄物施策を総合的かつ計画的に推進するとともに、市民、事業者に向けたごみのリサイクルの取組を啓発し、ごみの減量化を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	ごみ総排出量	29,490 t (H30)	28,741t (R7)

※次期計画で再設定

【主な取組】 ごみの発生抑制		
4R ⁵⁴ の普及啓発を図り、食品ロスやプラスチックなどのごみの発生抑制に取り組みます。		
【KSF】	現状値	目標値
1人1日当たりのごみの排出量	728 g (H30)	⇒ 709 g (R7)

※次期計画で再設定

関連するSDGsゴール



再生可能エネルギー等の設置に対する奨励制度の普及啓発を継続することで、再生可能エネルギー機器の普及を促進します。 関連ターゲット (7-2)



廃棄物の発生抑制、削減、再生利用、再利用により、ごみの減量化・資源化を推進します。 関連ターゲット (12-3、12-5)



気候変動に対する早期警戒に関する啓発に取り組むため、市民、事業者に対し、壁面緑化の有効性を広く周知します。 関連ターゲット (13-3)



不法投棄されるプラスチックごみを削減することにより、河川を経由した海洋汚染を防止します。 関連ターゲット (14-1)



緑の保全の重要性を普及啓発することで、将来にわたり保存樹林等が保全されるよう努めます。 関連ターゲット (15-1、15-2)



ごみの減量化・資源化を推進するため、市民、事業者、行政のパートナーシップを構築していきます。 関連ターゲット (17-16、17-17)

関連計画等

第2次富士見市環境基本計画改定版（平成30年度～令和4年度）

第3次富士見市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）（平成29年度～令和3年度）

富士見市一般廃棄物処理基本計画第2次計画改訂版（平成28年度～令和2年度）

関連部署

自治振興部 環境課

⁵⁴ 1.リフューズ（ごみの発生回避）2.リデュース（ごみの排出抑制）、3.リユース（再利用）4.リサイクル（再資源化）の4つに取り組み、ごみを減らす運動

基本政策 30

人が集う（ふれあう）場が確保されている

心のやすらぎを感じられ、人と人が集い、ふれあえる場として活用できる公園・緑地が確保されている“まち”を目指します。

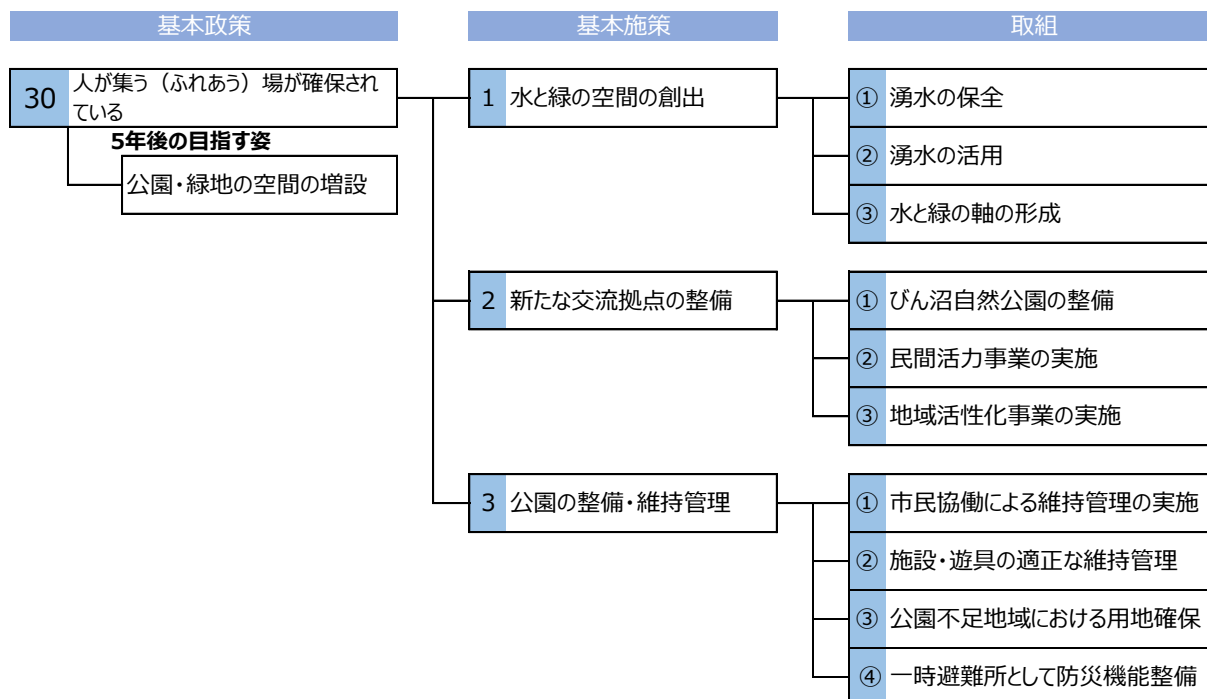
5年後の目指す姿

「公園・緑地の空間の増設」

子育て世帯をはじめとした多くの人たちが、心のやすらぎを感じられるよう、特色ある公園の維持、発展や緑地の整備など、公園・緑地の空間の増設を目指します。

数値目標	現状値	目標値
公園の整備・緑化の推進の満足度の向上（市民意識調査）	63.1%（H30）	66.0%（R7）

【ロジックモデル】



基本施策

30-1 水と緑の空間の創出

本市の貴重な自然環境を次世代につなぎ、観光資源として地域の活性化を促進するため、自然豊かな環境を保全し、憩いの場として活用できる水と緑の空間を創出します。

KPI	指標	現状値	目標値
	湧水と緑の回廊整備	—	1ヶ所 (R7)

【主な取組】 湧水の活用		
湧水と緑地が特に多く点在する富士見江川沿いの湧水地などを保全し、市民が気軽にふれあえ、自然と歴史の学びの場となる地域資源として活用していきます。		
【KSF】	現状値	目標値
自然学習会の実施	— ⇒	1回/年 (R7) ※回廊整備後実施予定

30-2 新たな交流拠点の整備

すべての世代が憩い、楽しめる空間形成を目指し、「水辺空間の活用・創出」、「自然を活用した体験の場の創出」、「地域の魅力向上・活性化」を基本的な考えとした新たな交流拠点の整備を進めます。

KPI	指標	現状値	目標値
	びん沼自然公園の来場者数目標	—	50,000人/年

【主な取組】 びん沼自然公園の整備		
豊かな自然の中での活動を促進するパークゴルフ場の整備、公園のシンボルとなる展望台など、地域や企業などとも連携しながら魅力あるびん沼自然公園の整備に取り組みます。		
【KSF】	現状値	目標値
びん沼自然公園の整備の完了	— ⇒	整備完了 (令和3年度末)

分野 23 公園・緑

30-3 公園の整備・維持管理

公園不足地域における公園用地の確保や、誰もが、安全安心に公園の利用ができるよう、市民とともに防災面などにも配慮した適切な公園の整備と維持管理を進めていきます。

KPI	指標	現状値	目標値
	住民一人当たりの公園面積	3.68 m ² /人 (R1)	3.74 m ² /人 (R7)

【主な取組】 施設・遊具の適正な維持管理

誰もが安全で安心して公園を利用できるよう、施設・遊具の安全点検実施の充実を図り、適正に維持管理を行います。

【KSF】	現状値	目標値
施設保守点検の実施	実施 (R1)	⇒ 継続 (R7)

関連する SDGs ゴール



身近な自然である湧水などを保全することで、環境破壊等環境上の悪影響を軽減させ、次世代にこの自然をつないでいきます。 関連ターゲット (11-4、11-6)



身近な自然である湧水などを市民が気軽に触れることのできるものとして活用するとともに、次世代へこの貴重な自然を引き継いでいきます。 関連ターゲット (12-8)



生物多様性と生態系を保全しながら、自然と調和した新たな交流拠点となるようびん沼自然公園の整備を進めます 関連ターゲット (15-a)

関連計画等

富士見市都市計画マスタープラン (令和3年度～令和22年度)

関連部署

まちづくり推進部 まちづくり推進課

基本政策 31

豊富な緑の中で生活ができる

本市の貴重な財産である自然環境・景観を次世代に継承するため、緑の保全に努めるとともに、新たな緑の創出を進めることで、多くの人々が訪れ、親しみ、憩い、交流できる空間を確保し、豊富な緑の中での生活ができる“まち”を目指します。

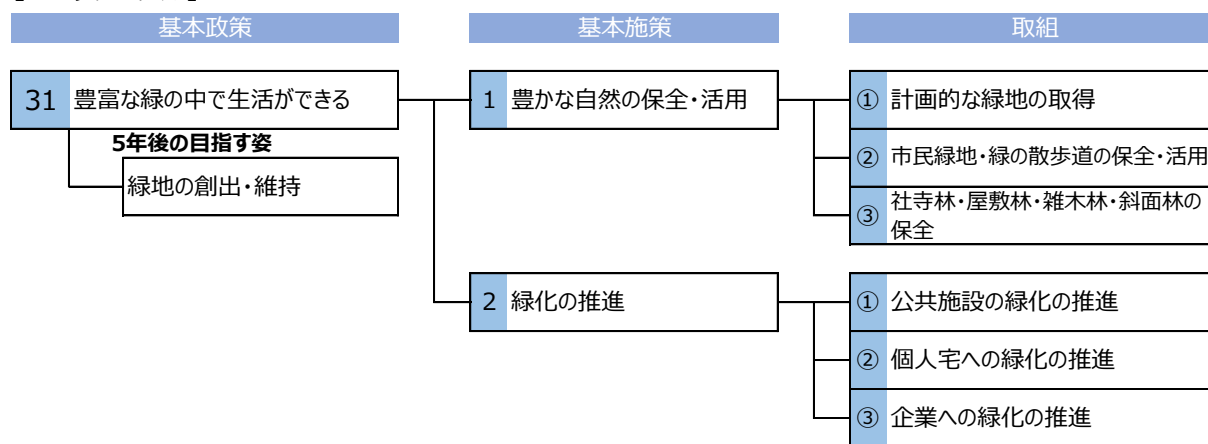
5年後の目指す姿

「緑地の創出・維持」

まちと自然の共存を実現し、斜面林、屋敷林、湧水などを貴重な財産として後世に引き継げるよう緑地を適切に維持し、新たな緑地の創出を目指します。

数値目標	現状値	目標値
市内の緑地面積 ⁵⁵	68,101.1 m ² (R1)	88,101.1 m ² (R7)

【ロジックモデル】



⁵⁵ 保存樹林・市民緑地・緑の散歩道の面積の合計

基本施策

31-1 豊かな自然の保全・活用

緑地保全基金⁵⁶、市民緑地、緑の散歩道の制度により、市民が身近に緑と親しめる豊かな自然の保全、活用を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	保全できた緑地面積	68,101.1 m ² (R1)	維持 (R7)

【主な取組】 計画的な緑地の取得

緑地保全基金の充実を図り、計画的に緑地を取得していきます。

【KSF】	現状値	目標値
公有地化する緑地面積	—	⇒ +2,839 m ² (R7)

31-2 緑化の推進

緑豊かな市の魅力を維持、向上していくため、公共施設の緑化、個人宅の緑化、企業の緑化を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	緑地面積	—	+20,000 m ² (R7)

【主な取組】 公共施設の緑化の推進

緑豊かな自然環境、景観を市が率先して維持向上していくため、道路、駅周辺、公園、学校などの公共施設の緑化に継続して取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
公共施設の緑化	—	⇒ 継続 (R7)

⁵⁶ 市内に残されている貴重な樹林や緑地を保全目的として取得するため基金

分野 23 公園・緑

関連する SDGs ゴール



貴重な自然の保全に努め、本市の貴重な財産として、次世代にこの豊かな自然環境を引き継いでいきます。 関連ターゲット（11-4、11-6）



市民が身近に緑に親しめる環境をつくり、自然と調和したライフスタイルを確立します。 関連ターゲット（12-8）



緑地の保全、活用を進めるとともに、緑化の推進、新たな緑地を創出し、緑と自然豊かなまちづくりを進めます。 関連ターゲット（15-2）

関連計画等

富士見市都市計画マスタープラン（令和3年度～令和22年度）

関連部署

まちづくり推進部 まちづくり推進課

基本政策 32 良好な住環境のもとで生活ができる

市民一人ひとりが良好な住環境のもとで、安全安心かつ快適な生活ができていると実感できる“まち”を目指します。

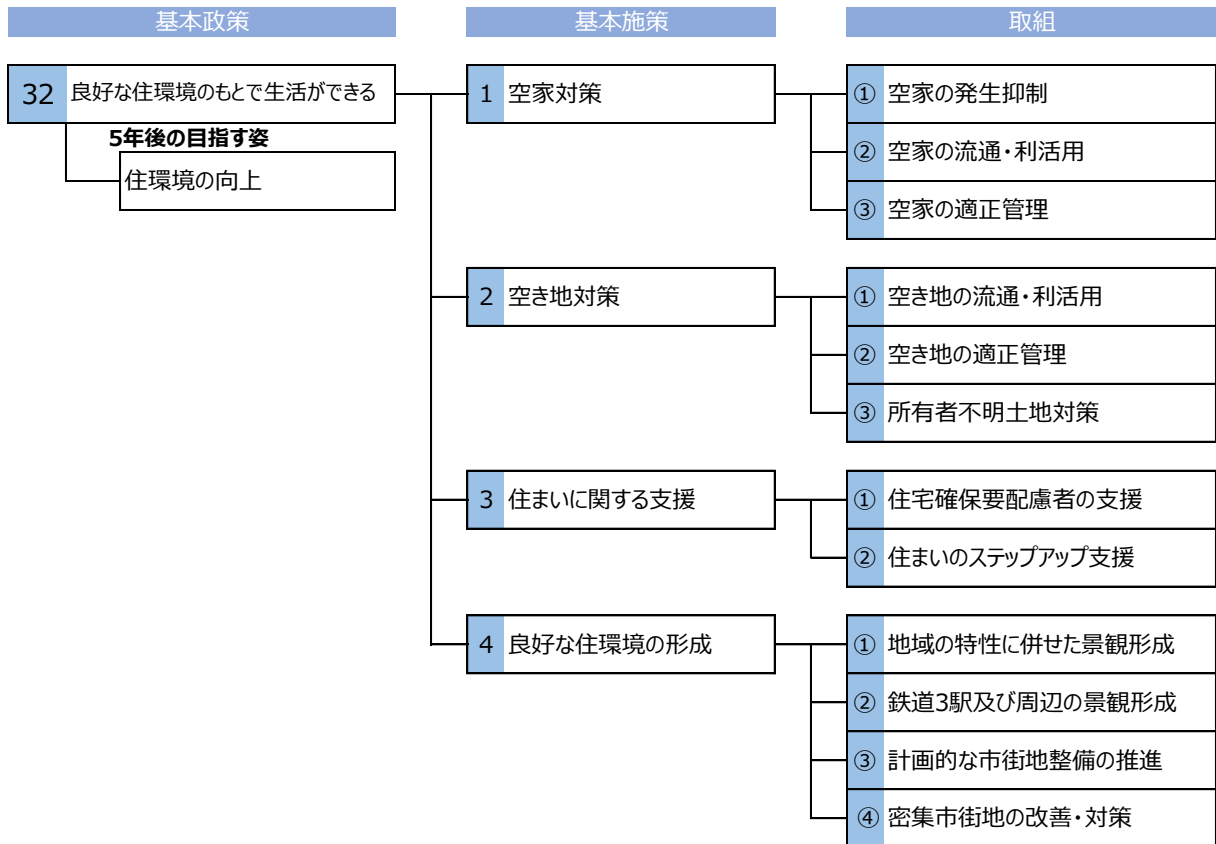
5年後の目指す姿

「住環境の向上」

住まいに関する課題の改善が図られ、住みやすさが向上するとともに、市民が日常生活を送る上で、住み続けたいと感じることができるよう住環境の向上を目指します。

数値目標	現状値	目標値
「住み続けたい」の割合 (市民意識調査)	77.4% (H30)	83.1% (R7)

【ロジックモデル】



基本施策

32-1 空家対策

放置されている空家が及ぼす様々な影響は、地域における今後の重要な課題となることが予想されるため、市民の生活環境の保全と安全安心なまちづくりに向け、「発生抑制」、「流通・利活用」、「適正管理」の観点から、空家対策を総合的かつ計画的に推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	その他の空家 ⁵⁷ 件数（住宅・土地統計調査）	2,073 戸（R7） （将来予測値）	1,970 戸（R7） （将来予測値から 5%減少させる）

【主な取組】 空家の発生抑制

空家に関する相談体制を充実させるとともに、空家の発生抑制に向けた周知啓発、空家の実態把握やデータベース管理を行い、空家の発生抑制に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
空家データベース登録件数	650 件（R1）	⇒ 899 件（R7）

32-2 空き地対策

適正に管理されていない空き地や活用されていない空き地、全国的に問題となっている所有者不明土地の適正管理や有効活用を図るなど、空き地対策を推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	空き地に係る苦情相談件数	11 件/年（R1）	4 件/年（R7）

【主な取組】 空き地の流通・利活用

空き地の流通・利活用に係る相談体制や空き地バンク制度を整備するとともに、空き地の寄附受入れ制度や所有者不明土地の実態把握と活用に向けた研究を進めます。

【KSF】	現状値	目標値
空き地所有者からの相談件数	0 件（R2）	⇒ 1 件以上/年（R7）

⁵⁷ 住宅・土地統計調査における空家のうち、賃貸・売却用、別荘等を除いたもの

分野 24 住環境

32-3 住まいに関する支援

各世帯の状況や希望に応じた住まいの実現のため、居住支援や住宅取得等に係る支援など、住まいに関する支援を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	"住みやすさ"の市民満足度（市民意識調査）	52.9%（H30）	55.0%（R7）

【主な取組】住宅確保要配慮者⁵⁸の支援

埼玉県住まい安心支援ネットワークへの参画を通して、最新の居住支援情報の周知やセーフティネット住宅の登録促進に取り組むとともに、住宅確保要配慮者が安心して居住できるための支援策の研究を進めます。

【KSF】	現状値	目標値
あんしん賃貸住まいサポート店 ⁵⁹ の斡旋件数	-（R1） ⇒	25件（R7）

32-4 良好な住環境の形成

災害に強いまちづくりを基本とした計画的な市街地整備を推進し、地域の特性に応じた景観形成等を行うことで、ゆとりと潤いのある良好な住環境の形成を図ります。

KPI	指標	現状値	目標値
	"住みやすさ"の市民満足度（市民意識調査）	52.9%（H30）	55.0%（R7）

【主な取組】計画的な市街地整備の推進

土地区画整理事業により、良好な住環境と災害に強い安全安心な市街地整備に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
土地区画整理事業の完了	0地区（R1） ⇒	3地区（R7）

⁵⁸ 低額所得者、被災者、高齢者、障がい者、子育て世帯など、住宅の確保に特に配慮を必要とする市民

⁵⁹ 高齢者世帯、障がい者世帯、外国人世帯、子育て世帯などの住まい探しを支援する不動産仲介業者

関連する SDGs ゴール



ハード・ソフト両面からすべての市民にとって良好な住環境の整備を推進し、適切で安全かつ持続可能な地域の実現を目指します。 関連ターゲット（11-1、11-3）



民間事業者や地域住民の専門性・経験・知識等を積極的に活用し、効果的な事業の実施に努めるなど、官民等のパートナーシップを推進します。 関連ターゲット（17-17）

関連計画等

富士見市空家等対策計画（平成 30 年度～令和 4 年度）

富士見市都市計画マスタープラン（令和 3 年度～令和 22 年度）

関連部署

自治振興部 環境課

まちづくり推進部 まちづくり推進課

建設部 建築指導課

基本政策 33

楽しく、便利に市内で買物ができる

多様化する消費者ニーズなどに対応するため、新しい商業者を育て、創意工夫による魅力づくりに取り組む“頑張る個店”を応援することで、市内で買物が楽しく、便利にできる“まち”を目指します。

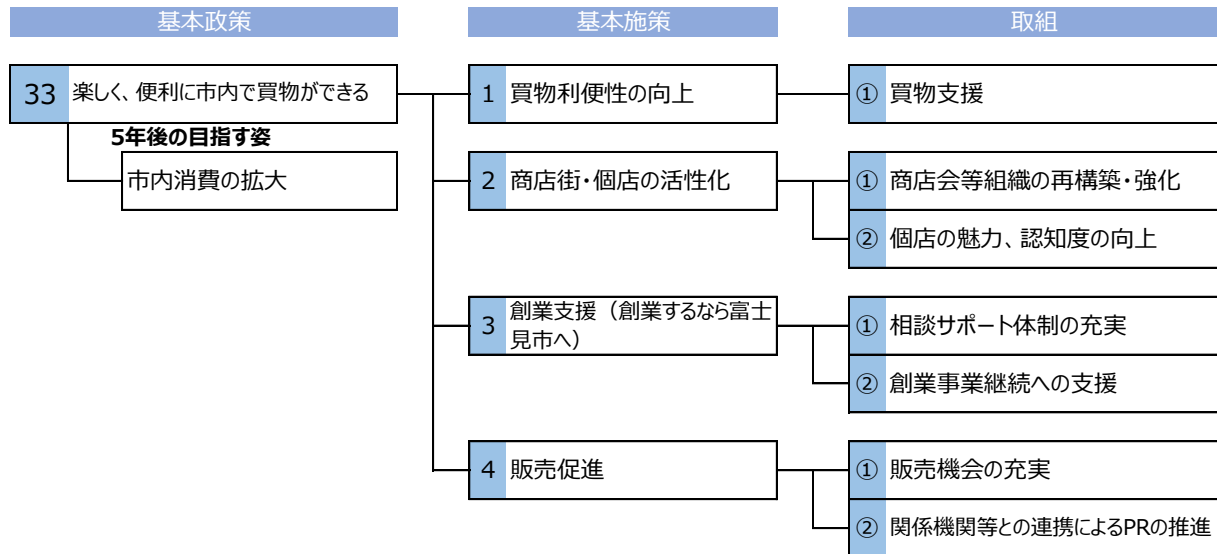
5年後の目指す姿

「市内消費の拡大」

市内だけで必要な買物を済ませることができる環境づくりや、魅力ある商店づくりなどに取り組み、市内消費の拡大を目指します。

数値目標	現状値	目標値
市内消費の割合（食料品・日用雑貨等） （埼玉県広域消費動向調査）	69.2%（R1）	75.0%（R7）

【ロジックモデル】



基本施策

33-1 買物利便性の向上

楽しく、便利に買い物ができるよう、社会情勢の変化に合わせ、市民の買物利便性の向上を図ります。

	指標	現状値	目標値
KPI	近くの店舗や商店街の利用頻度の向上 (商業活性化ビジョンアンケート)	7.1% (R1)	12.4% (R7)

【主な取組】 買物支援

地域ごとに、商業者、農業者、工業者が連携し、消費者と顔の見える関係をつくる地域版ふじみマーケットや、買物ができない、または買物が不自由な高齢者や乳幼児のいる家庭等に対し、商店街が実施する移動販売、販売代行のサービスなど、商業者が地域に出向き、楽しく買い物ができるために取り組む支援を行います。

【KSF】	現状値	目標値
買物支援策の実施	— ⇒	1事業以上 (R7)

33-2 商店街・個店の活性化

暮らしを支える買物の場、地域コミュニティをつくり出す場としての役割を担うよう、商店街や個店の活性化を図ります。

	指標	現状値	目標値
KPI	小売業の事業所数 (経済センサス)	537 事業所 (H28)	550 事業所 (R7)

【主な取組】 商店会等組織の再構築・強化

地域の賑わいや認知度の向上、消費の拡大を目指す商店会等が実施するイベントへの支援など、組織の再構築、強化に取り組めます。

【KSF】	現状値	目標値
組織強化に取り組んだ商店会数 (実績)	2 商店会 (R1) ⇒	4 商店会 (R7)

分野 25 商工

33-3 創業支援（創業するなら富士見市へ）

次代を担う若者や、女性、シニア等が創業に挑戦しやすい環境を整え、育成します。

	指標	現状値	目標値
KPI	支援した事業所の満足度（支援事業所アンケート（仮））	—	75%以上（R7）

【主な取組み】 相談・サポート体制の充実

創業支援セミナーの開催と併せ、創業事業計画の作成や各種申請等、創業に向けた具体的なアドバイス、指導の場として、専門家（中小企業診断士等）による相談窓口を開設します。

【KSF】	現状値	目標値
創業相談窓口での相談件数	— ⇒	24 件/年（R7）

33-4 販売促進

利益の向上、持続可能な商業振興を進めるため、消費者に対し、商品やサービスの購買意欲を高める働きかけを行うなど、販売促進を図ります。

	指標	現状値	目標値
KPI	小売業の年間販売額（経済センサス）	86,981 百万円（R1）	89,087 百万円（R7）

【主な取組】 関係機関等との連携による PR の推進

ららぽーと富士見店舗内での PR 活動やイベントの実施など、関係機関等との連携による PR の推進に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
いい富士見の日（毎年 11 月 23 日）参加店舗	107 店舗 （R1）	⇒ 110 店舗 （R7）

関連する SDGs ゴール



次代を担う若者や、女性、シニア等が、創業に挑戦しやすい環境を整備するなど、積極的な応援に取り組みます。 関連ターゲット (8-1)



産業振興基金を活用した支援などにより付加価値創造を促進し、多様で魅力ある個店の増加に向けて取り組みます。 関連ターゲット (9-b)



消費者ニーズをとらえた魅力ある個店を増やすとともに、市内消費の促進のための支援に取り組みます。 関連ターゲット (12-a)

関連計画等

富士見市第3次商業活性化ビジョン（令和3年度～令和7年度）

関連部署

まちづくり推進部 産業振興課

基本政策 34

地域経済が潤ったまちで生活できる

産業の振興を進め、地域内での活発な循環型経済を確立させることにより、市民が地域経済の潤った“まち”で生活できることを目指します。

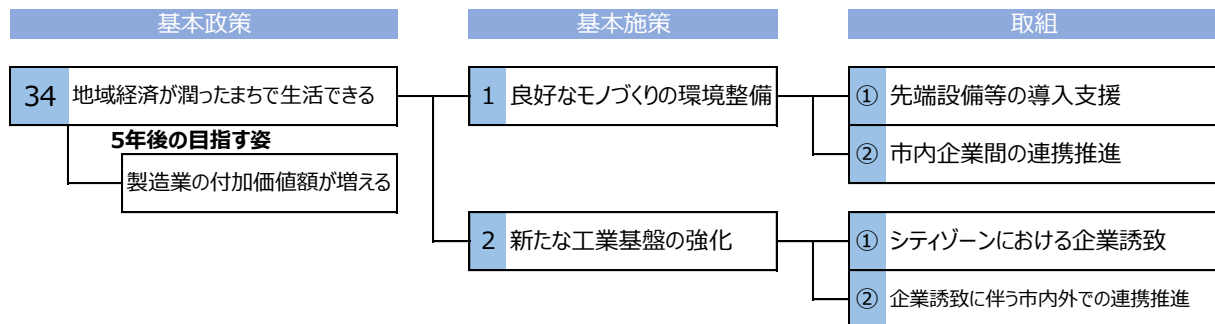
5年後の目指す姿

「製造業の付加価値額が増える」

企業の強みを生かすとともに、コスト削減や生産性の向上などにより、製造業の付加価値額の増加を目指します。

数値目標	現 状 値	目 標 値
市税全体における法人市民税の構成比	4.3% (H30)	4.5% (R7)

【ロジックモデル】



基本施策

34-1 良好なモノづくりの環境整備

工業の振興のため、農商工連携強化や市内企業間の交流促進、産業振興基金を活用した支援など、良好なモノづくりの環境整備を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	製造業の事業所数（経済センサス）	154 事業所（R1）	160 事業所（R7）

【主な取組】 先端設備等の導入支援

生産性の向上や良好なモノづくりの環境整備のため、先端設備等の導入支援に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
先端設備等導入計画の認定数（累計）	5 件（R1）	⇒ 7 件（R7）

34-2 新たな工業基盤の強化

良好な経済循環構造の構築を目指し、付加価値の向上、地域の活性化や雇用の促進が期待できる産業の創出など、新たな工業基盤の強化を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	工業立地法における特定工場 ⁶⁰ 数	3 事業所（R1）	6 事業所（R7）

【主な取組】 シティゾーンにおける企業誘致

交通利便性の高い立地環境を活かし、埼玉県企業局と共同でシティゾーンにおける企業誘致を進め、産業団地の整備に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
企業誘致の実現	—	⇒ 産業団地の整備

関連する SDGs ゴール



シティゾーンにおける企業誘致により、新たな雇用の場の創出に取り組むことで、職住近接による就労環境づくりに取り組みます。 関連ターゲット（8-5、8-8）



包摂的な産業化を進めることで、循環型地域経済を確立することにより、持続可能かつ強靱（レジリエント）な環境づくりに取り組みます。 関連ターゲット（9-1）

関連計画等

富士見市第 3 次商業活性化ビジョン（令和 3 年度～令和 7 年度）

関連部署

まちづくり推進部 まちづくり推進課、産業振興課

⁶⁰ 製造業等における一定規模以上の工場。敷地面積に対する緑地面積 20%以上など適合しなければならない要件がある。

基本政策 35

安心して農業が行える

生産地と消費地が隣り合う、都市近郊の利点などを生かし、持続可能な“農業”の実現と多面的機能を生かした“農地”の保全との両面から、環境整備を推進し、安心して農業が行える“まち”を目指します。

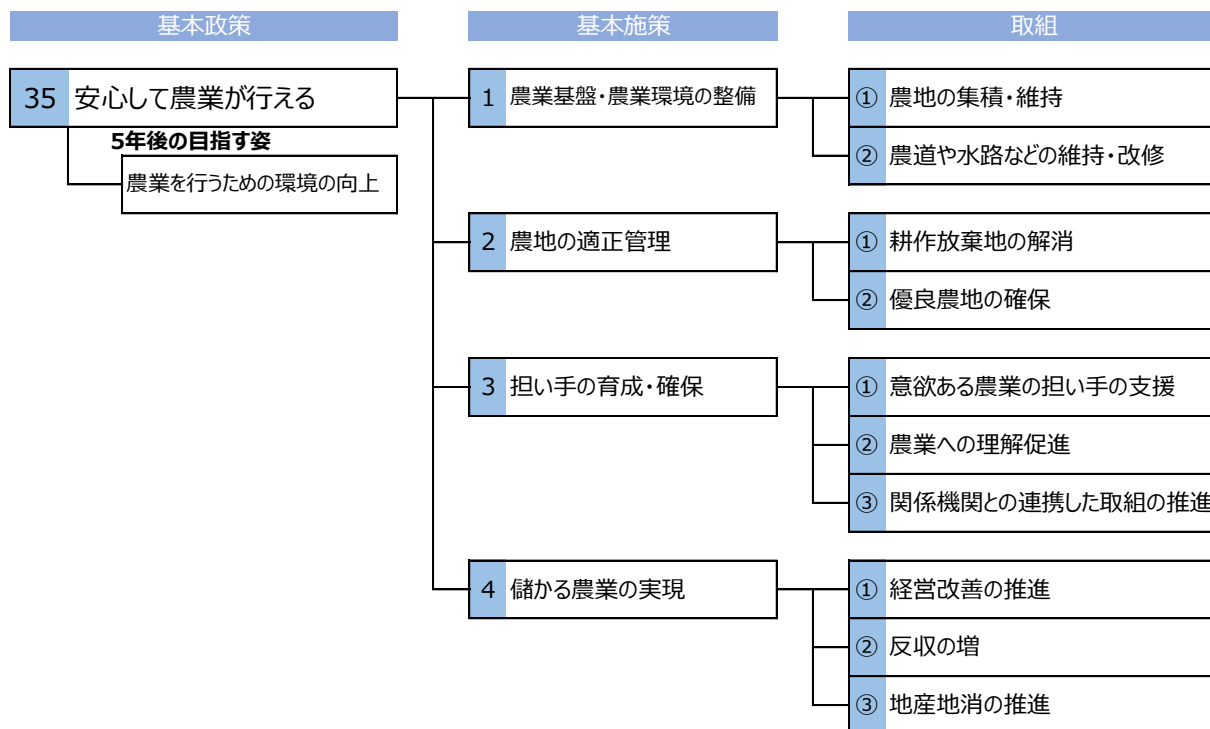
5年後の目指す姿

「農業を行うための環境の向上」

優良農地の保全を図り、生産技術の向上と安定した経営基盤づくりを進め、新規就農者を含めた農業の担い手が安心して農業を継続できるよう、農業環境の向上を目指します。

数値目標	現状値	目標値
人・農地プラン ⁶¹ 対象面積	49ha (R1)	64ha (R7)

【ロジックモデル】



⁶¹ 農業者が話し合いに基づき、地域農業における中心経営体、地域における農業の将来の在り方などを明確化し、公表したもの

基本施策

35-1 農業基盤・農業環境の整備

将来にわたっての農業振興策を見据えた優良農地の確保や、農地中間管理事業⁶²を活用した利用集積等による経営規模の拡大、農業集落における道路や水路の改修など、農業基盤・農業環境の整備を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	農地中間管理事業実施面積	約 8.8ha (R1)	12ha (R7)

【主な取組】 農地の集積・維持		
将来にわたって農業を継続できる環境を整備するため、農地の集積・維持に取り組みます。		
【KSF】	現状値	目標値
農地耕作条件改善事業 ⁶³ 実施地区数	1地区 (R1)	⇒ 2地区 (R7)

35-2 農地の適正管理

食の生産基盤を守り、良好な周辺環境を維持するため、関係者、関係団体とともに、農地の適正管理を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	耕作放棄地面積	6.2ha (R1)	維持 (R7)

【主な取組】 耕作放棄地の解消		
農業従事者の高齢化や、後継者不足などの課題に対し、将来にわたって農業を継続することができるよう、耕作放棄地の解消に取り組みます。		
【KSF】	現状値	目標値
耕作放棄地解消に向けた農業委員会と連携したパトロール	3回/年 (R1)	⇒ 5回/年 (R7)

⁶² 農地中間管理機構が所有者から農地を借受け認定農業者等がまとまりのある形で農地を利用できるように配慮して貸付ける事業

⁶³ 区画拡大などを実施するとともに、高収益作物への転換に必要な取組をハードとソフトを組み合わせ一括支援する事業

分野 26 農業

35-3 担い手の育成・確保

関係機関と連携し、営農指導など認定農業者⁶⁴の育成を推進します。また、農業後継者や新規就農希望者の不足を解消するため、県や農業関係団体などと連携し、定年帰農者、女性農業者、農福連携⁶⁵による農業者など多様な担い手の確保を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	新規就農者数（年度単位）	—	毎年度+1名以上

【主な取組】 意欲ある農業の担い手の支援

農業経営を改善し、認定農業者・認定新規就農者を増やすとともに、経営規模の拡大、良質な農産物のブランド化を目指し、農業機械、資材等の購入支援など、意欲ある農業の担い手の支援に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
認定農業者数	33 経営体 (R1)	⇒ 40 経営体 (R7)

35-4 儲かる農業の実現

生産性の向上や付加価値の向上、販路開拓など、意欲ある経営体（農家）の新たな取組や工夫を関係団体とともに支援し、収益性の高い経営モデルを確立することで、儲かる農業の実現を目指します。

KPI	指標	現状値	目標値
	経営耕地面積	510ha (R1)	維持 (R7)

【主な取組】 経営改善の推進

担い手の高齢化などによる農業労働力不足について、ICT 技術の利用による、省力化や精密化、高品質生産の実現を目指す「スマート農業」を活用し、新規就農者の確保や栽培技術力の継承など経営改善の推進に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
経営改善を行う農家への支援	—	⇒ 実施 (R7)

⁶⁴ 農業経営規模の拡大、経営の合理化などの経営改善計画を作成し、市が認定した農業経営者などのこと

⁶⁵ 障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組

関連する SDGs ゴール



食の生産基盤である農業を守るとともに、生産性の向上や付加価値の向上など、儲かる農業の実現に取り組みます。 関連ターゲット（2-1,2-3）



ICT 技術の利用による「スマート農業」の実現を支援し、持続可能で効率的な農業経営となるよう取り組みます。 関連ターゲット（12-a）

関連計画等

農業振興地域整備計画（令和2年度～）

関連部署

まちづくり推進部 産業振興課

農業委員会

基本政策 36

多様な働き方の実現

少子高齢化に伴う労働力の減少、雇用形態の多様化に対応するため、労働生産性の向上と個人のワーク・ライフ・バランスの両立に取り組み、多様な働き方が実現できる“まち”を目指します。

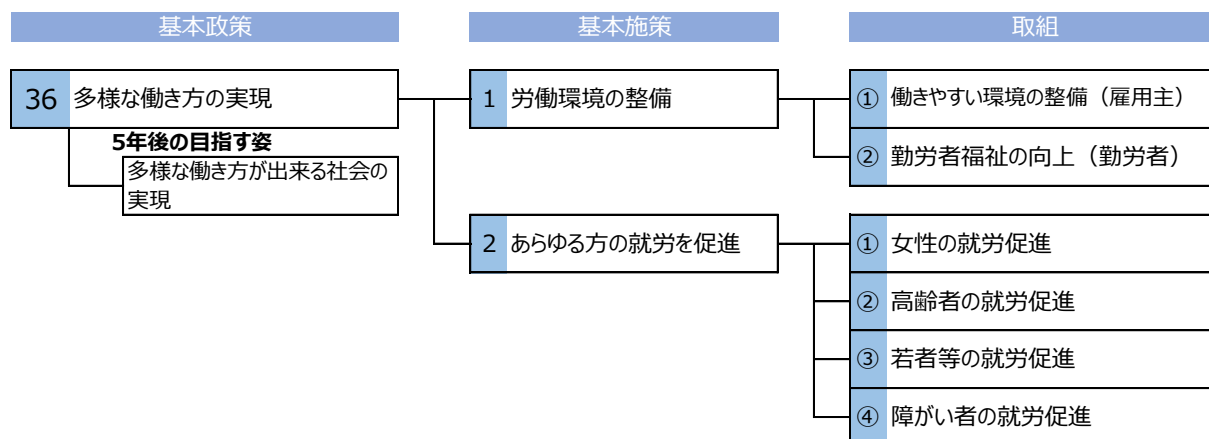
5年後の目指す姿

「多様な働き方が出来る社会の実現」

労働生産性の向上を目指し、働く時間や場所によらない柔軟な働き方の導入、ワーク・ライフ・バランスの促進など、多様な働き方が出来る社会の構築を目指します。

数値目標	現状値	目標値
就業者数（国勢調査）	52,330 人（H27）	54,100 人（R7）

【ロジックモデル】



基本施策

36-1 労働環境の整備

長時間労働の抑制、勤労者の安全、健康の確保などワーク・ライフ・バランスの促進のため、国や県等と連携し、労働環境の整備を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	働き方改革に関する取組モデル事業所（埼玉県）	0事業所（R1）	3事業所（R7）

【主な取組】働きやすい環境の整備（雇用主）

働き方改革に関し、事業所への啓発や先端設備導入などに対して支援することで、働きやすい環境を整備できるよう支援します。

【KSF】	現状値	目標値
働き方改革に関する取組に対する支援	0事業所（R1）	⇒ 3事業所（R7）

36-2 あらゆる方の就労を促進

国や県等と連携し、情報提供や就労相談体制を充実することで、あらゆる方の就労を促進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	ふるさとハローワーク ⁶⁶ における就職率	19.5%（R1）	25.0%（R7）

【主な取組】女性・高齢者の就労促進

雇用の安定及び雇用情勢、就労形態の多様化などに対応するため、国、県の機関や広域的連携によるセミナーを開催し、女性や高齢者の就労促進に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
女性のセミナー参加率	60.0%（R1）	⇒ 70.0%（R7）
高齢者のセミナー参加率	55.0%（R1）	⇒ 60.0%（R7）

【主な取組】若者等・障がい者等の就労促進

雇用の安定及び雇用情勢、就労形態の多様化などに対応しながら、誰もが安心して働くことのできる社会を目指し、ハローワークと連携した就職面接会の開催などに取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
新規学卒 ⁶⁷ ・若者就職面接会の参加事業所数	159事業所 （R1）	⇒ 170事業所 （R7）
障がい者就職面接会の参加者	延べ126名 （R1）	⇒ 延べ150名 （R7）

⁶⁶ ハローワークが設置されていない市町村で、国と市町村の共同運営により、職業相談・職業紹介などを行う機関

⁶⁷ 主に大学を卒業している方を指す言葉で、4年制大学や短期大学を卒業している市民

分野 27 就労

関連する SDGs ゴール



女性の就労促進に取り組み、女性の活躍を原動力とした成長を促すとともに、その力を十分に発揮できる環境づくりに取り組みます。 関連ターゲット（5-1,5-5,5-a）



若者や障がい者を含むあらゆる市民が安定的な雇用のもと、働きがいを感じられるよう、労働環境の整備に取り組みます。 関連ターゲット（8-5,8-6,8-8）



多様な働き方の推進などにより、あらゆる方の能力発揮が十分になされるとともに、働き方改革などを推進し、持続可能な労働生産性の確保に取り組みます。

関連ターゲット（10-1,10-2,10-3）

関連計画等

導入促進基本計画⁶⁸（平成 30 年度～令和 3 年度）

関連部署

市民生活部 人権・市民相談課

健康福祉部 障がい福祉課

まちづくり推進部 産業振興課

⁶⁸ 生産性向上特別措置法に基づき、中小企業者による先端的な技術を活用した設備等の導入を促進し、生産性の向上に資することを目的として作成した計画

基本政策 37 富士見市のファンが増え、賑わいが生まれる

市民がいつまでも「住み続けたい」と思えるようなまちづくりを進め、市への愛着が醸成されるとともに、市の魅力を積極的に発信し、市外からは「行ってみたいまち」、「住んでみたいまち」として、富士見市のファンが増加することにより、新たな賑わいが創出される“まち”を目指します。

5年後の目指す姿

「市民の市への愛着が深まる」

地域資源の活用による魅力向上とイベント等の充実により、「ふるさと富士見市」への愛着の醸成を目指します。

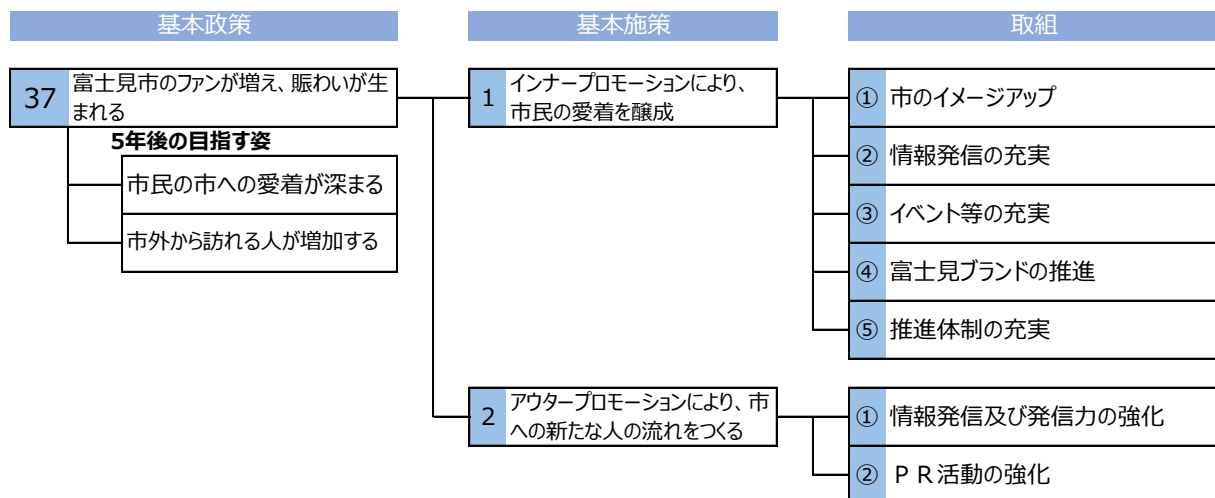
数値目標	現状値	目標値
「市に愛着を持っている人」の割合 (web アンケート)	82.5% (R2)	90.0% (R7)

「市外から訪れる人が増加する」

市外に向けた効果的な情報発信により、市への新たな人の流れを創出します。

数値目標	現状値	目標値
休日の滞在人口 ⁶⁹ の増加 (RESAS 地域経済分析システム ⁷⁰)	85,643 人 (R1)	88,000 人以上 (R7)

【ロジックモデル】



⁶⁹ 休日の指定時間（14 時）に富士見市に滞在していた人数（4 月の平均値）

⁷⁰ 産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化するシステム

基本施策

37-1 インナープロモーション⁷¹により、市民の愛着を醸成

市民がいつまでも「住み続けたい」と思えるよう、住みやすいまちづくりを進めるとともに、地域資源の活用による情報発信や各種イベント等を通じた愛着の醸成を図ります。

KPI	指標	現状値	目標値
	「住み続けたい」と回答した割合（市民意識調査）	77.4%（H30）	83.1%（R7）

【主な取組】市のイメージアップ 地域資源を活用したまちづくりにより、市の魅力向上に取り組みます。		
【KSF】	現状値	目標値
新たな資源の創出	—	⇒ 1件以上（R7）

37-2 アウタープロモーション⁷²により、市への新たな人の流れをつくる

市の認知度向上と市外からの新たな人の流れをつくるため、地域資源の活用によるPR活動や新たな広告媒体を活用した情報発信により、交流人口⁷³や関係人口⁷⁴の創出を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	認知度（地域ブランド調査）	456位（R1）	向上（R7）

【主な取組】情報発信及び発信力の強化 市外に向けて効果的な情報発信を行うため、マス広告（新聞・雑誌・テレビ・ラジオ）やセールスプロモーション広告（デジタルサイネージ、交通広告など）、インターネット広告などを活用するとともに、市職員への研修等を通じて発信力強化に取り組みます。		
【KSF】	現状値	目標値
市ホームページの年間閲覧件数	1,391,518件（R1）	⇒ 1,470,000件（R7）

⁷¹ 「住んでよかった」「住み続けたい」と思ってもらえるよう、市民に向けて行うプロモーションのこと

⁷² 「行ってみたい」「住んでみたい」と思ってもらえるよう、市外に向けて行うプロモーションのこと

⁷³ その地域を訪れる（交流する）人のこと

⁷⁴ 富士見市に住んでいる「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人のこと

分野 28 シティプロモーション

関連するSDGsゴール



新たな人の流れを創出し、地域の賑わいを創出します。

関連ターゲット (8-9)



富士見市の産業の多様化や付加価値創造に取り組みます。

関連ターゲット (9-b)



産官学民の連携により効果的なプロモーションに取り組みます。

関連ターゲット (17-17)

関連計画等

関連部署

総務部 秘書広報課

自治振興部 地域文化振興課

まちづくり推進部 産業振興課

分野 28 シティプロモーション

基本政策 38 災害に強いまちとすることができる

災害から市民の生命・財産を守るため、自助及び共助の、より一層の促進を図るとともに、公助のさらなる充実を図り、防災力を高めることで、安心して暮らすことができ、市民が災害に強い“まち”と感じることを目指します。

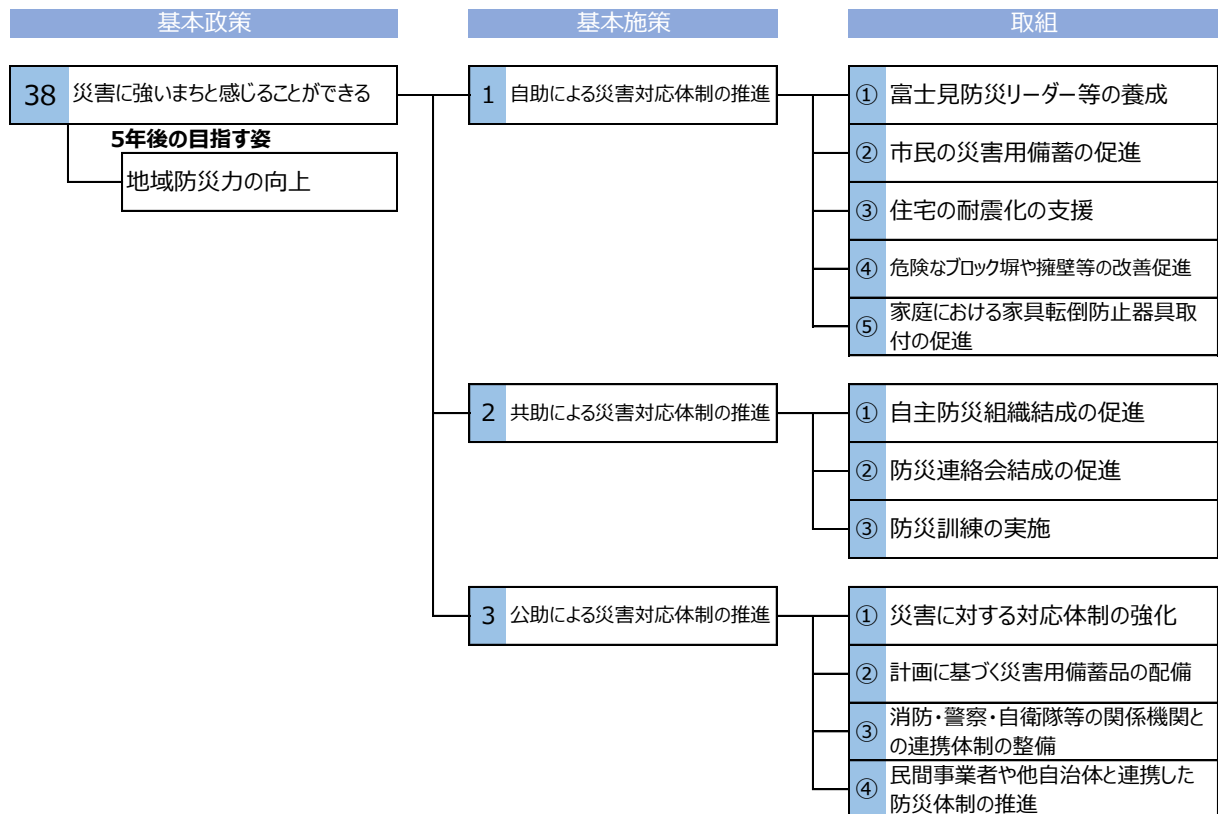
5年後の目指す姿

「地域防災力の向上」

「自分の命は自分で守る」という自助、「近所や地域の方々と助け合う」という共助、公的な支援による公助のそれぞれを充実させ、災害に対する不断の備えを主体的に進める地域防災力の向上を目指します。

数値目標	現状値	目標値
地域防災力の向上に対する満足度 (市民意識調査)	50.0% (H30)	70.0% (R7)

【ロジックモデル】



基本施策

38-1 自助による災害対応体制の推進

「自分の命は自分で守る」ことを目指し、防災に対する正しい知識と危機意識を持ち、個人や家庭などにおいて災害の備えを十分に行うなど、自助による災害対応体制を推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	3日分以上の災害用備蓄をしている人の割合 (防災アンケート)	22.2% (H29)	50.0% (R7)

【主な取組】 富士見防災リーダー⁷⁵等の養成

自助による災害対応を推進するため、防災知識に精通した地域の防災活動を担う富士見防災リーダーを養成します。

【KSF】	現状値	目標値
富士見防災リーダーの養成者数	延べ 125 人 (R1)	⇒ 延べ 165 人 (R7)

38-2 共助による災害対応体制の推進

「近所や地域の方々と助け合う」ことを目指し、学生等の若年層から高齢者まで地域全体で共に助け合う意識や災害対応力を向上させるなど、共助による災害対応体制を推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	防災訓練の参加者数 (延べ人数)	9,811 人 (H30)	17,000 人 (R7)

【主な取組】 自主防災組織結成の促進

地域防災力の向上を目指し、災害に備え、地域で協力して災害対応が図れるよう、自主防災組織の結成を促進します。

【KSF】	現状値	目標値
自主防災組織組織率	75.8% (R1)	⇒ 100% (R7)

⁷⁵ 「富士見市防災リーダー養成講座」を修了し、地域における防災知識の普及や、防災活動の先頭立って活躍している市民の方

分野 29 危機管理

38-3 公助による災害対応体制の推進

災害に対し万全を期すため、各種計画に基づく災害対応体制を構築するとともに、計画等について市民への浸透を図るなど、公助による災害対応体制を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	富士見市防災ガイドブックの認知度（防災アンケート）	—	75.0%（R7）

【主な取組】 計画に基づく災害用備蓄品の配備

災害に備え、迅速かつ適切な災害対応が行えるよう体制及び設備の強化を図るとともに、備蓄計画に基づき計画的に災害用備蓄品を適所に配備します。

【KSF】	現状値	目標値
備蓄計画に定めた食糧備蓄に対する充足率	79.5%（R1）	⇒ 100%（R7）

関連するSDGsゴール



自助・共助・公助を推進することにより、人の命・財産を守るとともに、総合的な災害リスクの管理を行います。 関連ターゲット（11-5、11-b）



様々なパートナーシップを推進し、経験や知識、技術を共有し、災害リスクの軽減に向け協力していきます。 関連ターゲット（17-16、17-17）

関連計画等

富士見市地域防災計画

関連部署

総務部 安心安全課

基本政策 39

様々な危機事案の予防と被害抑制により安全安心なまちで暮らすことができる

地震や水害といった災害のほか、武力攻撃事態や様々な市民の危機に対する予防と被害抑制のための対応体制を確立し、より安全安心に暮らせる“まち”を目指します。

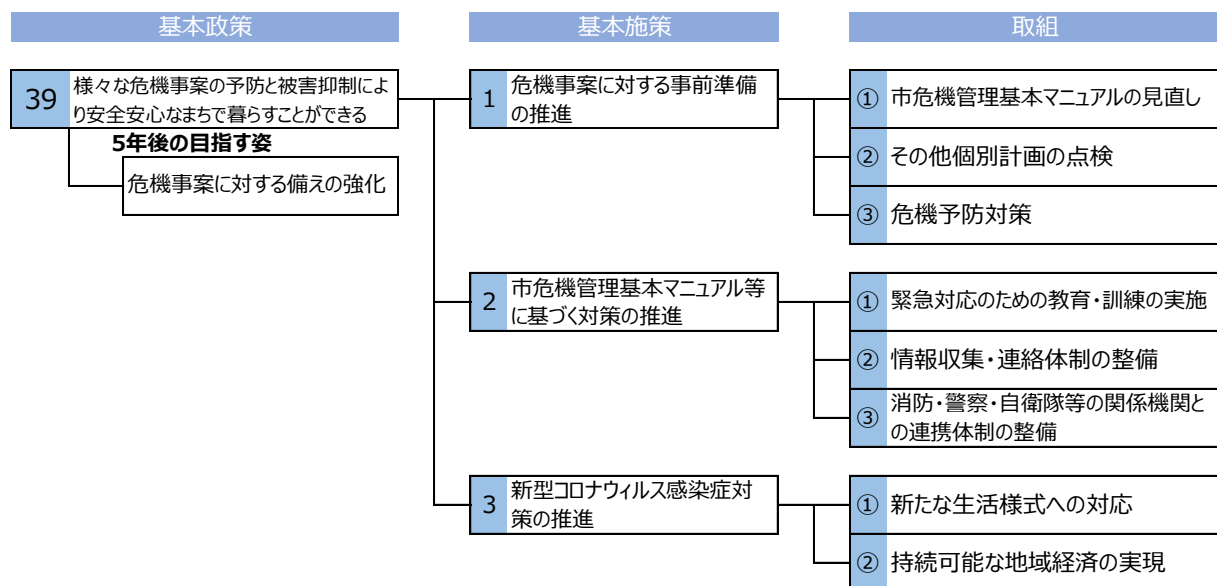
5年後の目指す姿

「危機事案に対する備えの強化」

様々な危機事案を想定し、国や県の計画に基づいた市の計画等を整備することにより、迅速な対応ができるよう、危機事案に対する備えを強化します。

数値目標	現状値	目標値
国・県の計画・指針に対する市の計画の充足率	100% (R2)	維持 (R7)

【ロジックモデル】



基本施策

39-1 危機事案に対する事前準備の推進

様々な危機事案に対応するため、事案ごとに個別の対応マニュアルを作成するなど、事前準備を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	危機事案別の個別マニュアル整備割合	—	100% (R7)

【主な取組】 市危機管理基本マニュアルの見直し

時代に即した「市危機管理基本マニュアル」となることを目指し、内容を定期的に点検し、市の体制や情勢等を踏まえ、適時見直しを行います。

【KSF】	現状値	目標値
市危機管理基本マニュアルの点検	— ⇒	実施 (R7)

39-2 市危機管理基本マニュアル等に基づく対策の推進

市の施設の管理や行事等を行う上で発生し得る危機要因を排除するため、計画管理や利用時の安全点検を実施し、訓練や予防対策など市危機管理基本マニュアル等に基づく対策を推進します。

KPI	指標	現状値	目標値
	想定される危機に対する予防対策の実施割合	100% (R2)	維持 (R7)

【主な取組】 消防・警察・自衛隊等の関係機関との連携体制の整備

危機事案に備え、関係機関と迅速な対応が図れるよう、平時から消防・警察・自衛隊等と連携した訓練を実施するなど、関係機関との連携体制を整備します。

【KSF】	現状値	目標値
関係機関と連携した訓練実施回数	1回/年 (R1) ⇒	2回/年 (R7)

分野 29 危機管理

39-3 新型コロナウイルス感染症対策の推進

新型コロナウイルス感染症の拡大防止と、新しい生活様式に対応した社会基盤の形成に取り組むとともに、コロナ禍においても持続可能な地域経済の実現を目指します。

	指標	現状値	目標値
KPI	感染症に対応して生活している市民割合 (WEB アンケート)	96.4% (R2)	100% (R7)

【主な取組】 新たな生活様式への対応

感染拡大防止対策など社会環境の整備を進めるとともに、情報通信技術などを活用することで、安全で魅力あるライフスタイルの確立に向け取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
3 密対策に向けた支援の実施	—	⇒ 実施 (R7)

関連する SDGs ゴール



地域の事業者や雇用者を守り、経済的成長を継続できるよう、経済支援に取り組みます。 関連ターゲット (8-1)



すべての人が安心した日常生活を送れるよう、持続可能かつ強靱 (レジリエント) なインフラ整備などに取り組みます。 関連ターゲット (9-1)



人の命・財産を守るとともに、総合的な危機事案に対するリスク管理を行います。 関連ターゲット (11-b)



様々なパートナーシップを推進し、経験や知識、技術を共有し、危機の軽減に向け協力していきます。 関連ターゲット (17-16、17-17)

関連計画等

富士見市危機管理基本マニュアル

関連部署

総務部 安心安全課

健康福祉部 健康増進センター

その他全部署

基本政策 40

市民の役に立つ所になる

基本構想に掲げる理想の“未来”の実現に向け、市民が「富士見市に住んで良かった」と感じることができ、充実した日々を送ることができるよう、市民の視点に立ったサービス提供を総合的に推進し、市役所がその名のとおり、市民の役に立つ所となることを目指します。

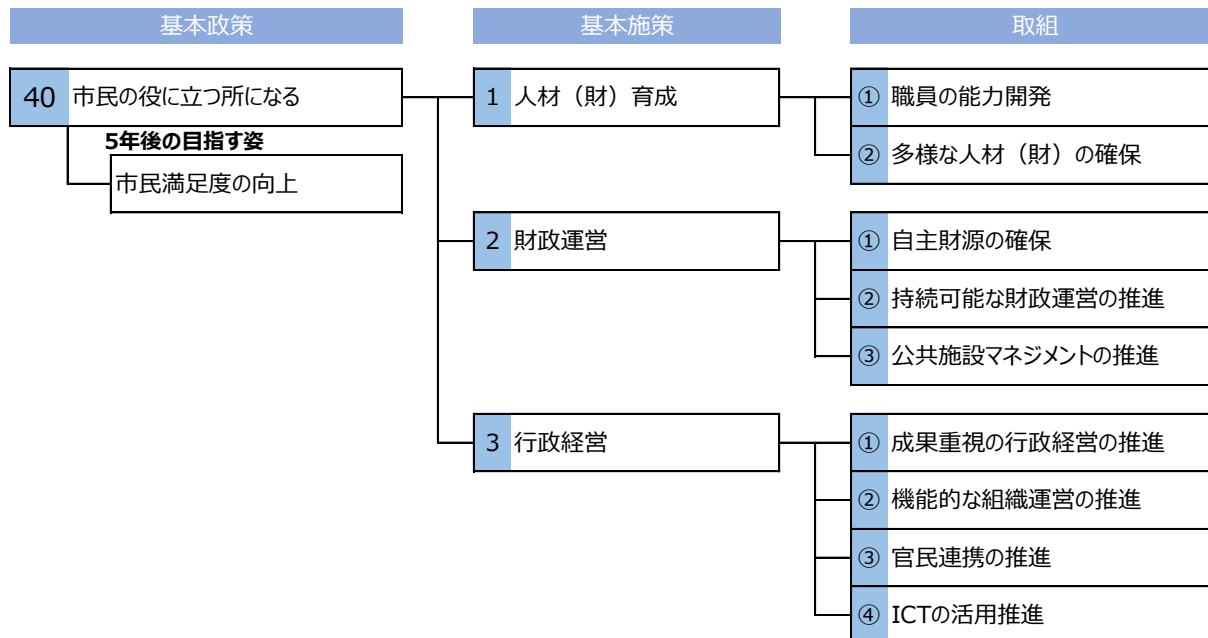
5年後の目指す姿

「市民満足度の向上」

市民ニーズを的確に把握し、社会情勢の変化に迅速に対応していくことで、個人の暮らしや人とのつながりを充実させるとともに、生活環境の向上と市の成長を促進させ、市民満足度を向上させていくことを目指します。

数値目標	現状値	目標値
行政運営に対する満足度 (市民意識調査)	—	75.0% (R7)

【ロジックモデル】



基本施策

40-1 人材（財）育成

質の高い行政運営を行うため、市民に信頼され、期待される人材（財）の育成を推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	職員の対応や印象等に対する肯定的評価の割合 (市民意識調査)	—	75.0% (R7)

【主な取組】 職員の能力開発

各種職員研修や、人事評価制度を通じた職員の育成などにより、改善意識やコスト意識を持ち、市民福祉の増進に向け、実行できる人材（財）を育成します。

【KSF】	現状値	目標値
1年に1回以上研修受講する職員の割合	73.1% (R1)	⇒ 80.0% (R7)

40-2 財政運営

安定した市政の運営ができるよう、「富士見市健全な財政運営に関する条例」に基づいた財政規律の維持・向上に努めるほか、人口減少などにも対応した公共施設マネジメント⁷⁶を推進することで、健全な財政運営を推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	実質収支比率 ⁷⁷	3.3% (R1)	3.0~5.0% (毎年度)

【主な取組】 自主財源の確保

弾力的な財政構造の構築を図るため、自立的な税収基盤の整備を推進するほか、使用料・手数料の適正化や効果的な基金の活用など、自主財源の確保に努めます。

【KSF】	現状値	目標値
自主財源比率 ⁷⁸	52.2% (R1)	⇒ 55.0%以上 (R7)

⁷⁶ 安全で安心な公共施設機能の提供と安定した財政運営を両立するため、市が保有する全ての公共施設について、総合的かつ統括的に、企画、管理及び利活用を進め、経費の削減や平準化を行うもの

⁷⁷ 自治体の財政規模に対する収支の割合。収支が黒字ならば正の数、赤字ならば負の数になる

⁷⁸ 収入総額に対し、自主財源の占める割合のこと

分野 30 総合行政

40-3 行政経営

機能的な組織による計画的な行政運営を実現するとともに、市民や企業、NPO などの連携推進や ICT の活用など、柔軟で実行力のある行政経営を推進します。

	指標	現状値	目標値
KPI	第 6 次総合計画・第 1 期基本計画における K P I の達成率	—	90.0% (R7)

【主な取組】官民連携の推進

多様化する市民ニーズに適切に対応していくため、民間事業者のノウハウや資金のさらなる活用や新たな連携手法の導入など官民連携の推進に取り組みます。

【KSF】	現状値	目標値
新たに外部の力を活用した事業数	—	⇒ 22 件 (R7)

関連する SDG s ゴール



情報公開などに努め、市民が行政活動を知ることができ、コンプライアンスの推進など信頼できる行政運営を進めます。 関連ターゲット (16-6)



富士見市の理想の“未来”の実現のため、市民、企業、NPO に加え、国や県など多様な関係者との連携を進めながら行政運営を進めます。

関連ターゲット (17-17)

関連計画等

富士見市第 7 次行財政改革大綱 (令和 3 年～令和 7 年)

第 2 期富士見市キラリと輝く創生総合戦略 (令和 3 年～令和 7 年)

関連部署

総務部 総務課、職員課

総合政策部 政策企画課、財政課、情報システム課、管財課

市民生活部 税務課、収税課